
令和7年度 泉南市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
在宅介護実態調査

調査結果報告書

令和8(2026)年3月

泉 南 市

目 次

I 介護予防・日常生活圏域二エズ調査	1
調査の概要	1
集計結果	5
問1 あなたの家族や生活状況について	5
問2 からだを動かすことについて	10
問3 食べることについて	15
問4 毎日の生活について	19
問5 地域での活動について	25
問6 就労について	27
問7 たすけあいについて	28
問8 健康や介護予防について	32
問9 地域づくりについて	39
問10 認知症について	44
問11 在宅生活の継続について	49
問12 地域防災について	52
リスク判定	54
調査結果の総括	59
調査に用いた調査票	61
II 在宅介護実態調査	65
調査の概要	65
集計結果	66
調査結果の総括	83
調査に用いた調査票	84

I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査の概要

(1) 調査目的

泉南市第10期地域包括ケア計画（高齢者福祉計画・介護保険事業計画・認知症施策推進計画）の策定にあたり、高齢者の生活実態や、自立した生活を送る上での課題、今後の意向等をよりの確に把握し、地域の実態に適した施策を推進していくためにアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の対象と実施方法

調査対象	令和7(2025)年9月30日現在、65歳以上の人で、 <u>無作為に抽出した5,400人(65～74歳 2,700人、75歳以上 2,700人)</u> <u>ただし、要介護認定を受けている方を除く。</u> <u>※前回調査とは対象者の設定が異なります。</u> 前回調査の対象者の設定 令和4(2022)年9月30日現在、65歳以上の人で、 <u>65～74歳：無作為に抽出した2,000人</u> <u>75歳以上：次の方を除いて、全員</u> ①要介護1以上の方 ②特別養護老人ホーム、グループホーム、病院等の施設入所者
調査方法	配布・回収とも郵送による 対象者全員に礼状と催促状を兼ねたはがきを送付（1回）
調査期間	令和7(2025)年12月11日から12月26日
回収状況	発送数：5,325件 不達数：13件 到達数：5,312件 回収数：4,149件 無効回答数：20件 有効回答数：4,129件 有効回答率：77.7%（前回調査（R4実施）77.6%）

※圏域別の有効回答件数及び回答率

	全体	六尾の郷 担当		なでしこりんくう 担当	
		A圏域	B圏域	C圏域	D圏域
発送数	5,325	1,331	1,327	1,336	1,331
到達数	5,312	1,329	1,325	1,328	1,330
有効回答数	4,129	1,067	1,022	1,032	1,008
有効回答率	77.7%	80.3%	77.1%	77.7%	75.8%

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

※各設問の母数n (Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ及び集計表内の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

(3) 回答者の属性

① 圏域、年齢、性別

単位：%

		母数(n)	日常生活圏域			
			A圏域	B圏域	C圏域	D圏域
全体		4,129	25.8	24.8	25.0	24.4
性別	男性	1,799	25.2	25.3	25.5	24.0
	女性	2,330	26.3	24.3	24.6	24.8
年齢	65～74歳	1,996	26.1	24.9	24.6	24.4
	75～84歳	1,745	26.1	24.9	24.0	25.0
	85歳以上	388	23.5	23.5	31.4	21.6
性・年齢	男性：前期高齢者	876	24.8	26.3	25.5	23.5
	男性：後期高齢者	923	25.7	24.4	25.6	24.4
	女性：前期高齢者	1,120	27.1	23.8	24.0	25.1
	女性：後期高齢者	1,210	25.6	24.8	25.1	24.5

② 認定該当状況別

単位：%

		母数(n)	認定該当状況			
			一般高齢者	要支援1	要支援2	総合事業対象者
全体		4,129	92.2	3.2	4.1	0.5
性年齢	男性：前期高齢者	876	98.4	0.5	1.0	0.1
	男性：後期高齢者	923	91.0	4.1	4.3	0.5
	女性：前期高齢者	1,120	97.9	0.7	1.4	0.0
	女性：後期高齢者	1,210	83.2	6.9	8.7	1.2
日常生活圏域	A圏域	1,067	92.9	2.5	4.3	0.3
	B圏域	1,022	93.8	3.0	2.4	0.7
	C圏域	1,032	90.8	4.1	4.5	0.7
	D圏域	1,008	91.1	3.3	5.3	0.4

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

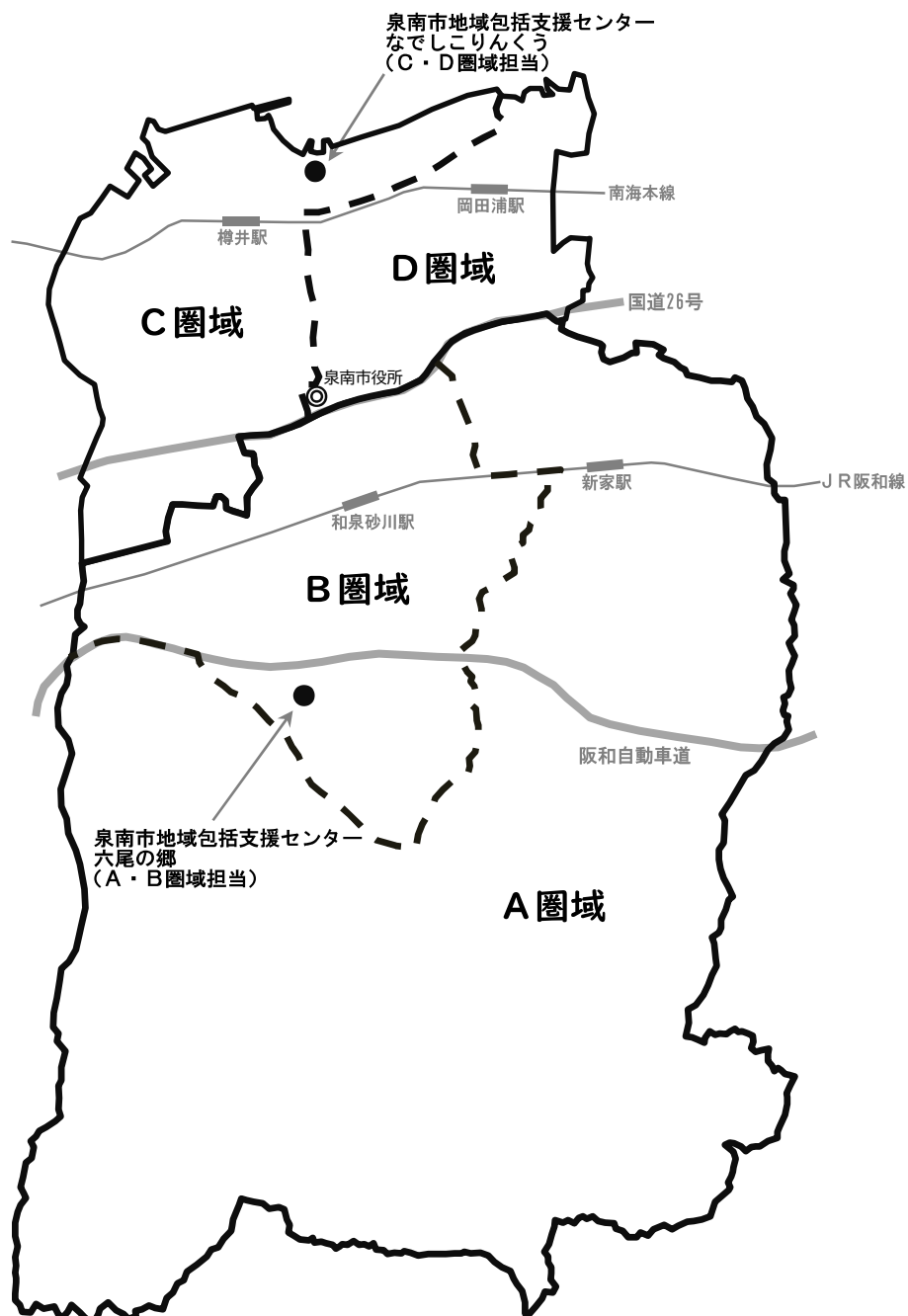
③ 回答の記入者

単位：％

		母数(n)	記入者			
			あて名のご本人	ご家族	その他	無回答
全体		4,129	83.2	6.1	0.2	10.5
性年齢	男性：前期高齢者	876	85.8	5.6	0.1	8.4
	男性：後期高齢者	923	78.8	8.1	0.2	12.9
	女性：前期高齢者	1,120	89.3	2.0	0.2	8.6
	女性：後期高齢者	1,210	79.1	8.8	0.2	11.8
日常生活圏域	A圏域	1,067	83.5	6.8	0.1	9.6
	B圏域	1,022	85.8	5.1	0.1	9.0
	C圏域	1,032	82.0	5.8	0.2	12.0
	D圏域	1,008	81.5	6.7	0.4	11.3
認定該当状況	一般高齢者	3,805	84.3	5.3	0.1	10.4
	要支援1	133	76.7	10.5	0.0	12.8
	要支援2	170	67.1	21.8	1.8	9.4
	事業対象者	21	66.7	9.5	0.0	23.8

※日常生活圏域

A圏域	新家、兎田、別所、信達大苗代、信達金熊寺、信達童子畑、信達楠畑、信達葛畑
B圏域	国道26号より南東(和泉山脈側)の信達市場または信達牧野、信達岡中、信達六尾
C圏域	樽井1～7丁目、男里、幡代、馬場、りんくう南浜
D圏域	国道26号線より北西(大阪湾側)の信達市場または信達牧野、樽井8～9丁目、鳴滝、中小路、北野、岡田

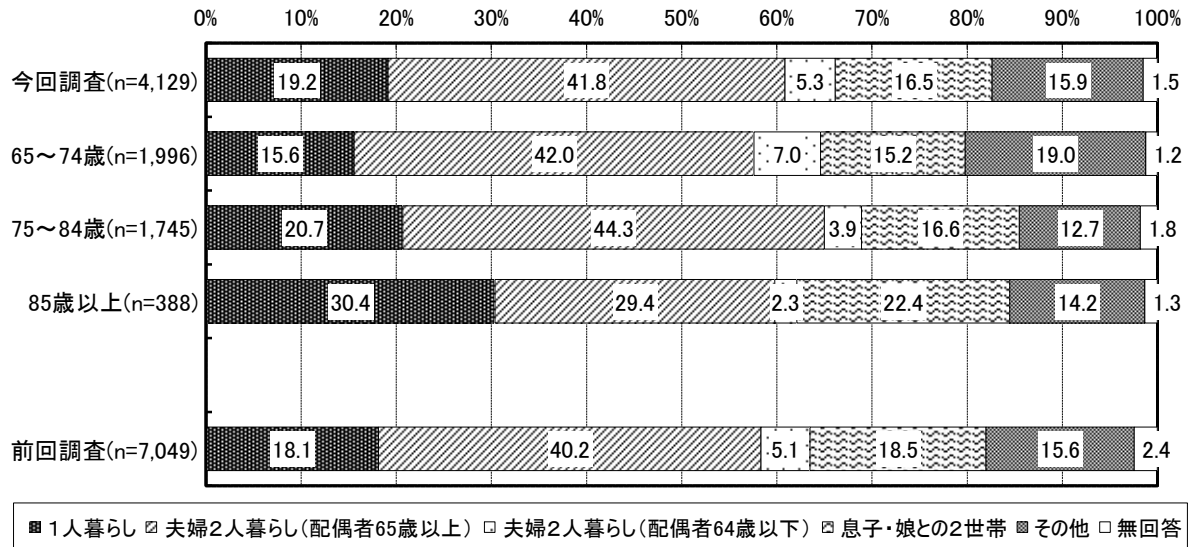


集計結果

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成

問1-1 家族構成をお教えてください。(1つだけ)



○「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が41.8%と最も多く、高齢夫婦のみで暮らしている世帯が中心となっています。次いで「1人暮らし」が19.2%、「息子・娘との2世帯」が16.5%と続いており、単身世帯や家族と同居する世帯も一定程度見られます。

○年齢が上がるにつれて単身世帯の割合が高まっています。

※前回調査とは対象者の設定が異なるため、今回調査と前回調査とでは回答者の年齢構成が大きく異なります。このため、前回調査との比較分析を行う上で、今回調査の年齢構成に合わせてウェイトバック集計を行った結果を「前回調査」として表記しています。(以下、すべて同じ。)

ウェイトバック集計の例

◆外出を控えていますか。(1つだけ)

年齢	65～74歳	75～84歳	85歳以上
今回調査の回答者数 a	1,996	1,745	388

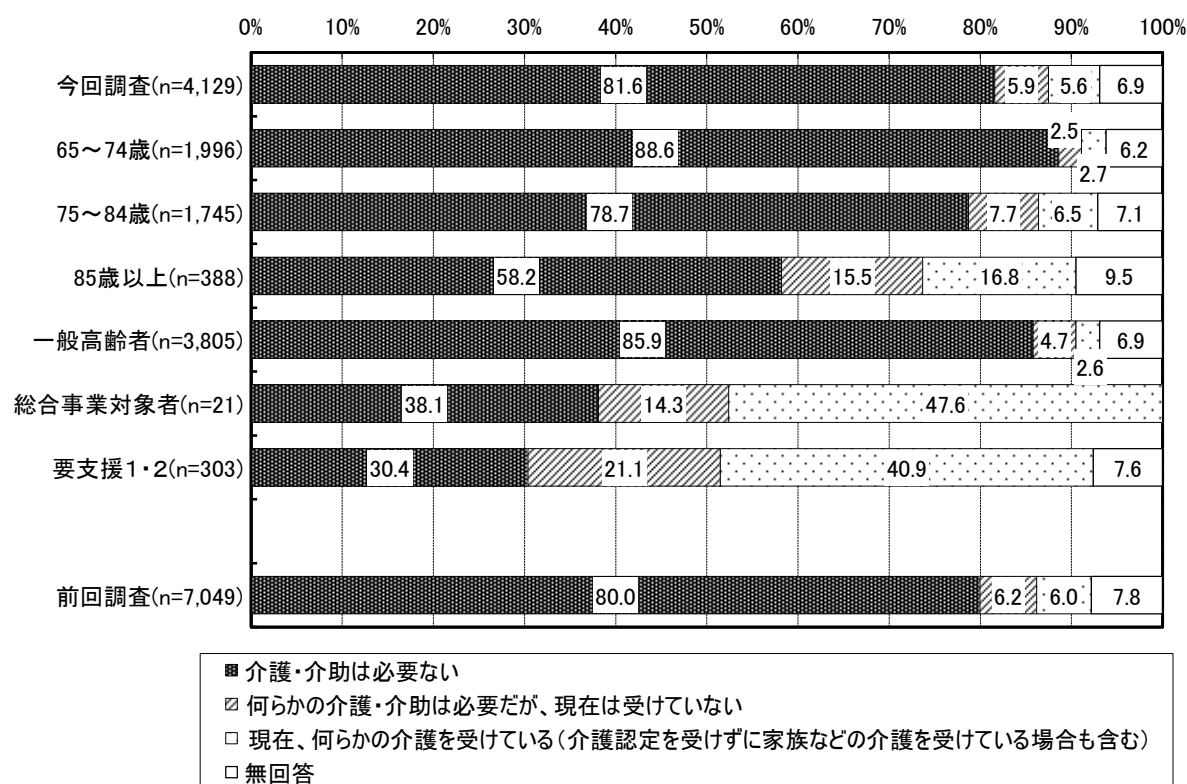
年齢	65～74歳		75～84歳		85歳以上		ウェイトバック集計	
計算式	b	c=a*b	b	c=a*b	b	c=a*b	cの合計	構成比
はい	38.3%	764	48.2%	841	63.2%	245	1,850	44.8%
いいえ	58.0%	1,158	48.0%	838	32.0%	124	2,120	51.3%
無回答	3.7%	74	3.8%	66	4.8%	19	159	3.9%
計	100.0%	1,996	100.0%	1,745	100.0%	388	4,129	100.0%

b：前回調査の構成比

c：今回調査の回答者数にあてはめた場合の選択肢ごとの回答者数

(2) 介護・介助の状況

問1-2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つだけ)

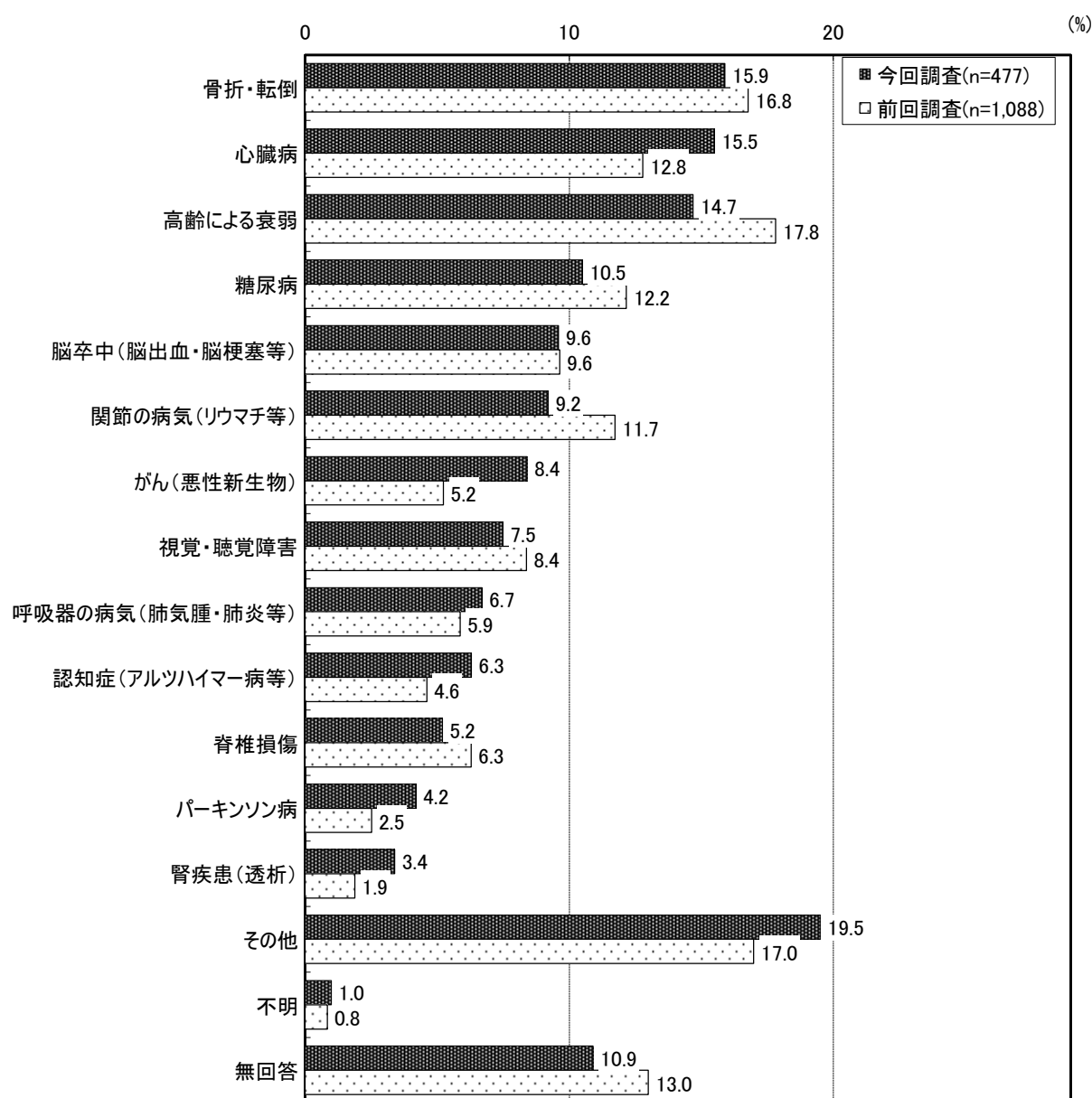


○「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」(5.9%)、「現在、何らかの介護を受けている」(5.6%)を合わせると11.5%となっています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問1-2で「2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「3 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と答えた方のみ、お答えください。

問1-2-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）



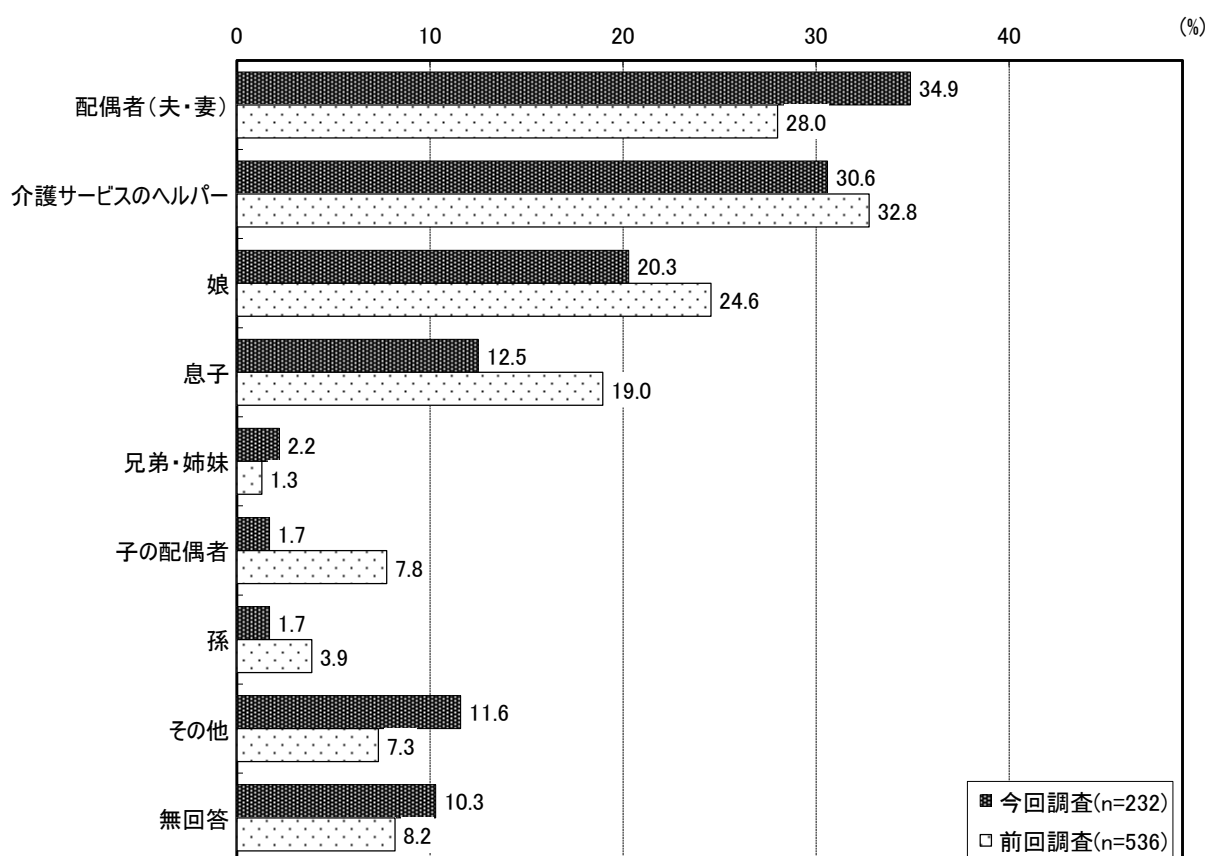
○介護・介助が必要になった主な原因としては、「骨折・転倒」が15.9%、「心臓病」が15.5%、「高齢による衰弱」が14.7%、「糖尿病」が10.5%、「脳卒中」が9.6%、「関節の病気」が9.2%などとなっており、疾病だけでなく、転倒や加齢に伴う心身機能の低下も大きな要因となっています。

○選択肢「その他」で記述された内容を整理すると、多い順に腰痛・脊柱管狭窄症などの腰・背骨の疾患（15件）、膝・股関節など下肢の関節疾患や痛み（14件）、歩行困難・下肢機能障害（8件）、心臓・血管・高血圧など循環器系疾患（8件）、精神疾患・認知症・物忘れ（7件）、骨折・事故後遺症・手術後の不調（7件）などとなっています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問1-2で「3 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」と答えた方（介護・介助を受けている方）のみ、お答えください。

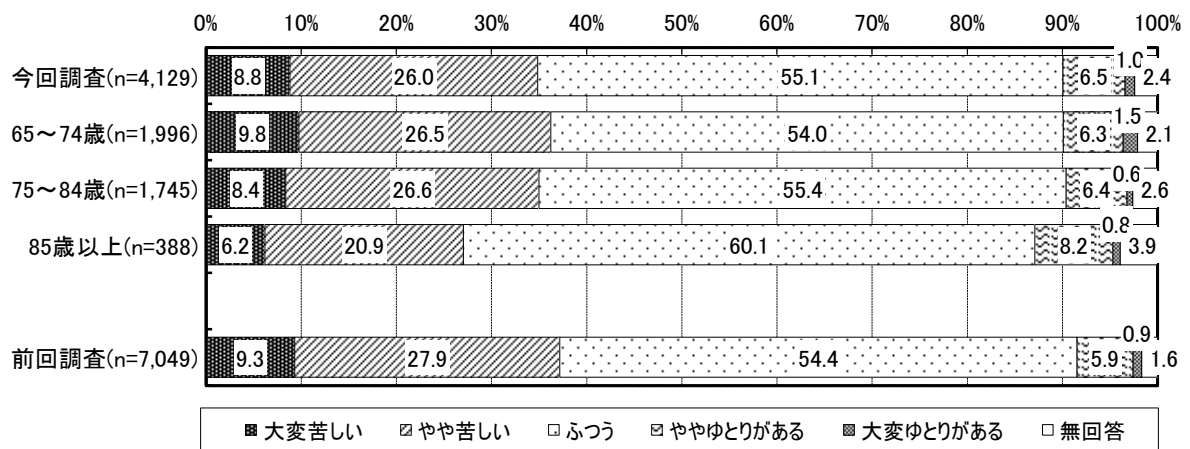
問1-2-2 “主に” 誰の介護・介助を受けていますか。（いくつでも）



- 介護・介助の担い手については、「配偶者（夫・妻）」が34.9%と最も多く、次いで「介護サービスのヘルパー」が30.6%、「娘」が20.3%、「息子」が12.5%となっており、家族介護が中心である一方、介護サービスも大きな役割を担っている状況となっています。
- 前回調査の結果と比べると、「配偶者（夫・妻）」が増え、「息子」「娘」が減っています。

(3) 経済状況

問1-3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つだけ)

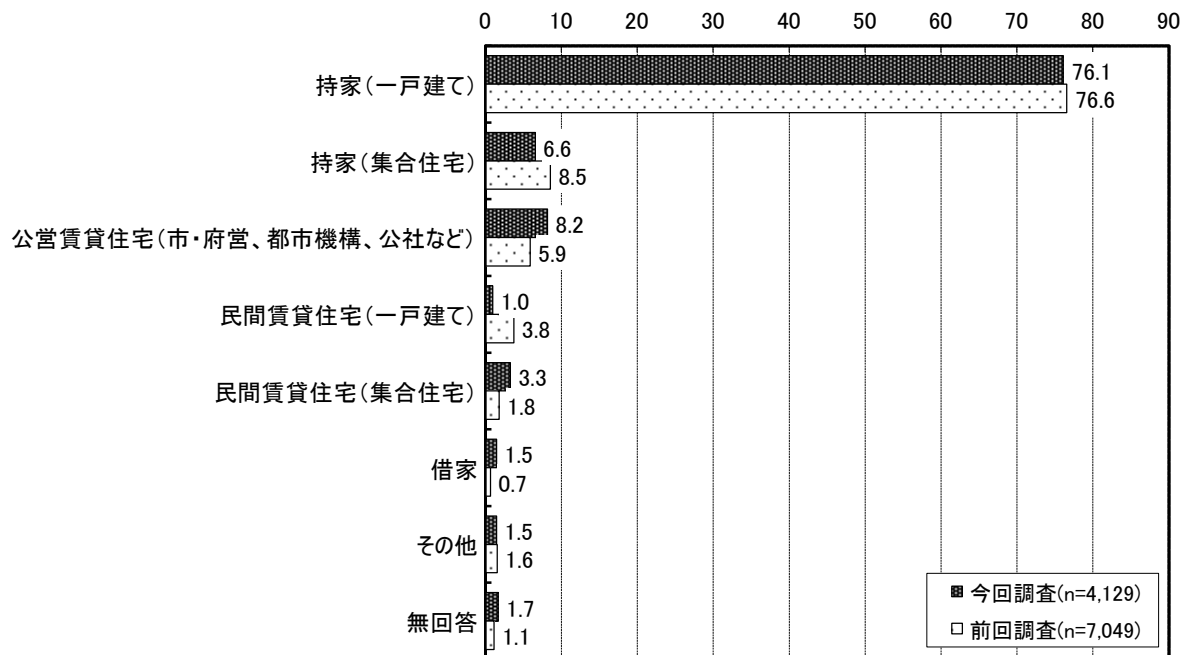


○暮らしの状況を経済的にみて「ふつう」が55.1%と最も多くなっていますが、「大変苦しい」(8.8%)と「やや苦しい」(26.0%)を合わせると34.8%となっており、経済的な負担感を抱える人も少なくありません。

○年齢別にみると、85歳以上は「ふつう」とする人が60.1%とやや多く、その他の年齢層に比べると経済的な苦しさの自覚はやや少ない傾向となっています。

(4) 住まいの状況

問1-4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つだけ)

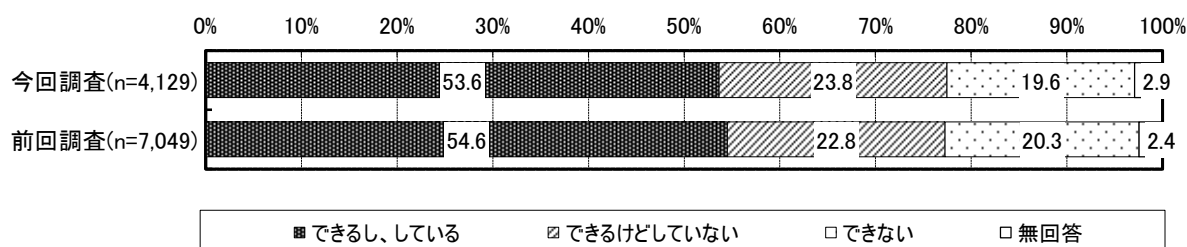


○住まいについては、「持家(一戸建て)」が76.1%と圧倒的に多く、次いで「公営賃貸住宅」が8.2%、「持家(集合住宅)」が6.6%、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が3.3%と持家戸建て中心の居住構造となっています。

問2 からだを動かすことについて

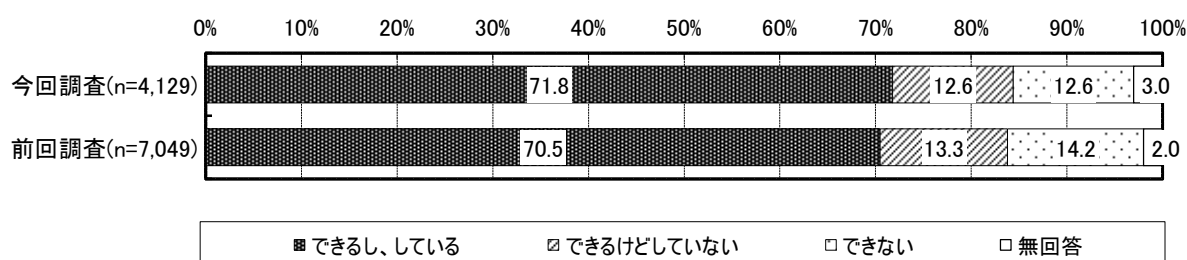
(1) 運動・転倒の状況

問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つだけ)



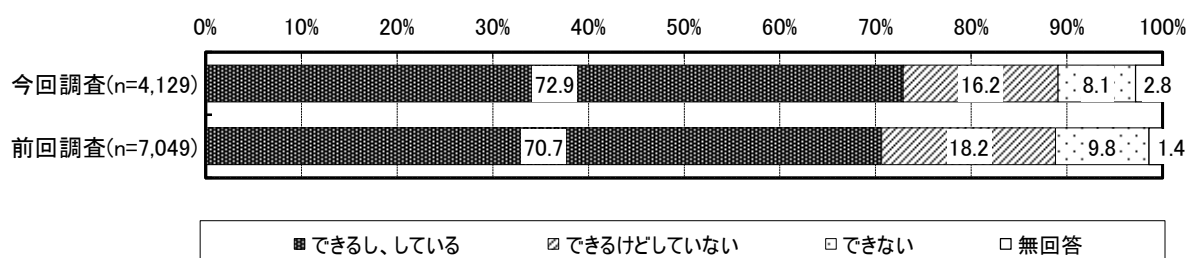
○階段昇降については、「できるし、している」が53.6%と全体としては日常生活動作が保たれている人が多い状況となっています。一方で、「できない」人も19.6%見られ、一定の運動機能低下が存在しています。

問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つだけ)



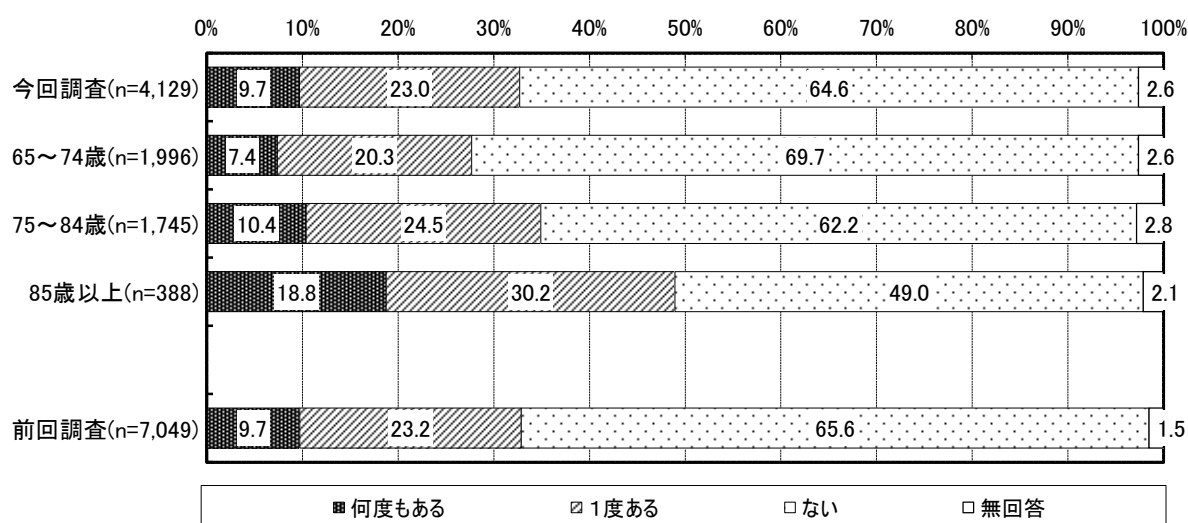
○椅子からの立ち上がりについては、「できるし、している」が71.8%と多く、日常生活に必要な下肢筋力は概ね維持されている人が多いと考えられます。ただし、「できない」人も12.6%見られます。

問2-3 15分位続けて歩いていますか。(1つだけ)



○15分程度の継続歩行については、「できるし、している」が72.9%と多く、移動能力は全体として比較的保たれています。

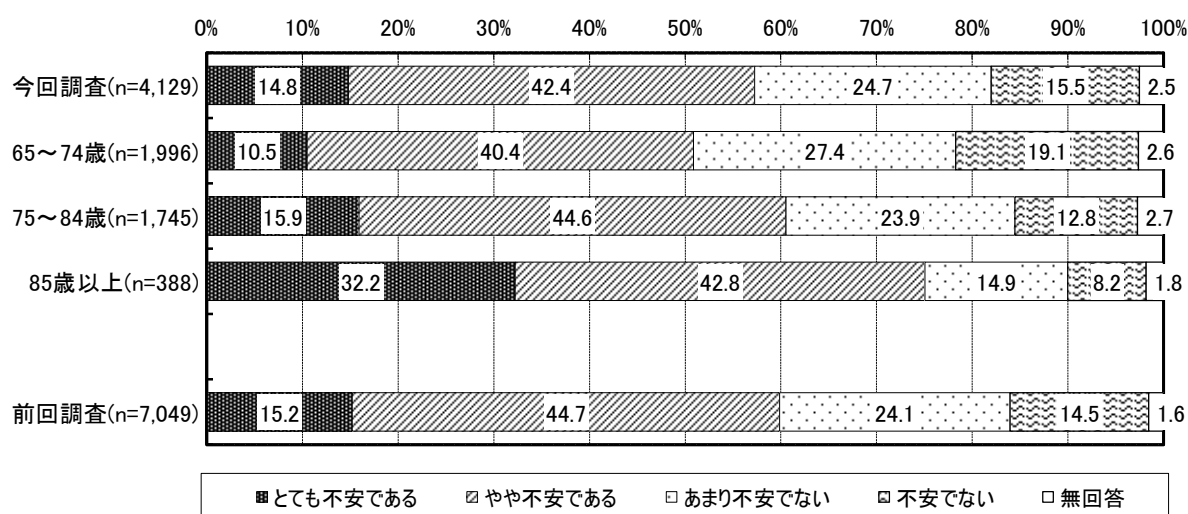
問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つだけ)



○過去1年間の転倒経験については、「ない」が64.6%と最も多いものの、「1度ある」(23.0%)や「何度もある」(9.7%)を合わせると32.7%が転倒を経験しています。

○年齢別にみると、85歳以上で「何度もある」が18.8%、「1度ある」が30.2%となっており、転倒歴ありが約半数となっています。

問2-5 転倒に対する不安は大きいですか。(1つだけ)

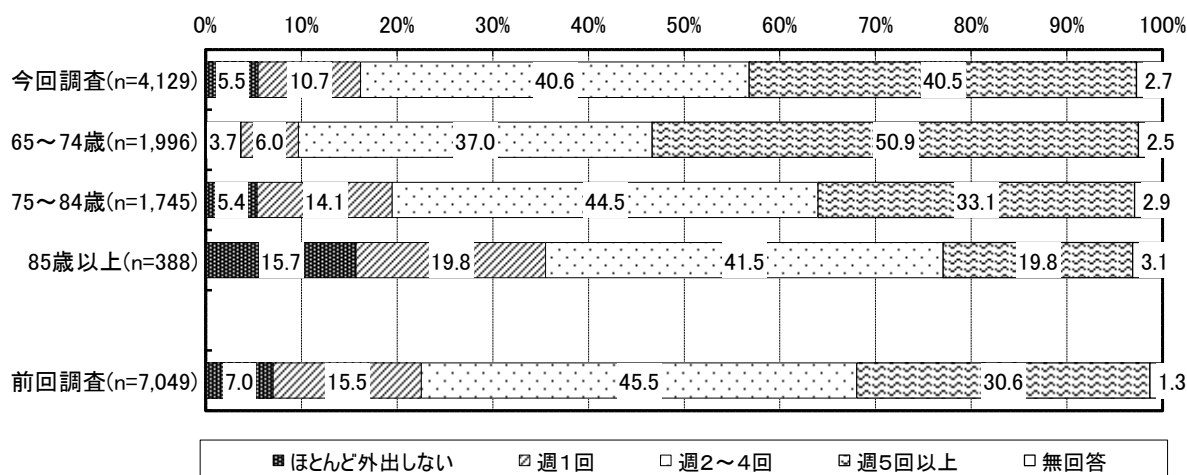


○転倒に対する不安については、「やや不安である」が42.4%と最も多く、「とても不安である」の14.8%を合わせると57.2%と、多くの高齢者が転倒に不安を感じている状況となっています。

○年齢別にみると、85歳以上で「とても不安である」が32.2%と多く、転倒予防の取り組みが重要となっています。

(2) 外出の状況

問2-6 週に1回以上は外出していますか。(1つだけ)

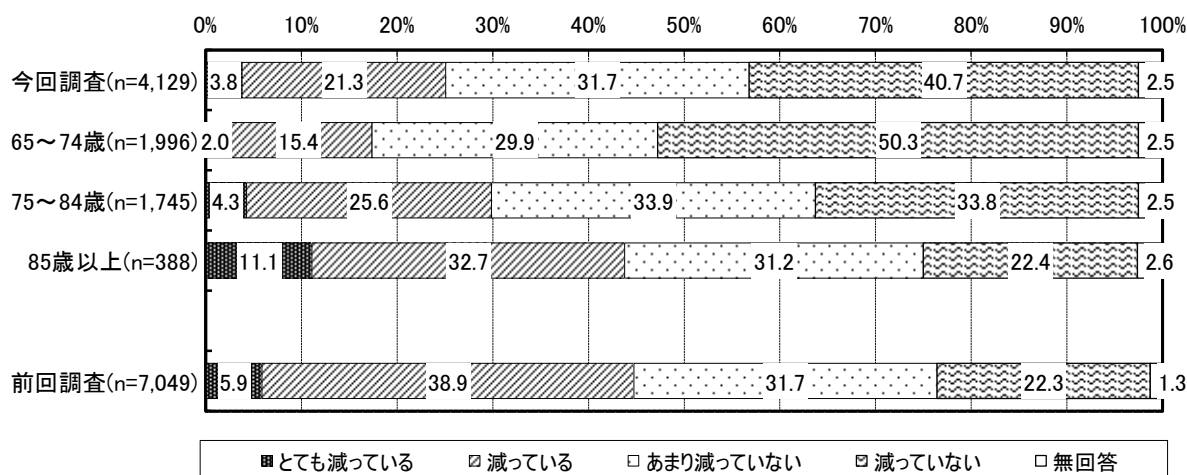


○外出頻度については、「週2~4回」が40.6%、「週5回以上」が40.5%で、週2回以上外出している人が大半となっています。

○年齢別にみると、85歳以上で「ほとんど外出しない」が15.7%、「週1回」が19.8%となっており、外出頻度の低下が明らかとなっています。

○前回調査の結果と比べると、外出頻度が高くなっています。

問2-7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つだけ)

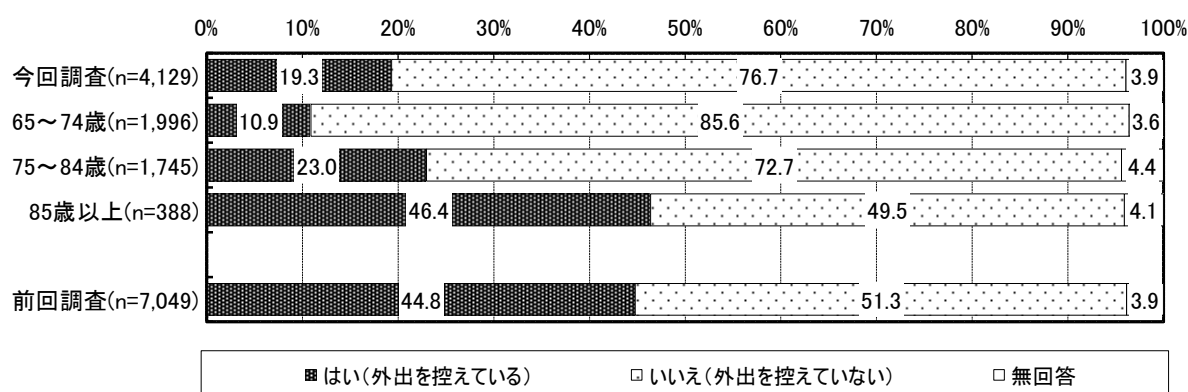


○昨年と比べた外出回数については、「減っていない」が40.7%、「あまり減っていない」が31.7%と減少感のない人が多数となっています。一方、「減っている」が21.3%、「とても減っている」が3.8%と外出回数が減っている人も一定程度存在します。

○年齢別にみると、85歳以上で「減っている」が32.7%、「とても減っている」が11.1%と多く、外出頻度の低下が進んでいます。

○前回調査の結果と比べると、外出回数が減っている人が少なくなっています。

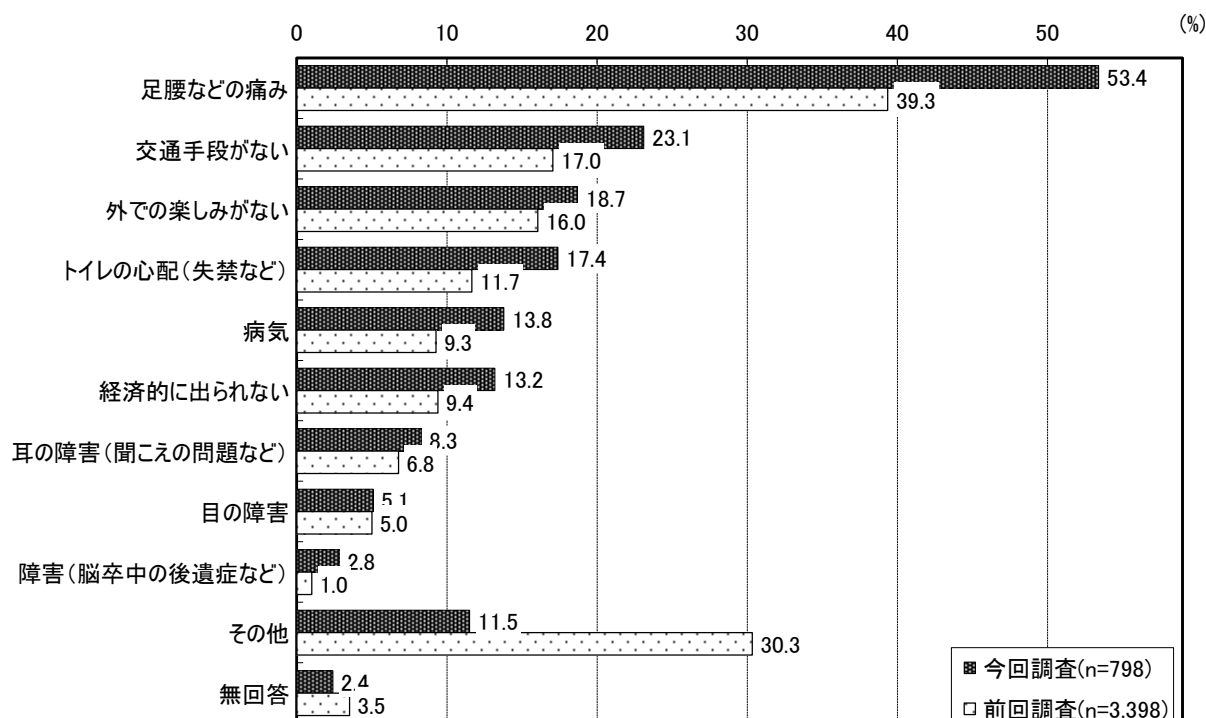
問2-8 外出を控えていますか。(1つだけ)



- 外出を控えているかについては、「はい（外出を控えている）」が19.3%、「いいえ（外出を控えていない）」が76.7%となっています。
- 年齢別にみると、85歳以上で「はい」が46.4%と半数近くに達しています。
- 前回調査の結果と比べると、外出を控える人が減っています。

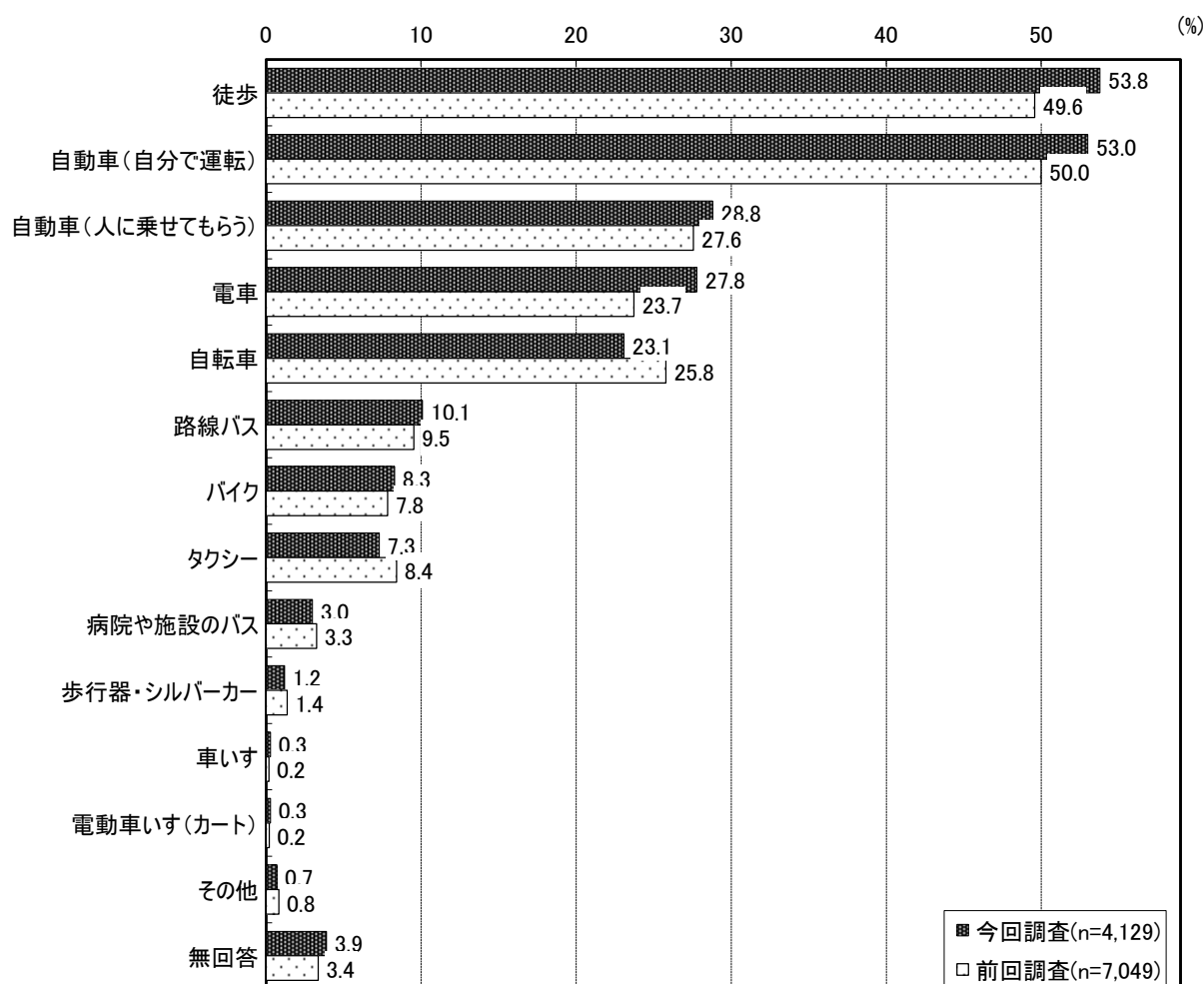
問2-8で「1 はい（外出を控えている）」と答えた方のみ、お答えください。

問2-8-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)



- 外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が53.4%と最も多く、次いで「交通手段がない」が23.1%、「外での楽しみがない」が18.7%、「トイレの心配」が17.4%、「病気」が13.8%、「経済的に出られない」が13.2%などとなるなど、身体的要因に加え、移動手段の不足や外出意欲の低下も大きな理由となっています。
- 前回調査の結果と比べると、「その他」（コロナ禍によるものなど）が大きく減少し、「足腰などの痛み」が多くなっています。

問2-9 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも)

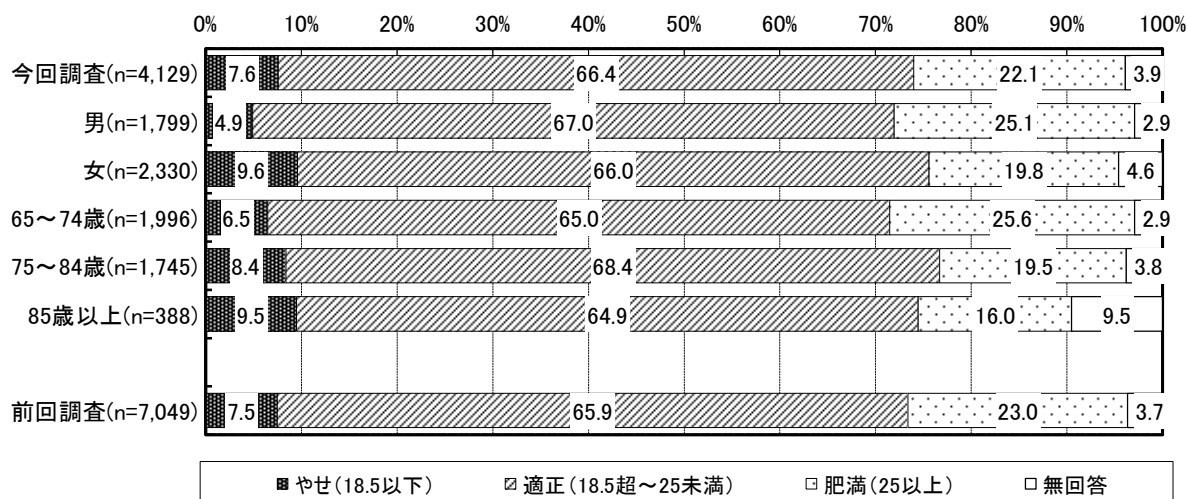


○外出時の移動手段としては、「徒歩」が53.8%、「自動車（自分で運転）」が53.0%と多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が28.8%、「電車」が27.8%、「自転車」が23.1%と、徒歩と自動車が主要な移動手段となっています。

問3 食べることについて

(1) 栄養の状況

問3-1 身長・体重を教えてください。

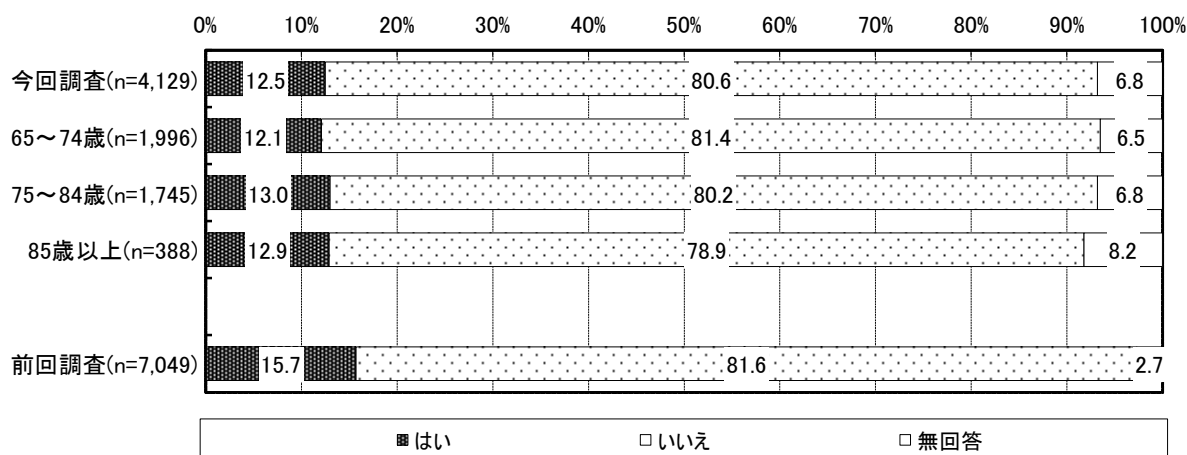


○身長と体重からBMI（体格指数）を求めてみると、「適正（18.5超～25未満）」が66.4%と最も多く、「肥満（25以上）」が22.1%、「やせ（18.5以下）」が7.6%となっています。全体としては適正体重が中心となっていますが、肥満と低栄養の両面への配慮が必要となっています。

○性別にみると、男性は「肥満」が25.1%、女性は「やせ」が9.6%で、それぞれやや多く、男性は生活習慣病予防、女性は低栄養予防が課題となっています。また、年齢別にみると、85歳以上で「やせ」が9.5%とやや多く、「肥満」は16.0%と減っています。

問3-8 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。（1つだけ）

※体重に関する設問のため、設問の順序を変えて紹介しています。

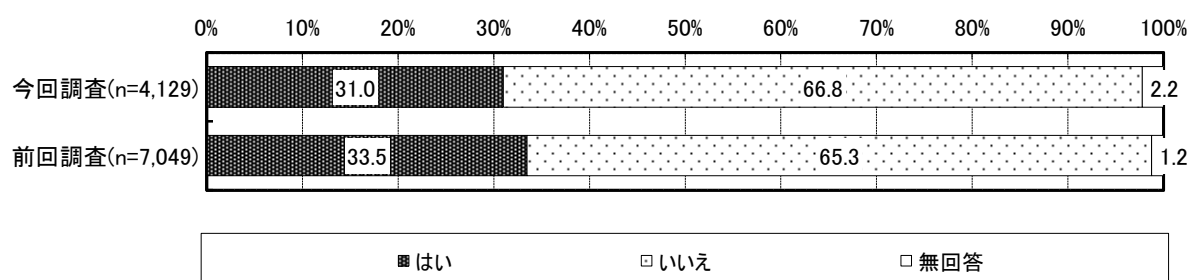


○体重減少については、「はい」が12.5%、「いいえ」が80.6%となっています。

○年齢別の差は大きくありませんが、低栄養予防の観点から継続的な把握が必要となっています。

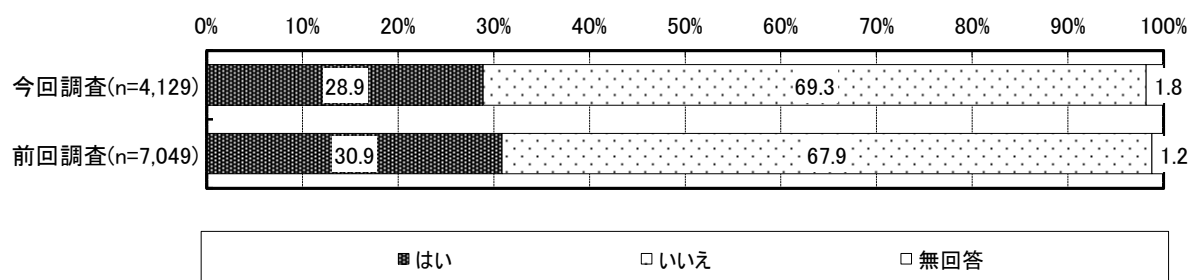
(2) 口腔の状況

問3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つだけ)



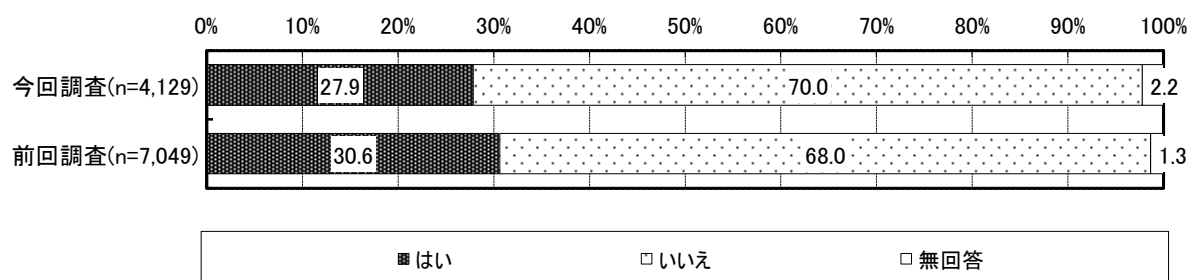
○固いものの食べにくさについては、「はい」が31.0%、「いいえ」が66.8%と、3割が咀嚼機能の低下を自覚しています。

問3-3 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つだけ)



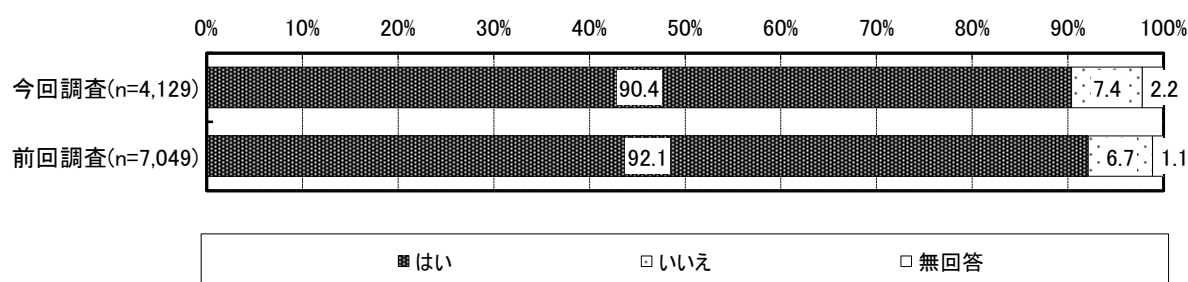
○むせについては、「はい」が28.9%、「いいえ」が69.3%となっています。

問3-4 口の渇きが気になりますか。(1つだけ)



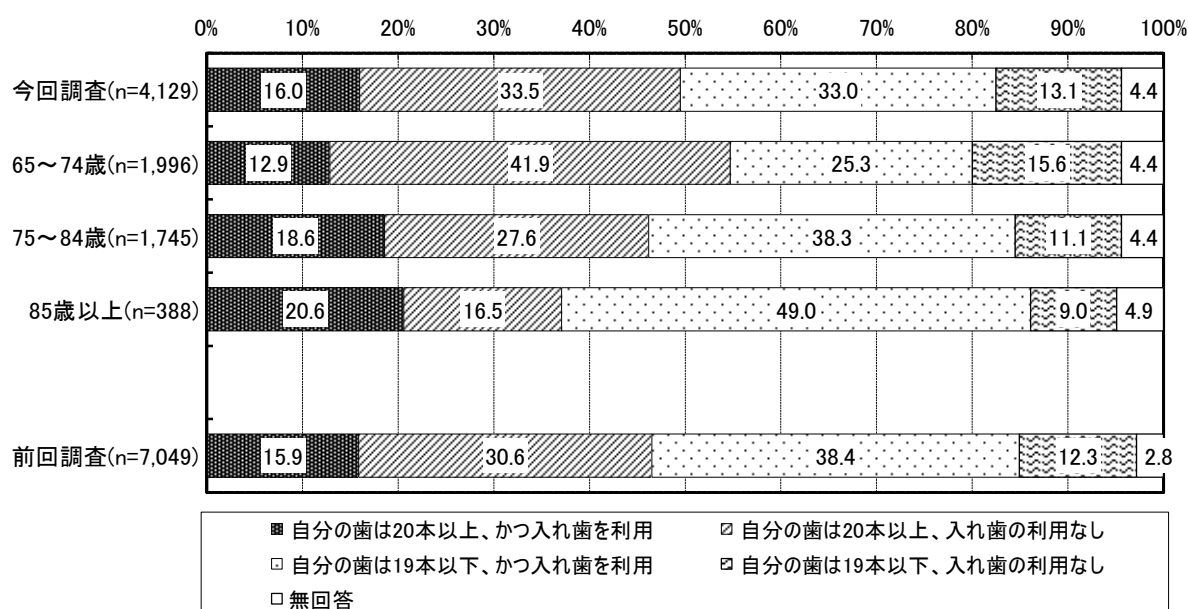
○口の渇きについては、「はい」が27.9%、「いいえ」が70.0%となっています。

問3-5 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（1つだけ）



○歯磨きについては、「はい」が90.4%と大半を占めており、口腔衛生習慣は概ね定着しているといえます。

問3-6 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（1つだけ）



○歯の数と入れ歯の状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が33.5%、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が33.0%と同程度で多く、口腔の状態が二分されている様子が見られます。

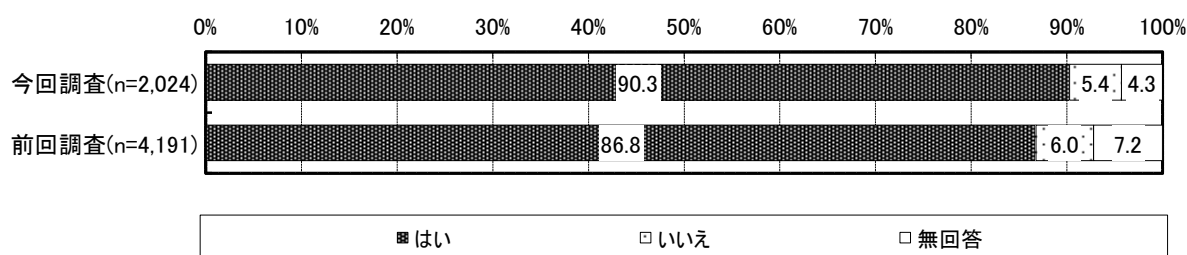
○年齢別にみると、65～74歳で「20本以上・入れ歯なし」が41.9%と多い一方、85歳以上では16.5%と少なくなり、「19本以下・入れ歯利用」が49.0%と多くなっています。

○前回調査の結果と比べると、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が増え、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が減っています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

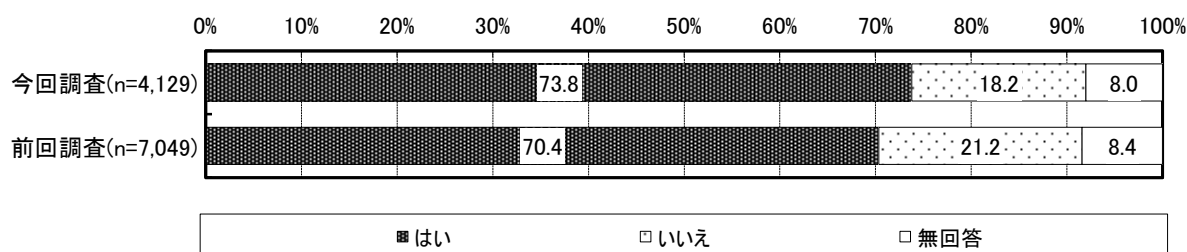
問3-6で「1 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」または「3 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えた方のみ、お答えください。

問3-6-1 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つだけ)



○入れ歯の手入れについては、「はい」が90.3%と大半を占めており、入れ歯利用者の多くが日常的に手入れを行っています。

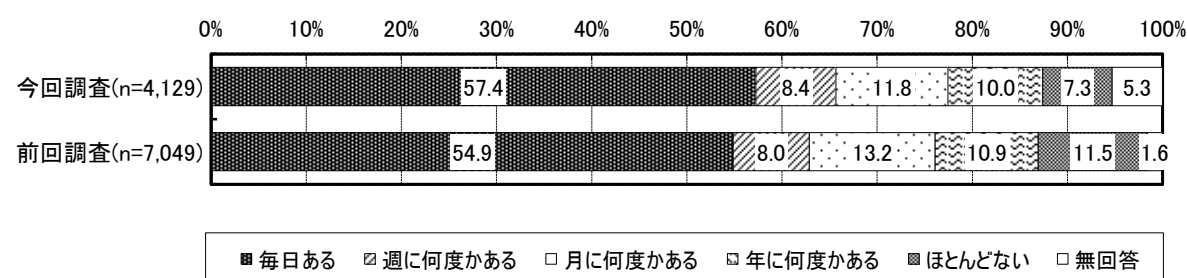
問3-7 噛み合わせは良いですか。(1つだけ)



○噛み合わせについては、「はい」が73.8%と多く、概ね良好な人が中心となっています。一方で、「いいえ」も18.2%見られます。

(3) 共食・孤食の状況

問3-9 どなたかと食事をとる機会がありますか。(1つだけ)

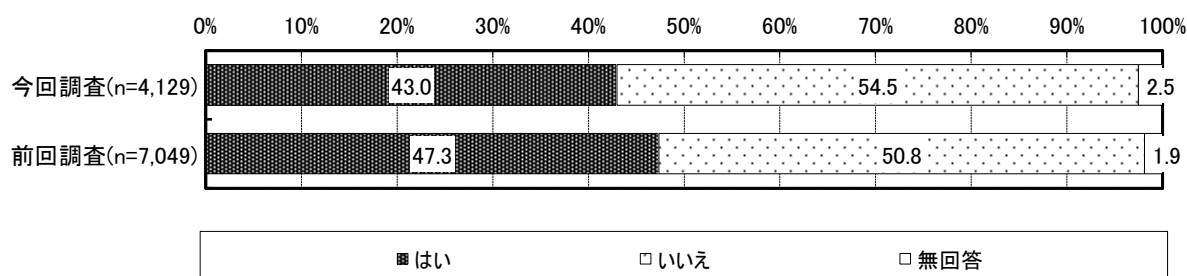


○食事をとる機会については、「毎日ある」が57.4%と最も多く、家族や周囲との食事機会が一定程度保たれていますが、「ほとんどない」とする人も7.3%見られます。

問4 毎日の生活について

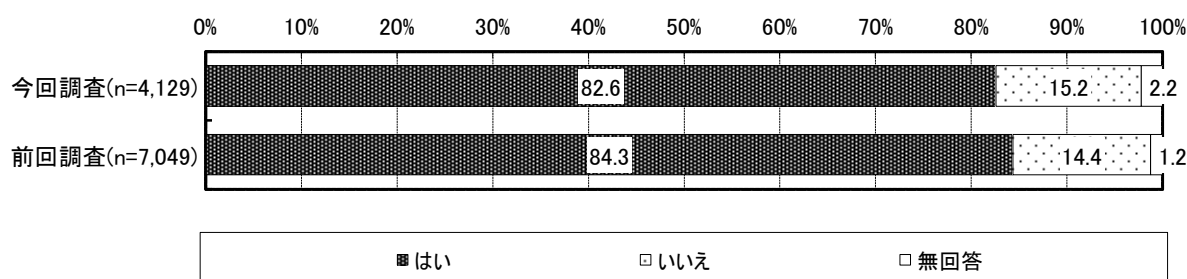
(1) 物忘れの状況

問4-1 物忘れが多いと感じますか。(1つだけ)



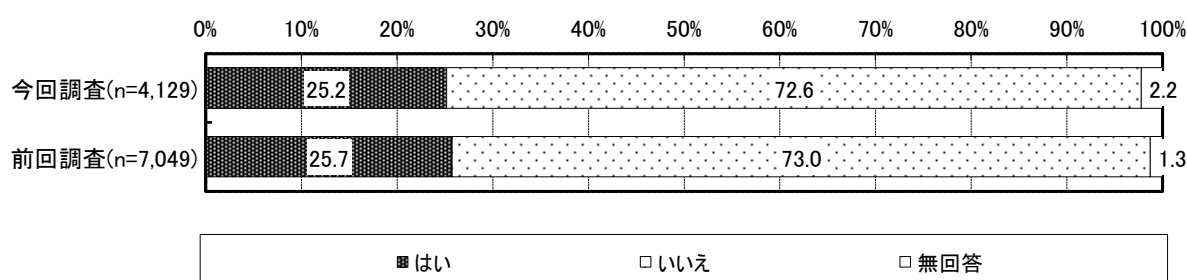
○物忘れについては、「はい」が43.0%、「いいえ」が54.5%となっており、物忘れを自覚している人が少なくありません。

問4-2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つだけ)



○電話をかけることについては、「はい」が82.6%と多く、全体としては日常的な生活機能が保たれています。

問4-3 今日が何月何日かわからない時がありますか。(1つだけ)

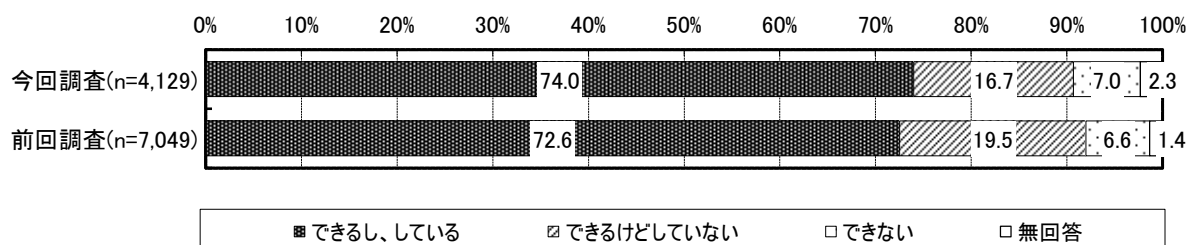


○日付の認識については、「はい」が25.2%、「いいえ」が72.6%となっています。

(2) I ADLの状況

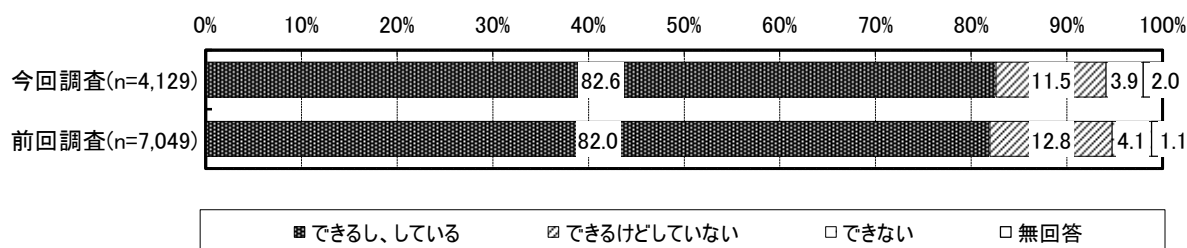
※IADL (Instrumental Activities of Daily Living) : 「手段的日常生活動作」と訳され、日常生活で行う動作の中で手段的、つまり少し複雑になる動作のことを言います。

問4-4 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(1つだけ)



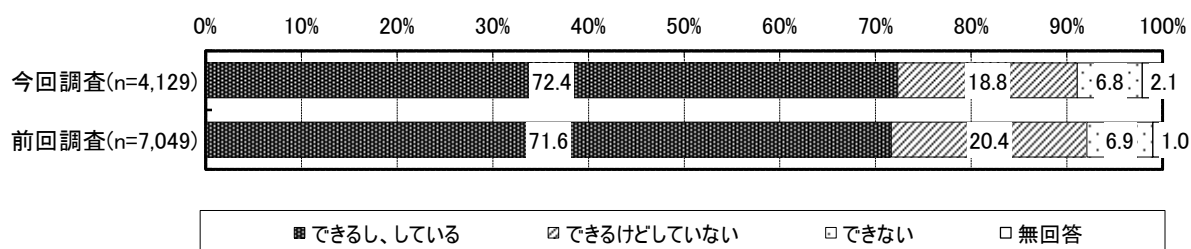
○1人での外出については、「できるし、している」が74.0%と多く、自立した移動ができている人が中心となっています。

問4-5 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つだけ)



○買物については、「できるし、している」が82.6%と大半を占めています。

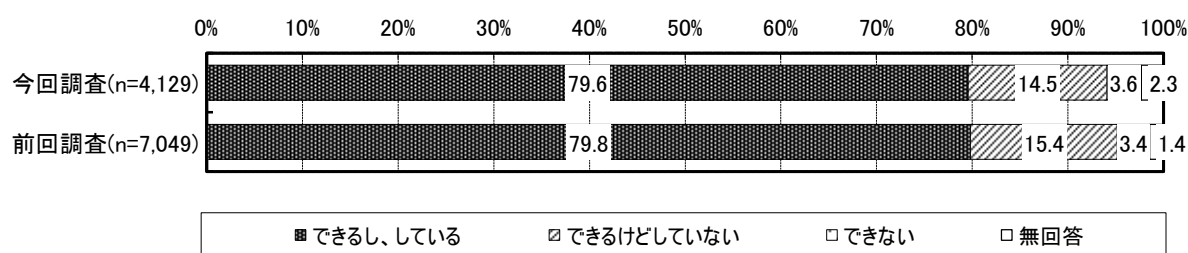
問4-6 自分で食事の用意をしていますか。(1つだけ)



○食事の用意については、「できるし、している」が72.4%となっています。

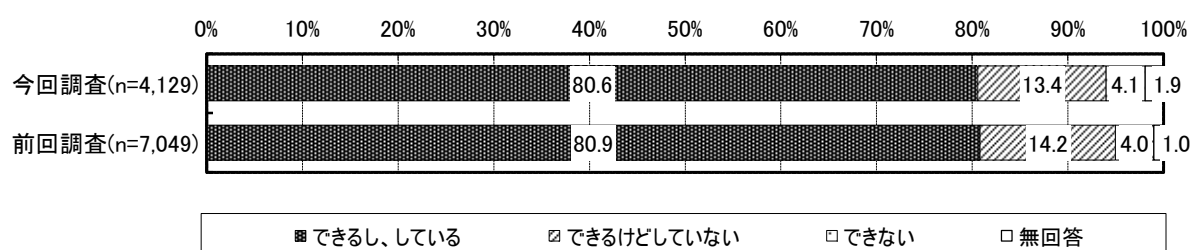
*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問4-7 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つだけ)



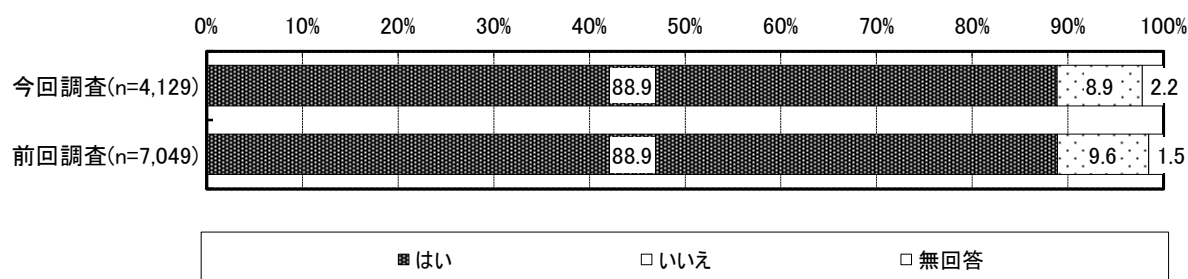
○請求書の支払いについては、「できるし、している」が79.6%と多く、生活管理能力は概ね維持されています。

問4-8 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つだけ)



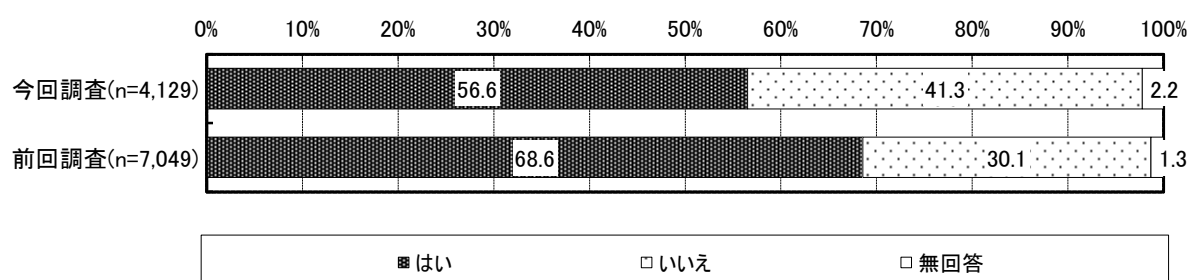
○預貯金の出し入れについては、「できるし、している」が80.6%と多くなっています。

問4-9 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(1つだけ)



○書類記入については、「はい」が88.9%と非常に多く、全体としては手続き能力が保たれています。

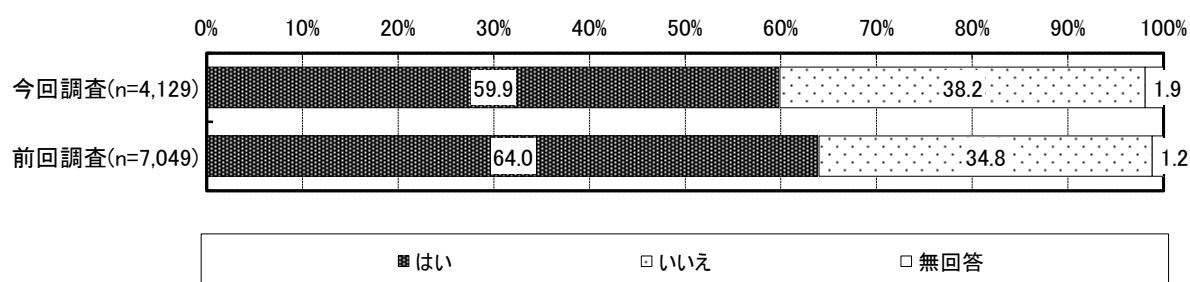
問4-10 新聞を読んでいますか。(1つだけ)



○新聞を読んでいる人は56.6%と半数を超えていますが、「いいえ」も41.3%見られます。
○前回調査の結果と比べると、新聞を読んでいる人は減っています。

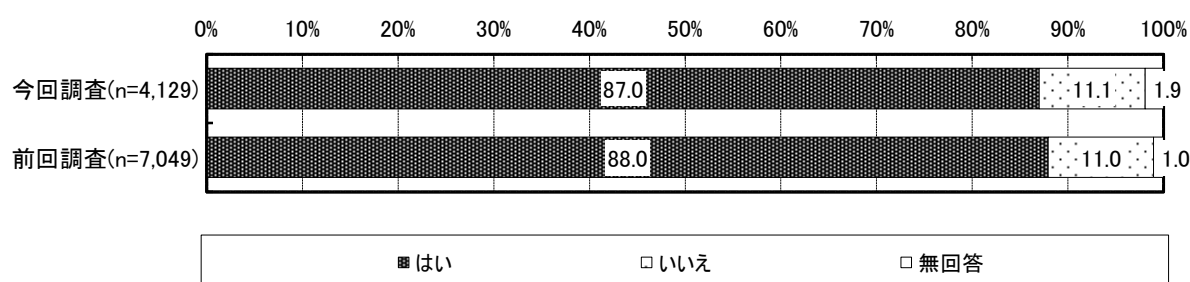
*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問4-11 本や雑誌を読んでいますか。(1つだけ)



○本や雑誌を読む人は59.9%と半数を超えています。

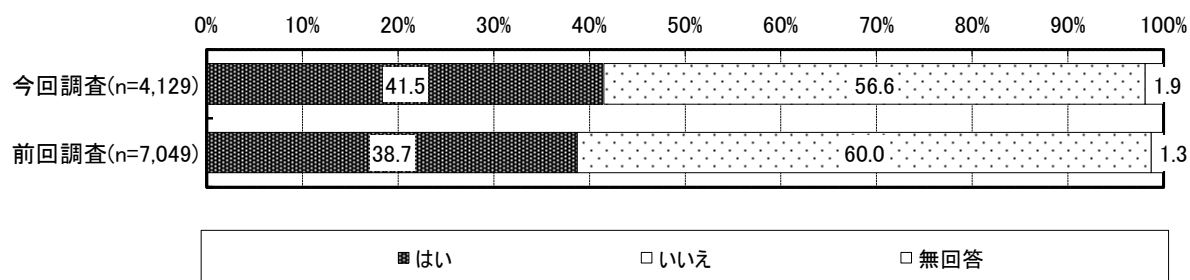
問4-12 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つだけ)



○健康に関する記事や番組への関心は非常に多く、「はい」が87.0%と大半を占めています。

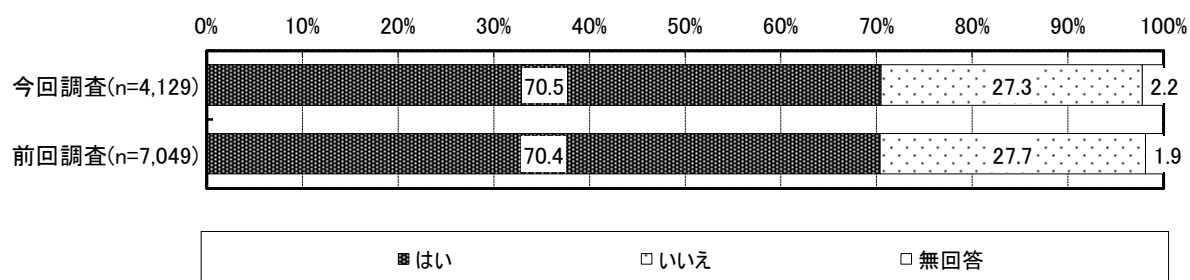
(3) 他者との関わり

問4-13 友人の家を訪ねていますか。(1つだけ)



○友人宅を訪ねる人は41.5%で、「いいえ」が56.6%とやや多くなっています。

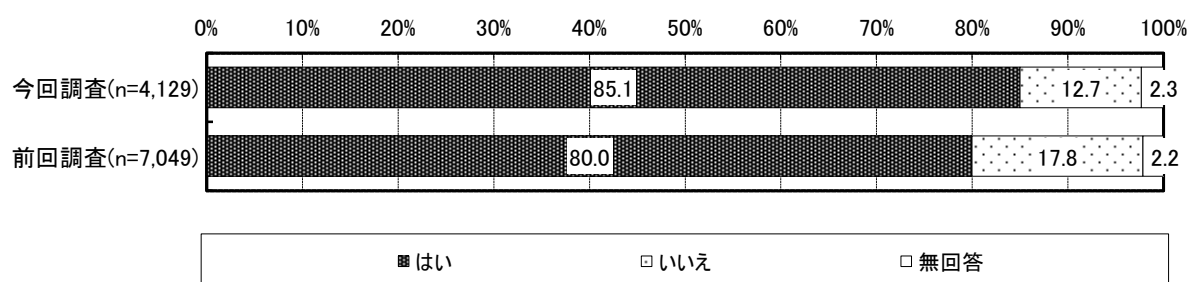
問4-14 家族や友人の相談にのっていますか。(1つだけ)



○家族や友人の相談にのっている人は70.5%と多くを占めています。

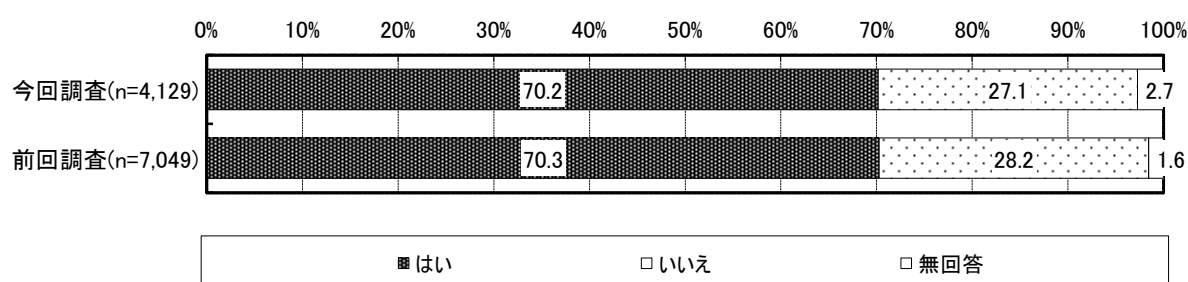
*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問4-15 病人を見舞うことができますか。(1つだけ)



○病人を見舞うことができる人は85.1%と多くを占めています。

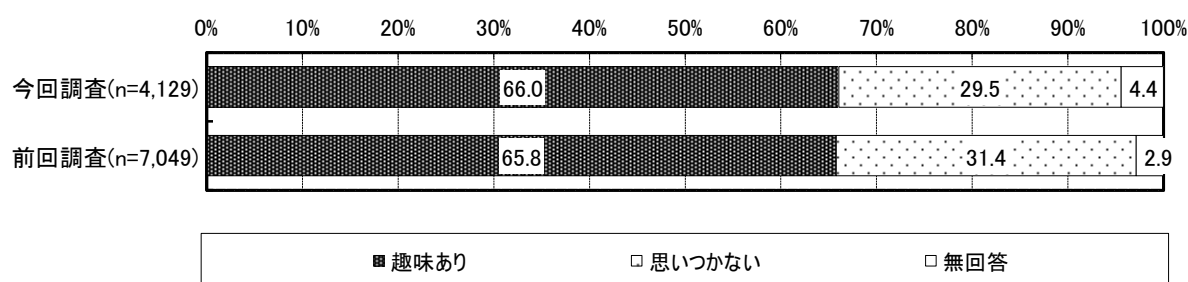
問4-16 若い人に自分から話しかけることがありますか。(1つだけ)



○若い人に話しかけることがある人は70.2%と多く、世代間交流の可能性が一定程度あります。

(4) 趣味や生きがいの状況

問4-17 趣味はありますか。(「1 趣味あり」の方は()内に趣味を記入ください)

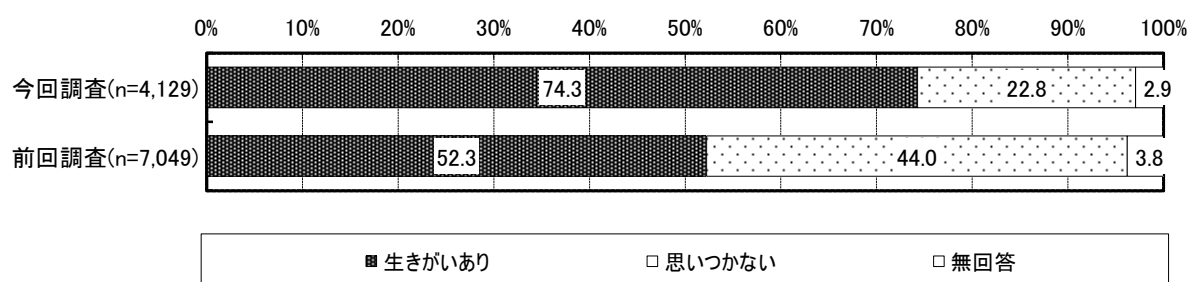


○趣味がある人は66.0%と多いものの、「思いつかない」とする人も29.5%見られます。

○主な趣味としては、読書、ゴルフ、釣り、カラオケ、家庭菜園やガーデニングが多く見られました。また、ウォーキングや水泳、ヨガ、グラウンドゴルフなど、健康づくりを兼ねた活動も目立ちます。さらに、手芸、編み物、書道、絵画などの創作活動や、旅行、ドライブ、寺社巡りなどの外出を楽しむ趣味も見られ、趣味の内容は全体として多様です。総じて、身近で続けやすく、楽しみや健康維持、人との交流につながる趣味が中心となっている傾向がうかがえます。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問4-18 生きがいがありますか。(1つだけ)

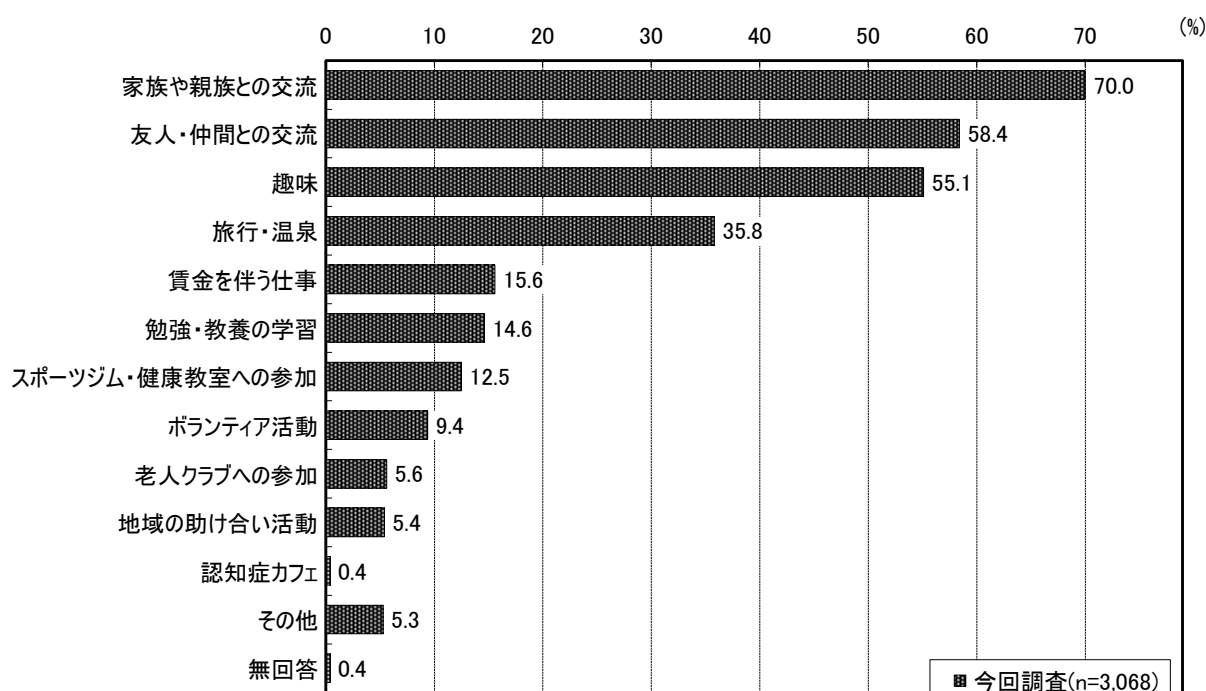


○生きがいがある人は74.3%と多く、全体として前向きな生活意識がうかがえます。

○前回調査の結果と比べると、生きがいがあるという人が大幅に増えています。

問4-18で「1 生きがいあり」と答えた方のみ、お答えください。

問4-18-1 生きがいを感じるものを教えてください。(いくつでも)



○生きがいを感じるものとしては、「家族や親族との交流」が70.0%と最も多く、次いで「友人・仲間との交流」が58.4%、「趣味」が55.1%、「旅行・温泉」が35.8%となるなど、人とのつながりと日常の楽しみが生きがいの中心であることがわかります。

問5 地域での活動について

(1) 地域活動への参加の状況

問5-1 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

(①～⑧それぞれに1つずつ回答してください)

(単位：%)

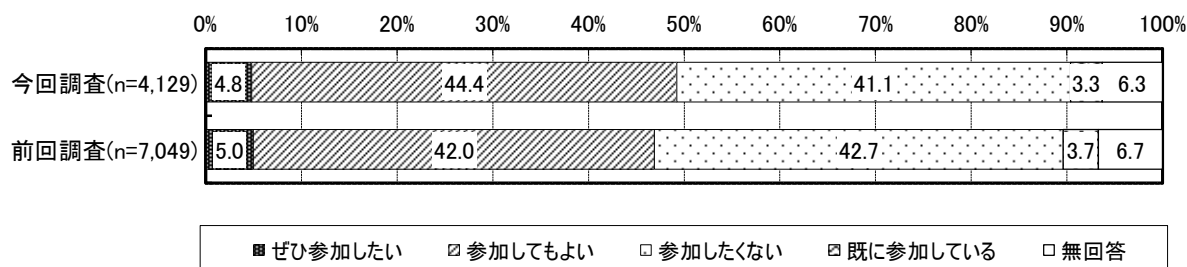
今回調査(n=4,129) 前回調査(n=7,049)	参加している						参加して いない	無回答
	(計)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回		
①ボランティアのグループ	12.1	0.8	1.1	1.4	4.0	4.8	70.4	17.5
(前回)	12.5	0.6	1.4	1.5	4.8	4.2	72.6	15.0
②スポーツ関係のグループ やクラブ	19.3	2.2	6.3	5.1	3.6	2.1	64.5	16.2
(前回)	18.5	2.2	6.0	5.3	3.1	1.9	66.9	14.7
③趣味関係のグループ	24.7	1.6	3.7	5.3	8.9	5.2	60.7	14.7
(前回)	22.6	1.4	4.3	4.3	8.2	4.4	63.1	14.3
④学習・教養サークル	7.8	0.3	0.7	1.3	2.8	2.7	74.2	18.0
(前回)	7.6	0.2	0.8	1.5	2.6	2.5	76.6	15.7
⑤WAO体操2、MC I (軽度 認知障害) 予防教室など介護 予防のための通いの場	6.1	0.2	1.1	3.2	0.8	0.8	77.1	16.8
(前回)	5.7	0.3	0.7	3.1	0.7	0.9	79.6	14.8
⑥老人クラブ	6.4	0.1	0.4	0.6	2.2	3.1	77.8	15.7
(前回)	7.3	0.1	0.5	0.6	2.1	4.0	78.7	14.1
⑦町内会・自治会	23.1	0.4	0.6	0.7	3.8	17.6	65.2	11.9
(前回)	18.9	0.1	0.3	0.5	3.0	15.0	66.4	14.8
⑧収入のある仕事	25.8	14.2	7.5	1.2	1.4	1.5	62.0	12.2
(前回)	21.0	11.5	5.8	1.4	1.3	1.0	65.5	13.5

○地域活動やグループ活動への参加状況については、多くの項目で「参加していない」が最も多く、全体として地域活動参加は低調となっています。特に、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブでは参加していない人が多くなっています。一方で、収入のある仕事では「週4回以上」が14.2%、「週2～3回」が7.5%あり、就労を通じた社会参加が一定程度見られます。

○前回調査の結果と比べると、町内会・自治会や収入のある仕事で参加している人が増えています。

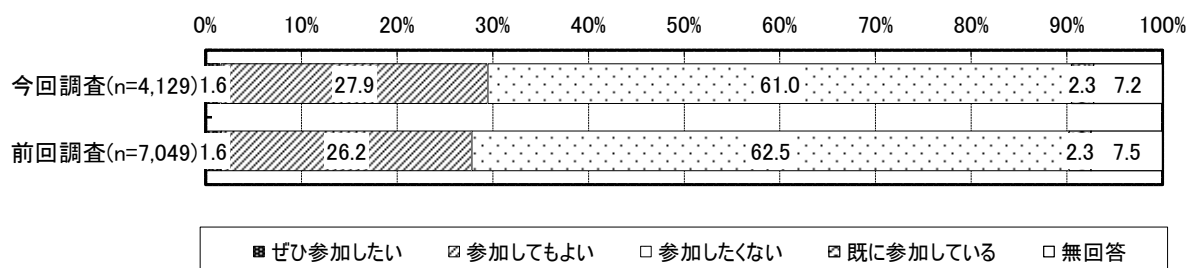
(2) 地域づくり活動への参加意向

問5-2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つだけ)



○地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向については、「参加してもよい」が44.4%と最も多く、「参加したくない」も41.1%と同程度に見られます。「ぜひ参加したい」は4.8%と少数ですが、条件が整えば参加可能な層は一定程度あると考えられます。

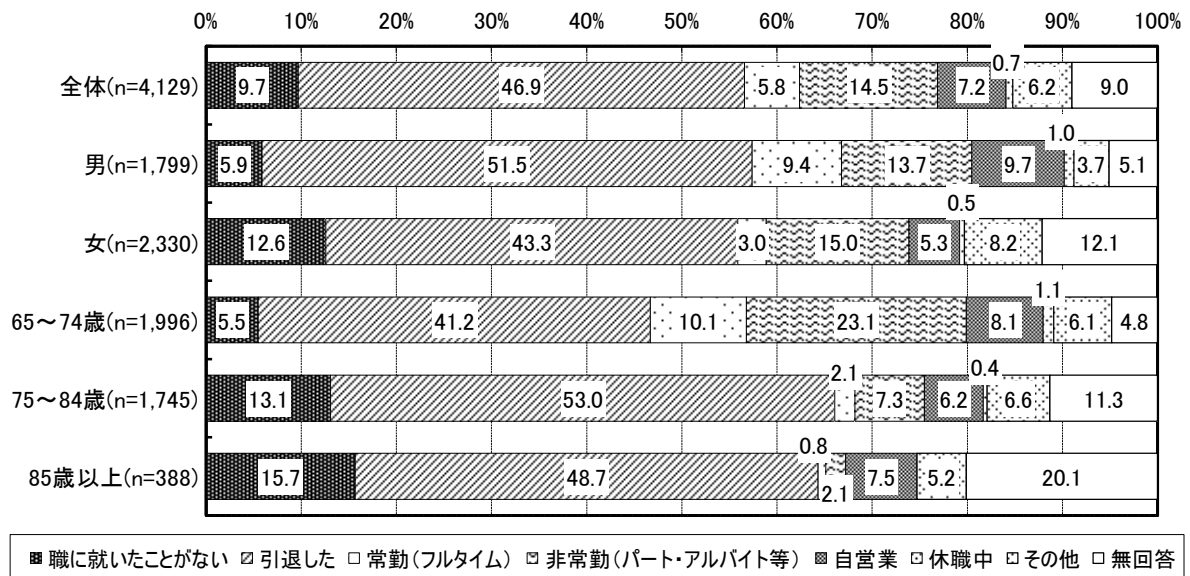
問5-3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(1つだけ)



○企画・運営（お世話役）としての参加意向については、「参加したくない」が61.0%と多く、参加者としての関わりに比べて、運営役への心理的負担が大きいことがわかります。「参加してもよい」は27.9%と一定程度見られますが、担い手確保には負担感を軽減する仕組みや支え合える体制づくりが必要となっています。

問6 就労について

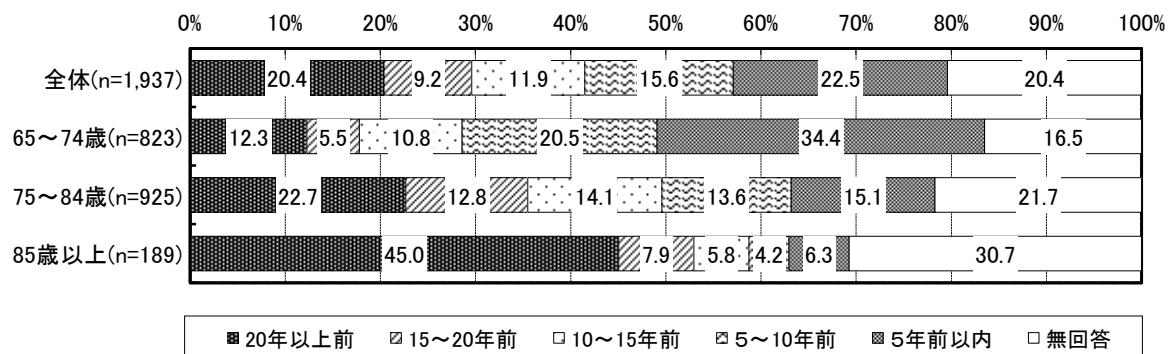
問6-1 現在のあなたの就労状態はどれですか（いくつでも）



- 就労状態については、「引退した」が46.9%と最も多くなっていますが、「非常勤（パート・アルバイト等）」が14.5%、「自営業」が7.2%、「常勤（フルタイム）」が5.8%など、就労を続けている人も一定程度見られます。
- 性別にみると、男性は「引退した」が51.5%、「常勤（フルタイム）」が9.4%、「自営業」が9.7%と多い一方、女性は「職に就いたことがない」が12.6%と多くなっています。
- 年齢別にみると、65～74歳で「非常勤（パート・アルバイト等）」が23.1%、「常勤（フルタイム）」が10.1%あり、就労継続が比較的高い結果となっています。85歳以上では「引退した」が48.7%、「職に就いたことがない」が15.7%となっています。

問6-1で「2 引退した」と答えた方のみ、お答えください。

問6-1-1 あなたはいつ引退しましたか

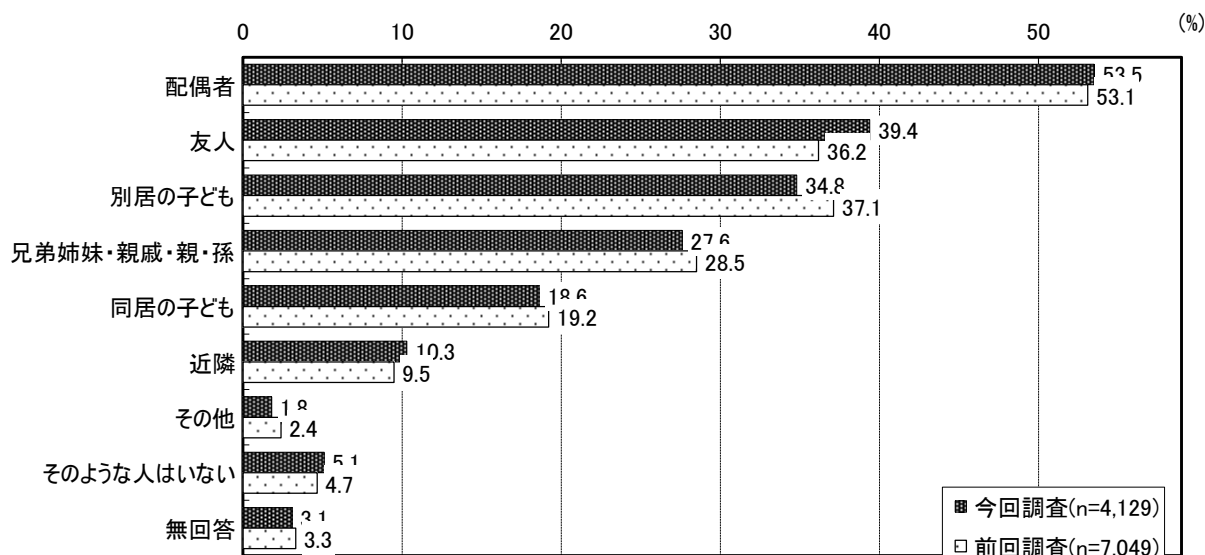


- 引退した時期については、「5年以内」が22.5%と最も多く、比較的最近まで働いていた人が少なくありません。一方で、20年以上前に引退した人も20.4%と多く、幅広い経過年数が見られます。

問7 たすけあいについて

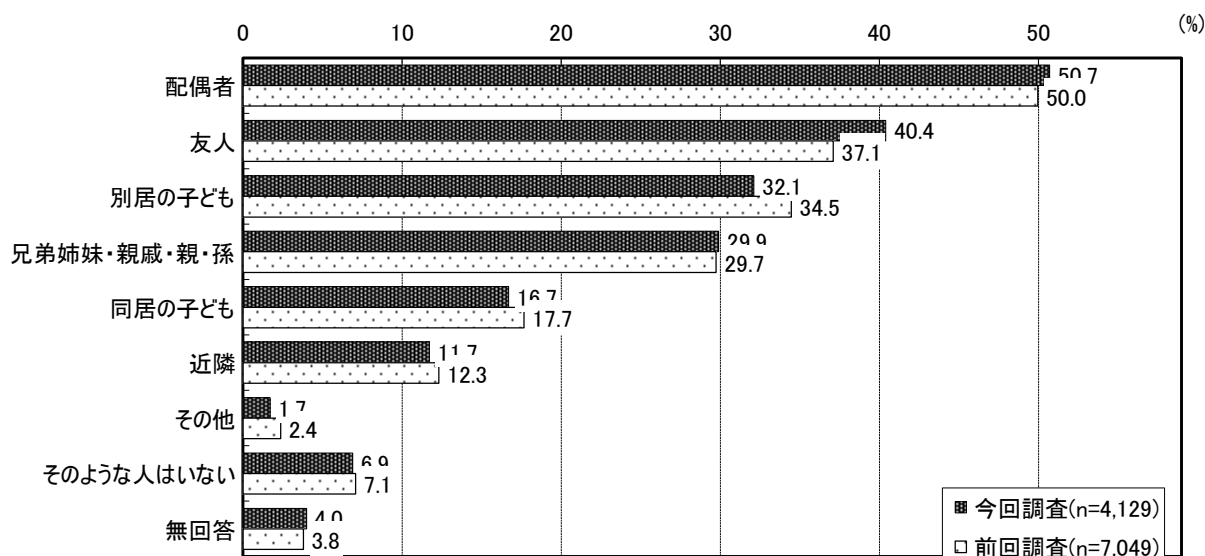
(1) 周りの人とのたすけあいの状況

問7-1 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（いくつでも）



○心配事や愚痴を聞いてくれる相手としては、「配偶者」が53.5%と最も多く、次いで「友人」が39.4%、「別居の子ども」が34.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が27.6%などとなっています。「そのような人はいない」は5.1%と少数にとどまるものの、孤立予防の観点から注意が必要となっています。

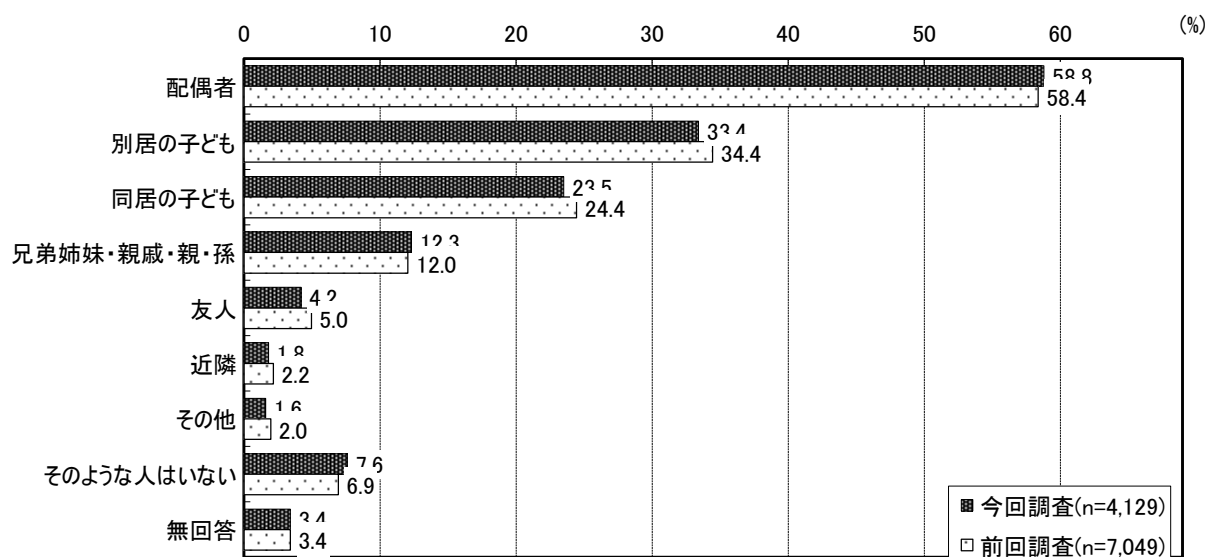
問7-2 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（いくつでも）



○自分が聞いてあげる相手としては、「配偶者」が50.7%、「友人」が40.4%、「別居の子ども」が32.1%などとなっています。

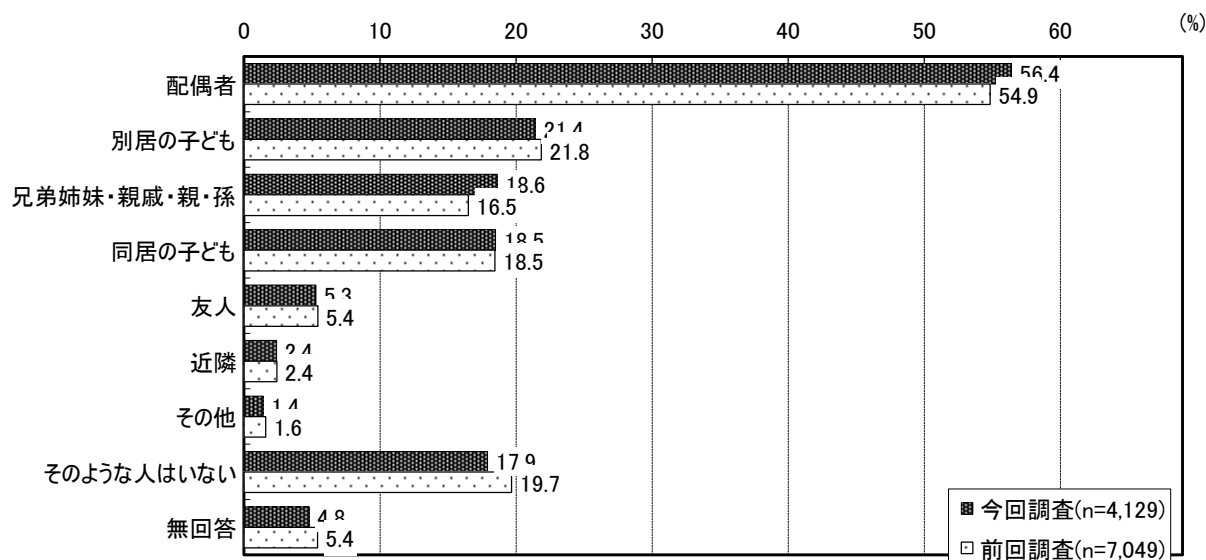
*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問7-3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。
(いくつでも)



○看病や世話をしてくれる人としては、「配偶者」が58.8%と最も多く、次いで「別居の子ども」が33.4%、「同居の子ども」が23.5%となっています。

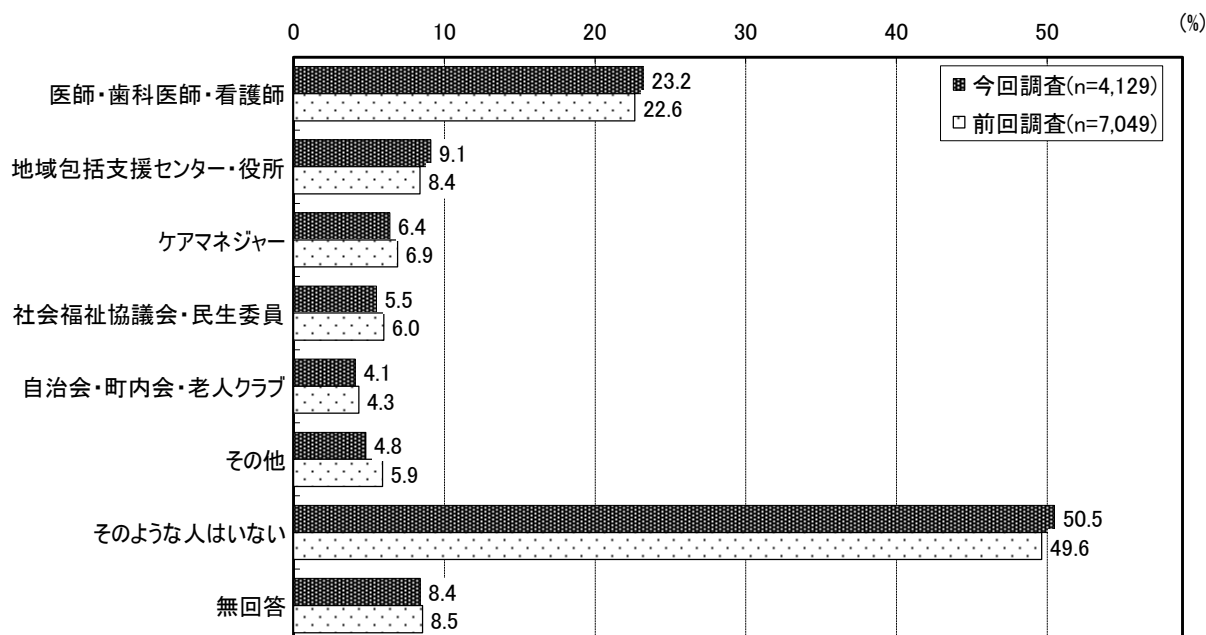
問7-4 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。(いくつでも)



○自分が看病や世話をしてあげる相手としては「配偶者」が56.4%と最も多い一方、「そのような人はいない」も17.9%見られます。

(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

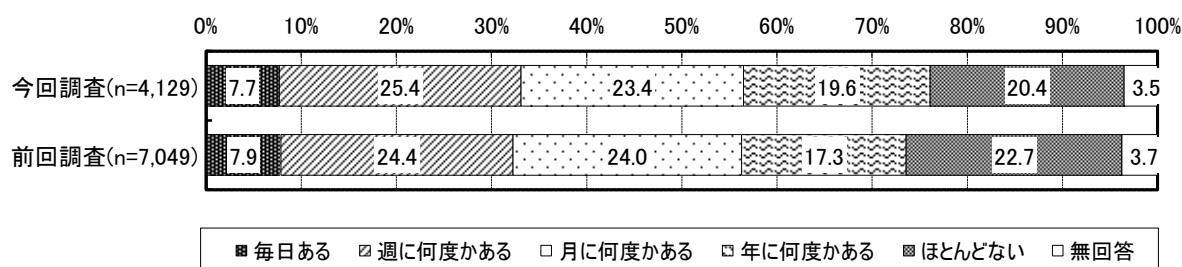
問7-5 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(いくつでも)



○家族や友人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が23.2%と最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所」が9.1%、「ケアマネジャー」が6.4%となっています。ただし、「そのような人はいない」が50.5%を占めており、公的・専門的な相談先とのつながりは十分とはいえません。

(3) 友人・知人とのつきあいの状況

問7-6 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つだけ)

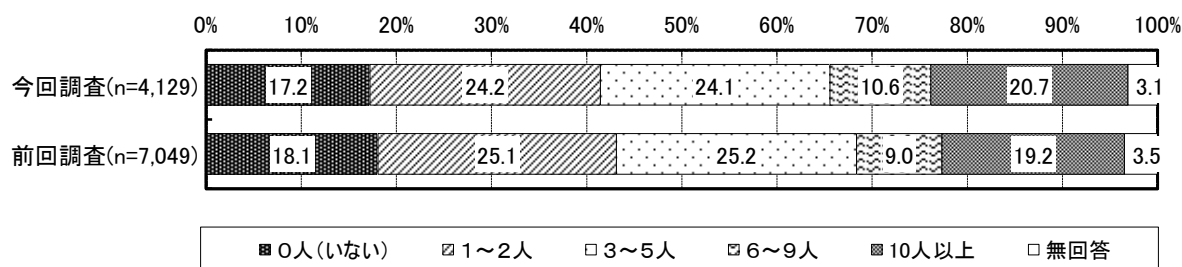


○友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が25.4%、「月に何度かある」が23.4%、「ほとんどない」が20.4%となっています。

○前回調査の結果は、コロナ禍の影響で会う頻度が低下しましたが、今回調査も同様の傾向となっています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

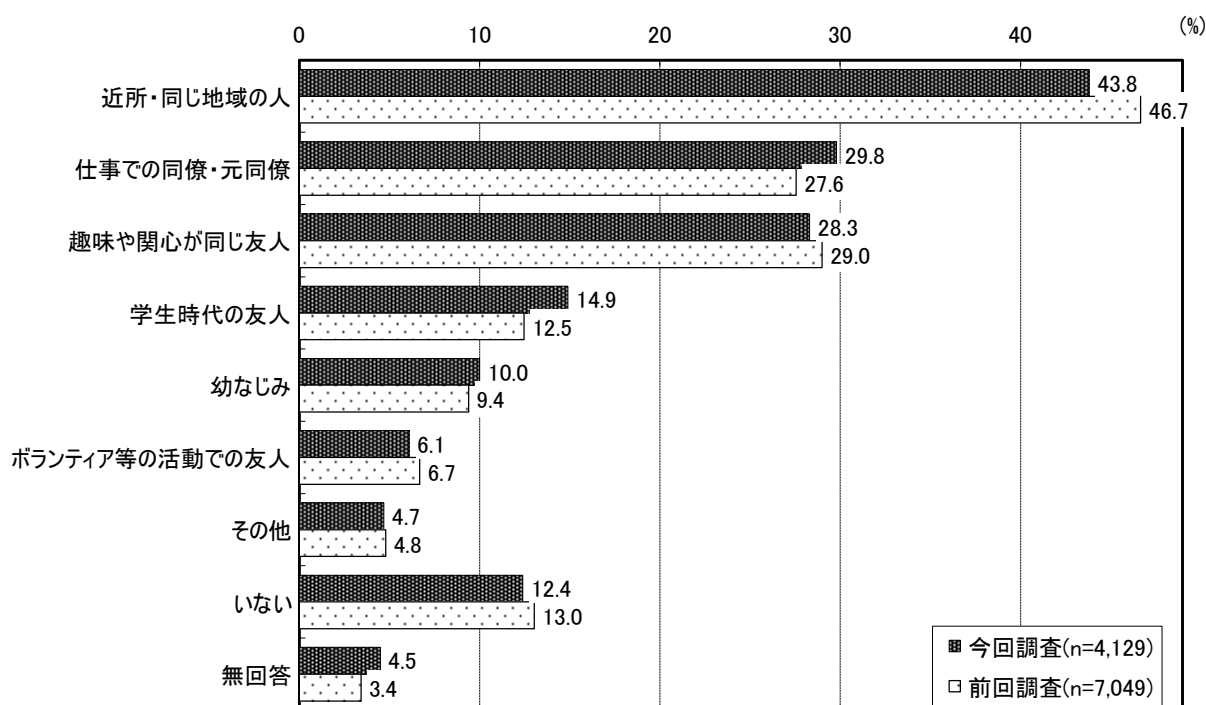
問7-7 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つだけ)



○この1か月間に会った人の人数は、「1～2人」が24.2%、「3～5人」が24.1%、「10人以上」が20.7%、「0人(いない)」が17.2%となっています。

○前回調査の結果と比べると、人数が若干増える傾向にあります。

問7-8 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

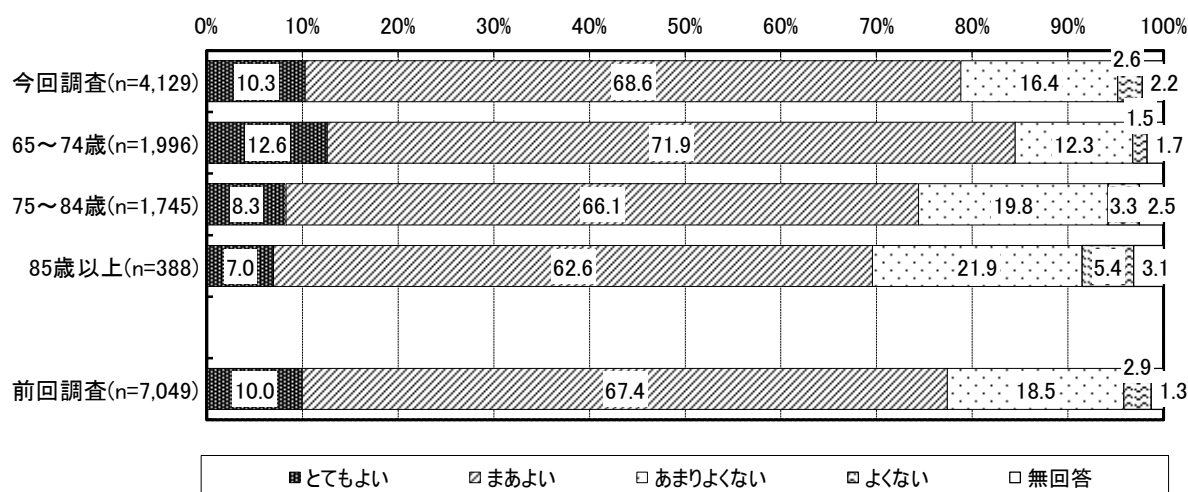


○よく会う人の関係としては、「近所・同じ地域の人」が43.8%と最も多く、次いで「仕事での同僚・元同僚」が29.8%、「趣味や関心が同じ友人」が28.3%となっています。

問8 健康や介護予防について

(1) 健康状態

問8-1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つだけ)



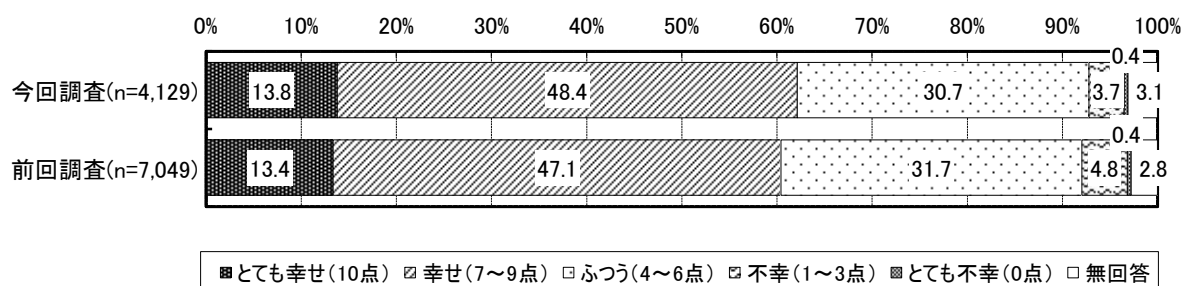
○現在の健康状態については、「まあよい」が68.6%と最も多く、「とてもよい」の10.3%と合わせると健康状態を良好と捉える人78.9%となっています。一方で、「あまりよくない」(16.4%)や「よくない」(2.6%)とする人も一定程度存在します。

○年齢別にみると、85歳以上で「あまりよくない」が21.9%、「よくない」が5.4%と否定的にとらえる人が多めとなっています。

(2) 主観的な幸福感

問8-2 あなたは、現在どの程度幸せですか。(1つだけ)

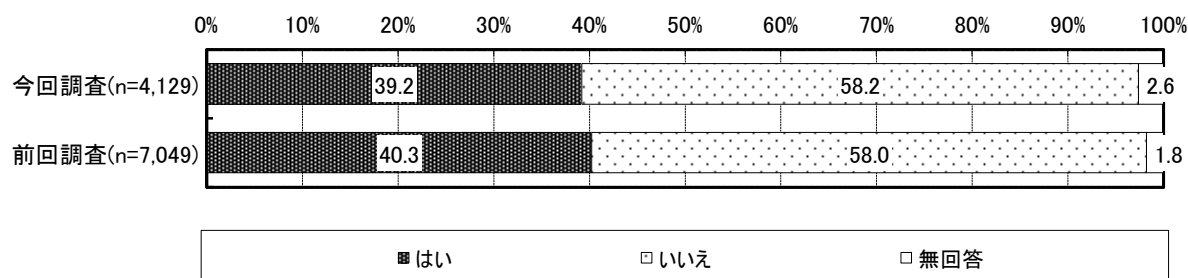
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください)



○主観的な幸福感について10点満点で尋ねたところ、「幸せ(7～9点)」と答えた人が48.4%と最も多く、平均点は6.40点となっています。

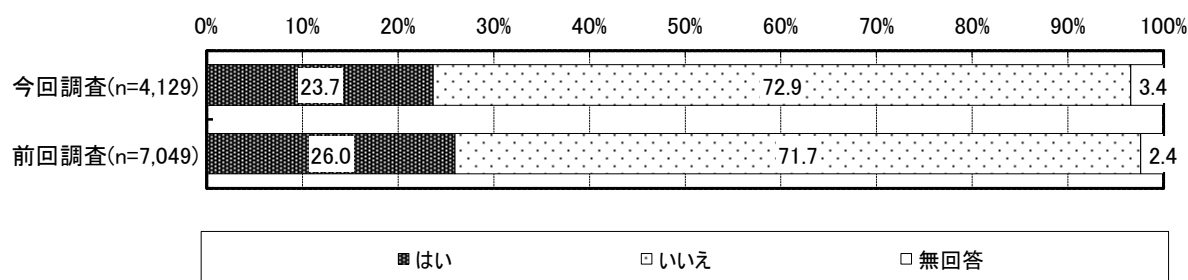
(3) こころの健康

問8-3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(1つだけ)



○気分の落ち込みについては、「いいえ」が58.2%と多いものの、「はい」と答える人も39.2%見られ、気分の落ち込みを抱える層への見守りや相談支援が必要となっています。

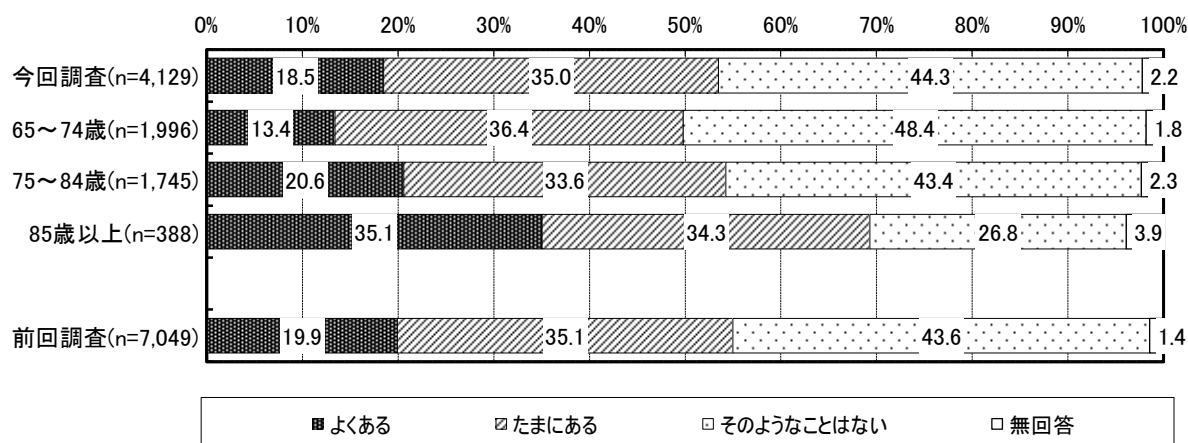
問8-4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つだけ)



○興味や楽しみの喪失については、「いいえ」が72.9%と多いものの、「はい」も23.7%となっています。

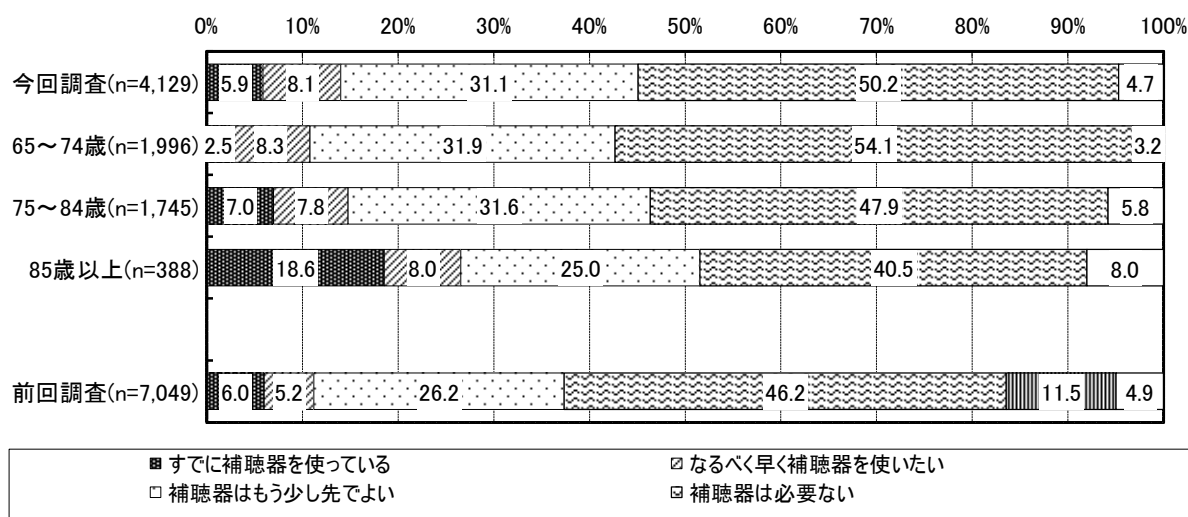
(4) 耳の聞こえの状況

問8-5 前より耳が遠くなった、聞こえにくくなったと自分で感じたり、人からそのように言われることがありますか。(1つだけ)



- 聞こえにくさについては、「よくある」が18.5%、「たまにある」が35.0%と、合わせて53.5%の人が何らかの聞こえの変化を感じています。
- 年齢別にみると、85歳以上で「よくある」が35.1%と多く、聴力低下が顕著となっています。

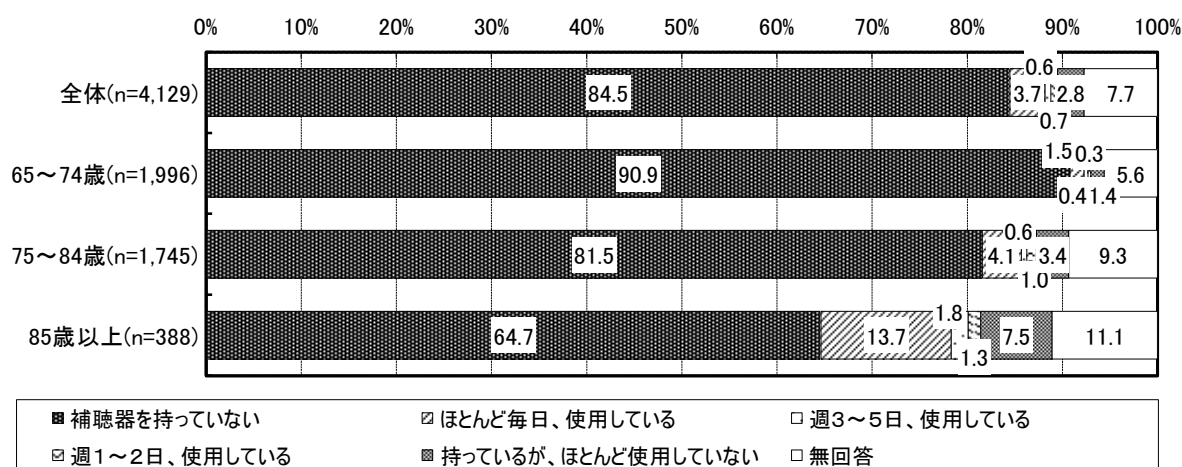
問8-6 耳が聞こえにくくなったと感じた時に、補聴器を使いたいと思いますか。(1つだけ)



※選択肢「補聴器購入の支援制度があれば使いたい」は今回調査では設定していません。

- 補聴器の使用については、「補聴器は必要ない」が50.2%と最も多く、「補聴器はもう少し先でよい」が31.1%、「なるべく早く補聴器を使いたい」が8.1%、「すでに補聴器を使っている」が5.9%となっています。
- 年齢別にみると、85歳以上では「すでに補聴器を使っている」が18.6%と比較的多く、聴力低下への対応が進んでいる面もあります。

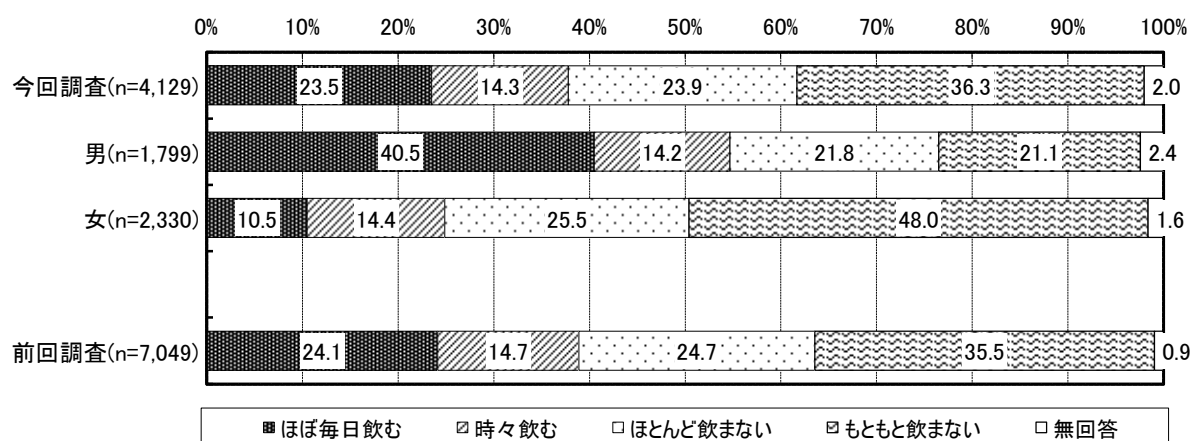
問8-7 補聴器を持っていますか。持っている場合は、使用頻度はどのくらいですか。(1つだけ)



- 補聴器の所持状況については、「補聴器を持っていない」が84.5%となっています。
- 年齢別にみると、85歳以上では「ほとんど毎日使用している」が13.7%と比較的多くっており、必要性の高まりがうかがえます。

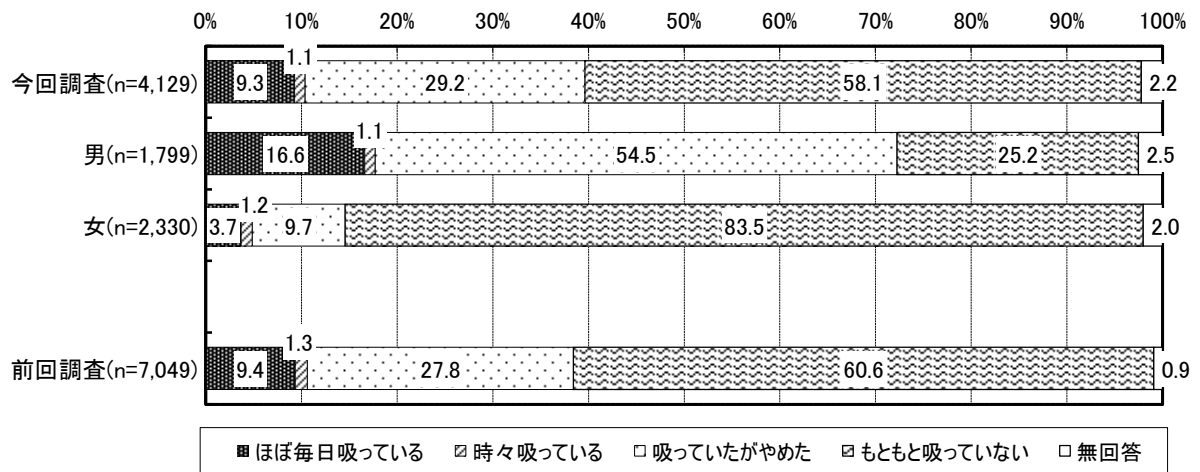
(5) 飲酒・喫煙の状況

問8-8 お酒は飲みますか。(1つだけ)



- 飲酒習慣については、「もともと飲まない」が36.3%と最も多いものの、「ほぼ毎日飲む」が23.5%、「時々飲む」が14.3%となっています。
- 性別にみると、男性で「ほぼ毎日飲む」が40.5%と、女性の10.5%を大きく上回っています。

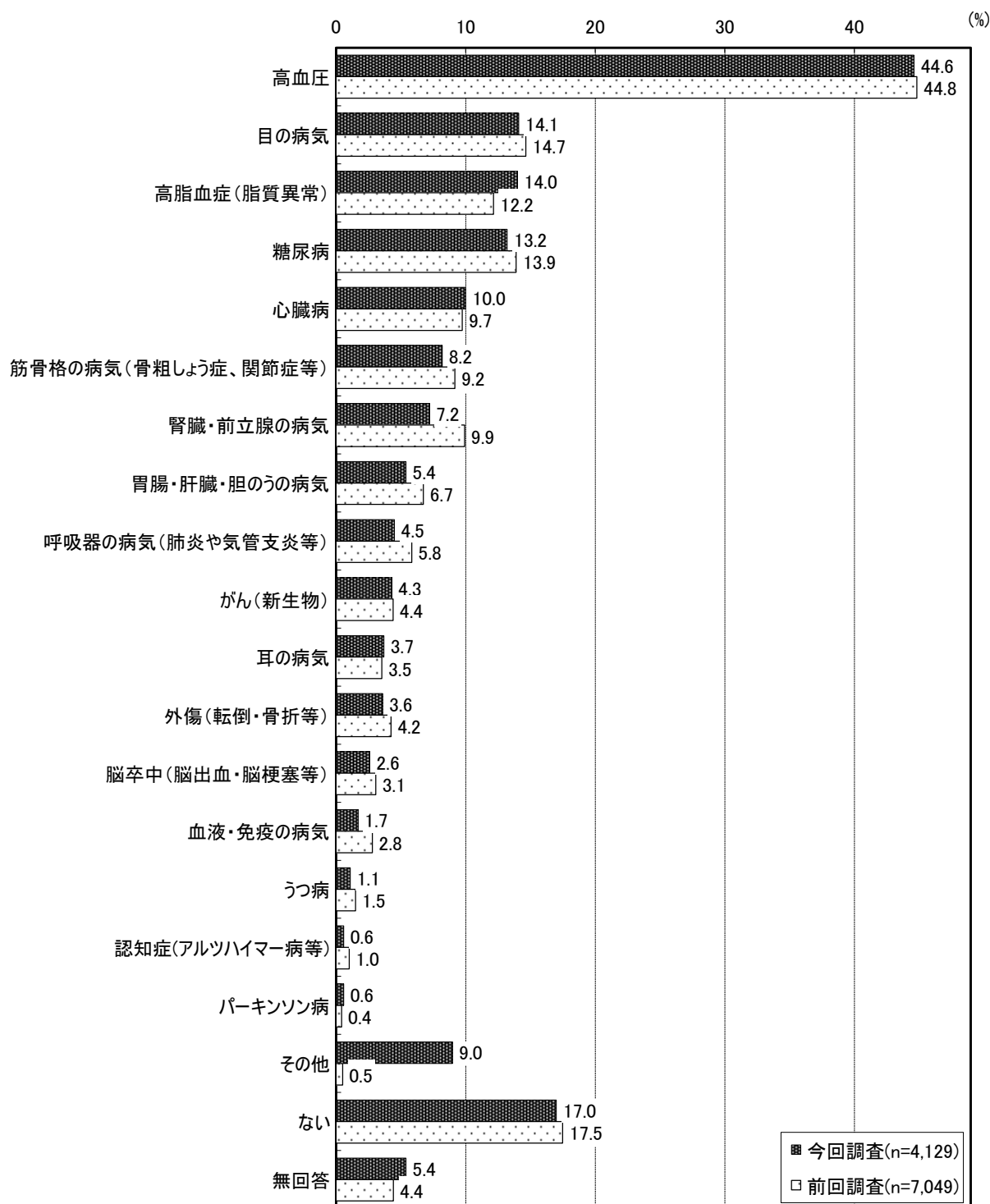
問8-9 タバコは吸っていますか。(1つだけ)



- 喫煙については、「もともと吸っていない」が58.1%、「吸っていたがやめた」が29.2%となっていますが、「ほぼ毎日吸っている」が9.3%と、今後も禁煙支援が必要と思われる人もみられます。
- 性別にみると、男性で「ほぼ毎日吸っている」が16.6%、女性は3.7%で大きな差があります。

(6) 治療中・後遺症の病気

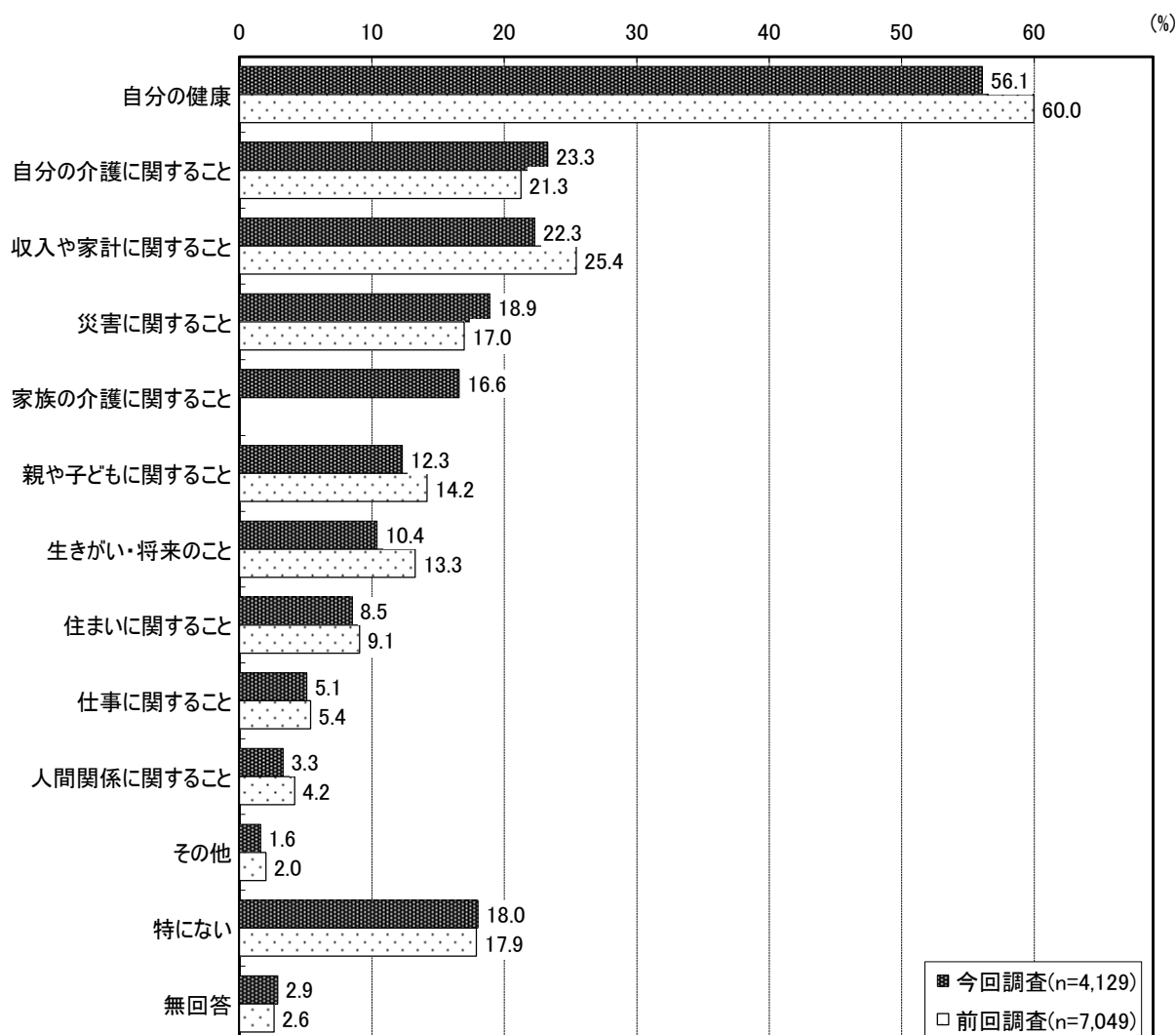
問8-10 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)



○治療中・後遺症のある病気については、「高血圧」が44.6%と最も多く、次いで「目の病気」が14.1%、「高脂血症(脂質異常)」が14.0%、「糖尿病」が13.2%となっています。なお、「ない」は17.0%となっています。

(7) 健康づくりに対する意識

問8-11 あなたは現在、不安に思っていることがありますか。(いくつでも)

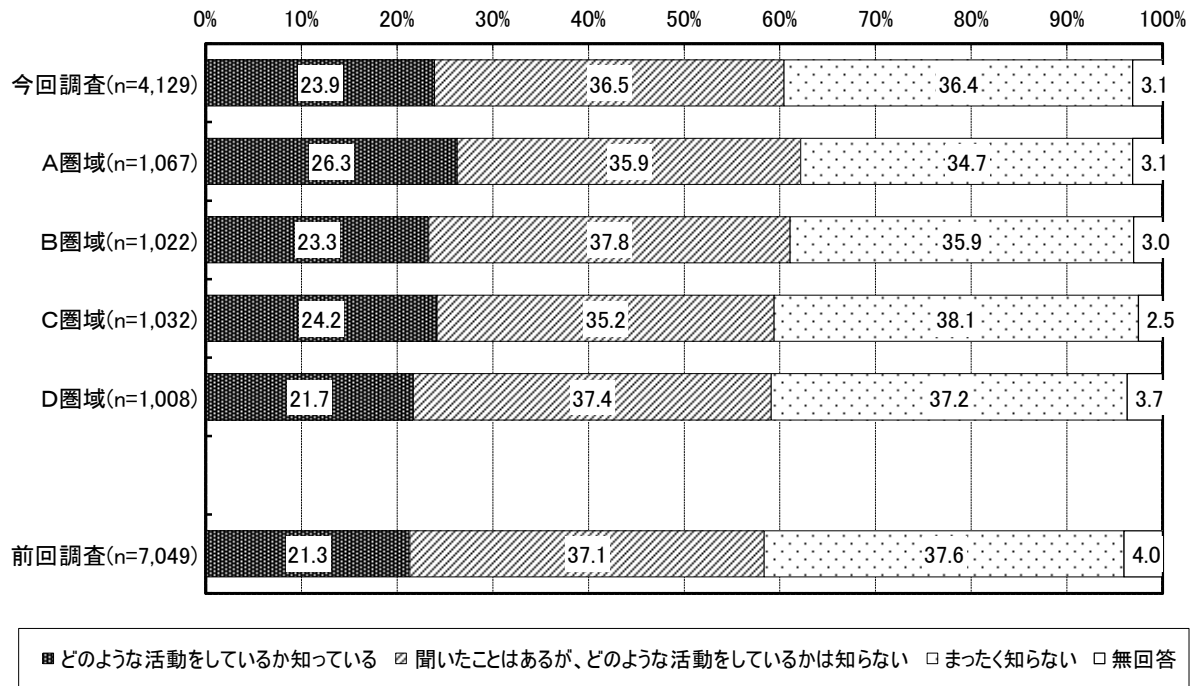


○不安に思っていることとしては、「自分の健康」が56.1%と最も多く、次いで「自分の介護に関する事」が23.3%、「収入や家計に関する事」が22.3%、「災害に関する事」が18.9%と続いています。なお、「特になし」は18.0%となっています。

問9 地域づくりについて

(1) 地域包括支援センターの周知状況

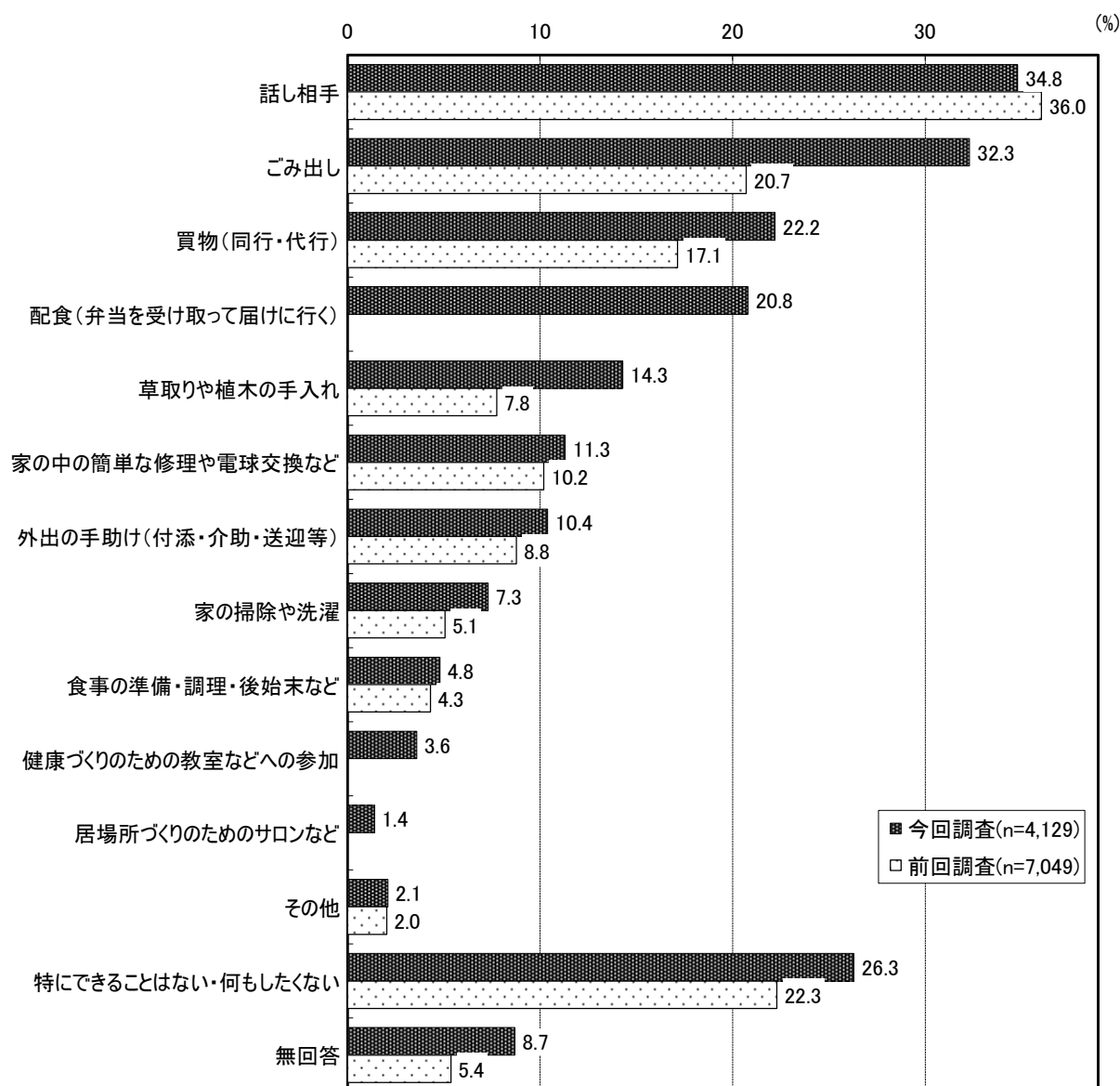
問9-1 泉南市には、地域包括支援センターが国道26号を境に海側と山側に一か所ずつ設置されています。この地域包括支援センターをご存じですか。(1つだけ)
(海側：なでしこりんくう、山側：六尾の郷)



○地域包括支援センターの認知度については、「聞いたことはあるが、どのような活動をしているかは知らない」が36.5%、「まったく知らない」が36.4%と多く、活動内容まで十分に理解されているとはいえません。

(2) 地域での支援活動について

問9-2 近所の人困っている時に、あなたご自身が、支援できることはありますか。
(いくつでも)



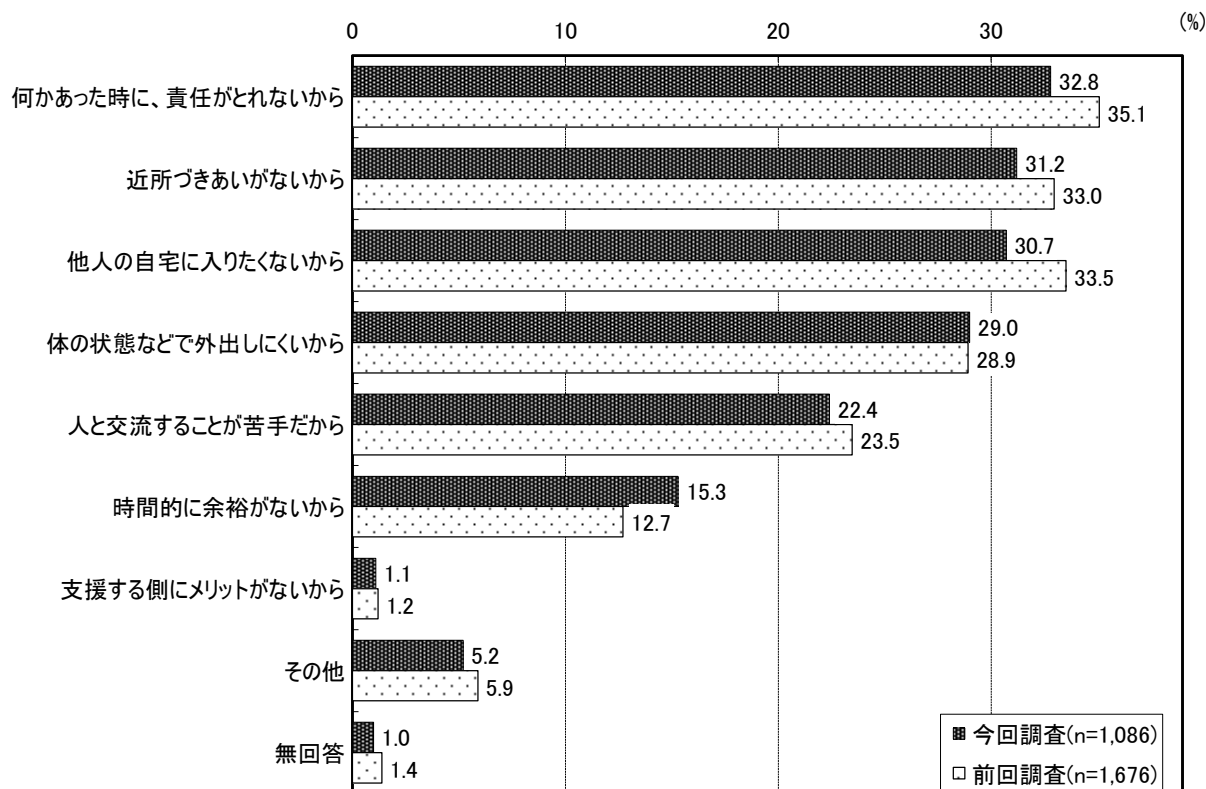
※前回調査の結果は比較可能なもののみ掲載。選択肢の内容が異なるため参考値。

○近所の人困っている時に支援できることとしては、「話し相手」が34.8%、「ごみ出し」が32.3%、「買物(同行・代行)」が22.2%、「配食」が20.8%と比較的取り組みやすい日常的な支援が中心となっています。一方で、「特にできることはない・何もしたくない」も26.3%見られます。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問9-2で「13 特にできることはない・何もしたくない」と答えた方のみ、お答えください。

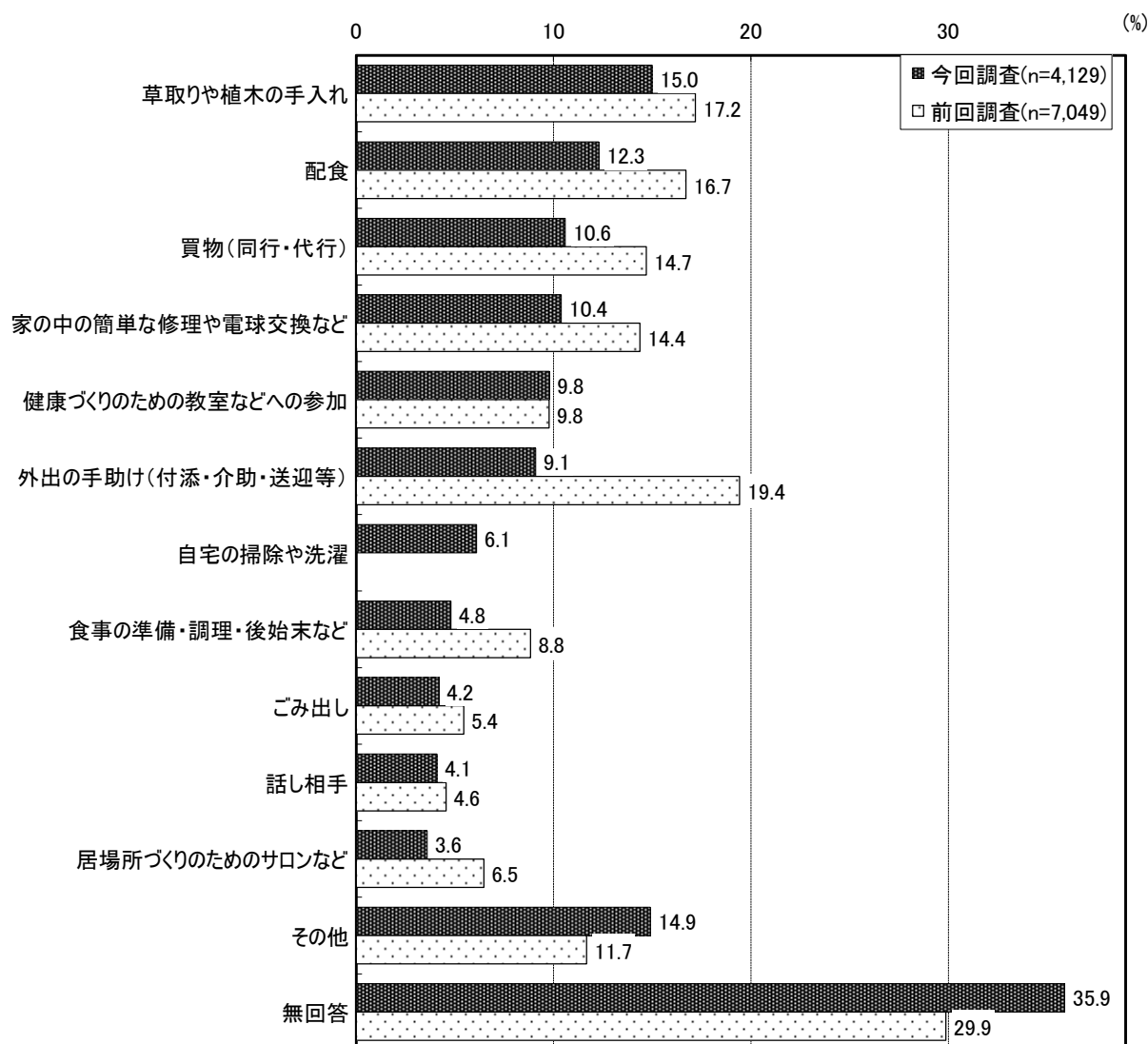
問9-2-1 特にできることはない・何もしたくない理由は何ですか。(いくつでも)



○できないことがない、何もしたくない理由としては、「何かあった時に、責任がとれないから」が32.8%、「近所づきあいがないから」が31.2%、「他人の自宅に入りたくないから」が30.7%、「体の状態などで外出しにくいから」が29.0%と多くなっています。

(3) 介護保険外の有償サービスの利用意向

問9-3 今後利用したいサービス（有償）はありますか。（いくつでも）

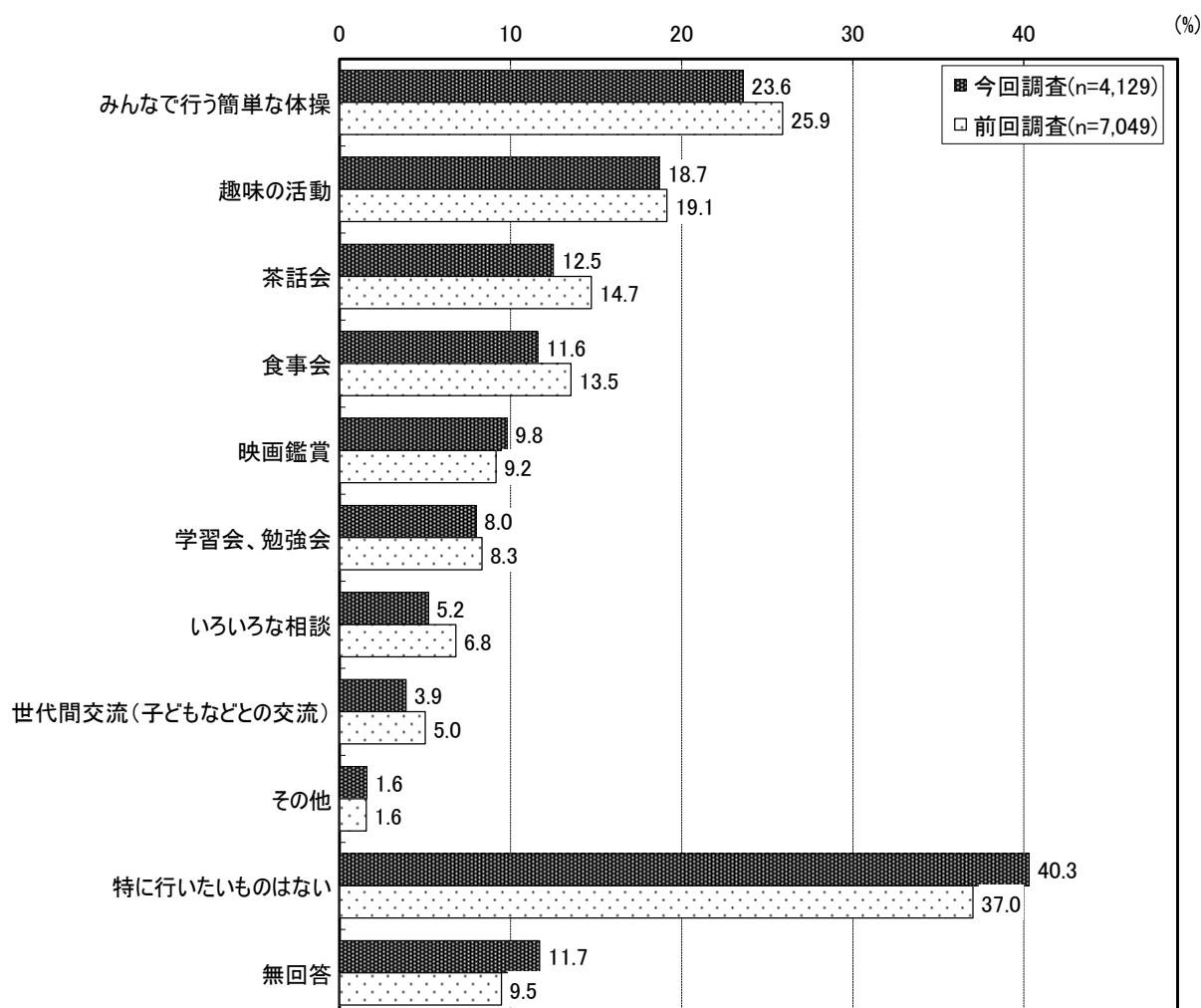


※前回調査とは設問文・選択肢の内容が異なるため参考値

○今後利用したい有償サービスとしては、「草取りや植木の手入れ」が15.0%と最も多く、次いで「配食」が12.3%、「買物（同行・代行）」が10.6%、「家の中の簡単な修理や電球交換など」が10.4%、「健康づくりのための教室などへの参加」が9.8%などとなっています。

(4) 身近な交流の場への参加意向

問9-4 身近な場所に地域住民などが集まる交流の場（サロンなど）があれば、どのような活動を行いたいと思いますか。（いくつでも）

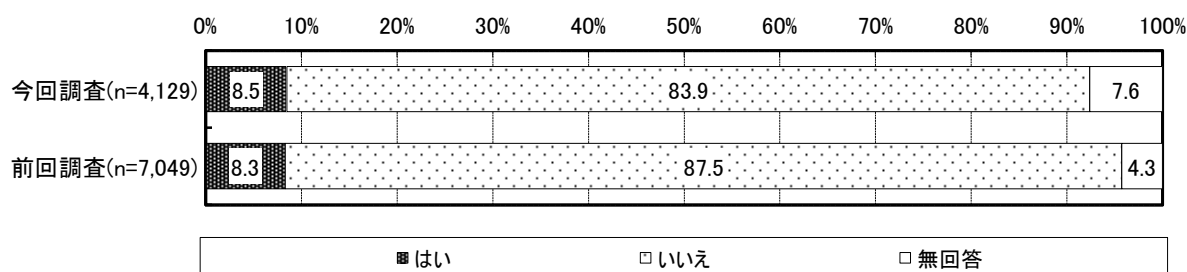


○交流の場で行いたい活動としては、「みんなで行う簡単な体操」が23.6%と最も多く、次いで「趣味の活動」が18.7%、「茶話会」が12.5%、「食事会」が11.6%となっています。一方で、「特に行いたいものはない」も40.3%と多くなっています。

問10 認知症について

(1) 認知症の症状がある人の有無

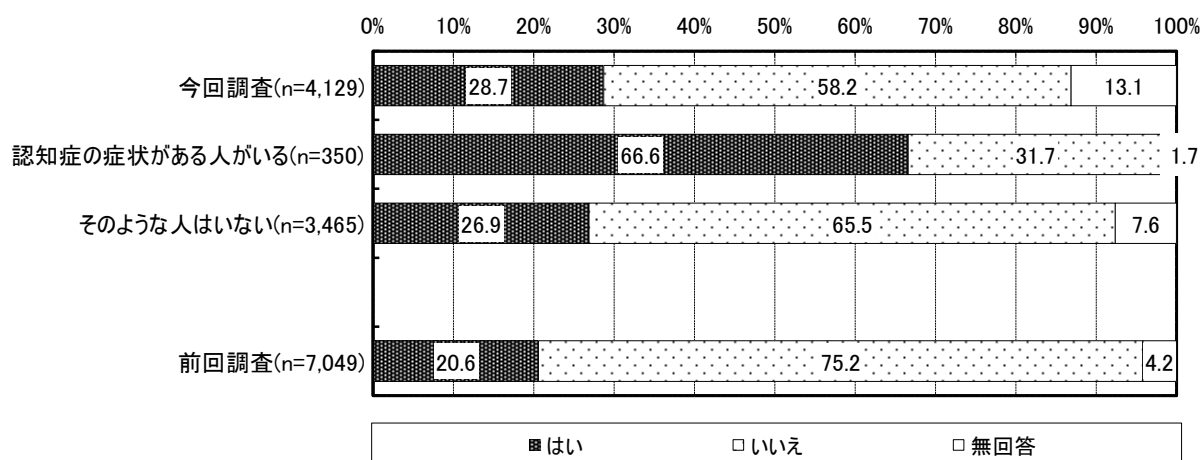
問10-1 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つだけ)



○認知症の症状があるか家族に認知症の症状がある人については、「いいえ」が83.9%と多くなっていますが、「はい」も8.5%見られます。

(2) 認知症に関する相談窓口の周知度

問10-2 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)



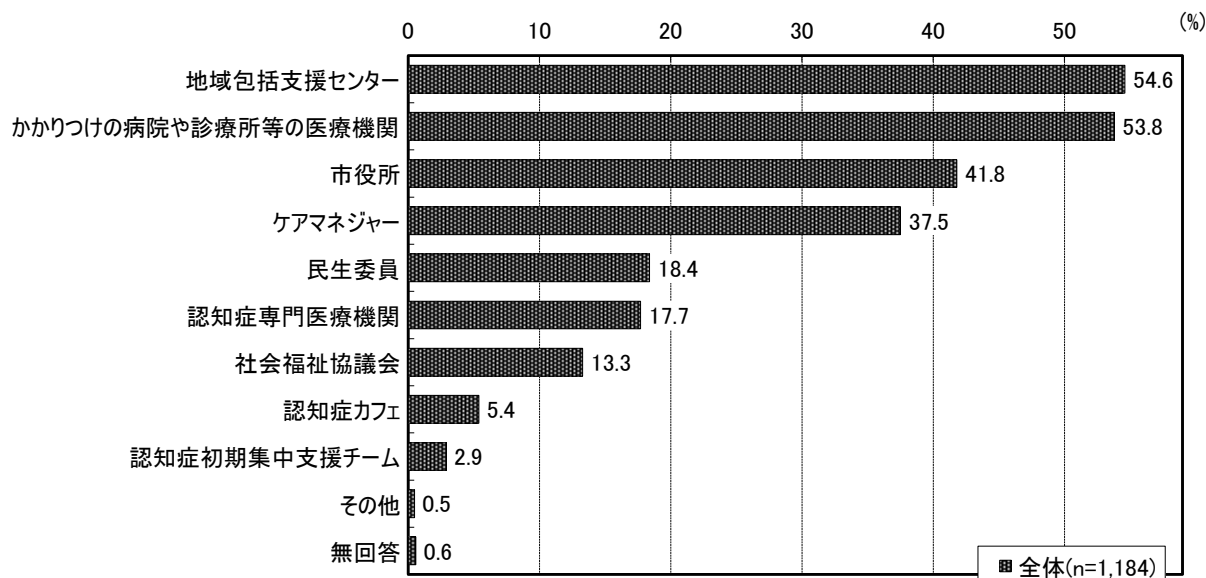
○認知症に関する相談窓口については、「いいえ」が58.2%と認知度は十分とはいえませんが、前回調査の結果よりは増えています。

○本人か家族に認知症の症状がある人では「はい」と答える人が66.6%となっています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問10-2で「1 はい」と答えた方のみ、お答えください。

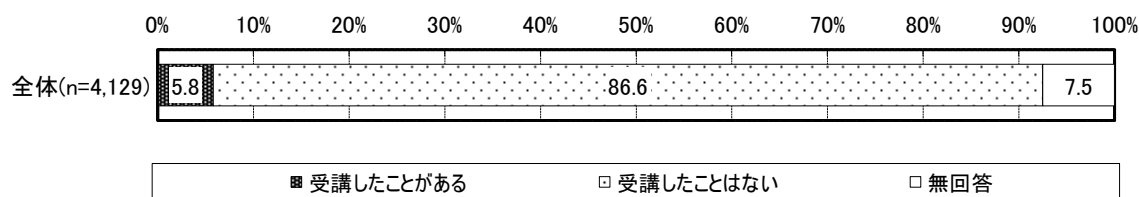
問10-2-1 どの相談窓口を知っていますか。(いくつでも)



○知っている相談窓口としては、「地域包括支援センター」が54.6%、「かかりつけの病院や診療所等の医療機関」が53.8%、「市役所」が41.8%、「ケアマネジャー」が37.5%となっています。地域包括支援センターと医療機関の認知が中心となっています。認知症初期集中支援チームや認知症カフェなどはまだ十分に知られていません。

(3) 認知症サポーター養成講座の受講状況

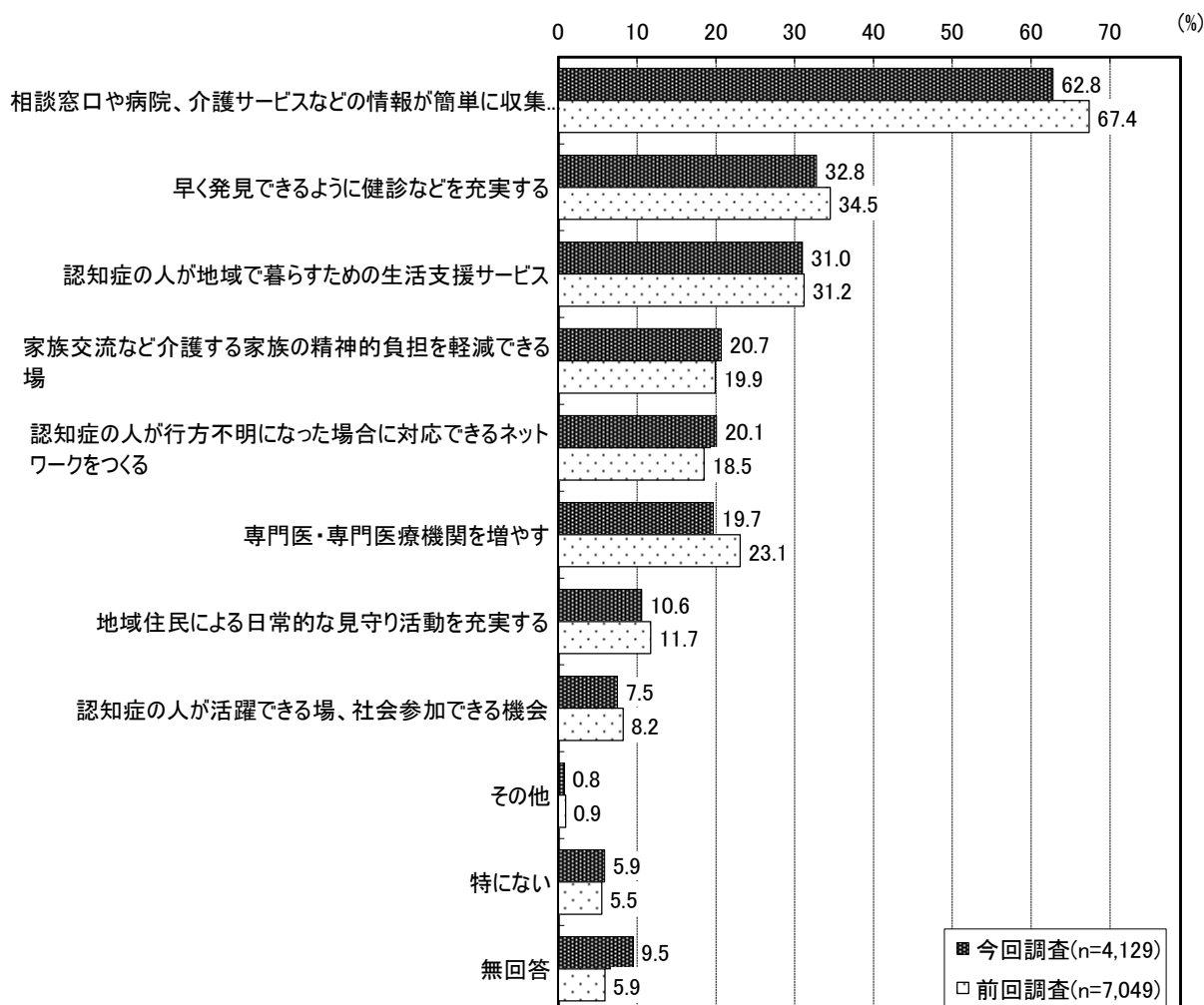
問10-3 あなたはこれまでに認知症サポーター養成講座を受講したことがありますか。(1つだけ)



○認知症サポーター養成講座については、「受講したことはない」が86.6%と大半を占めており、受講経験者は5.8%でした。

(4) 認知症になった時の支援

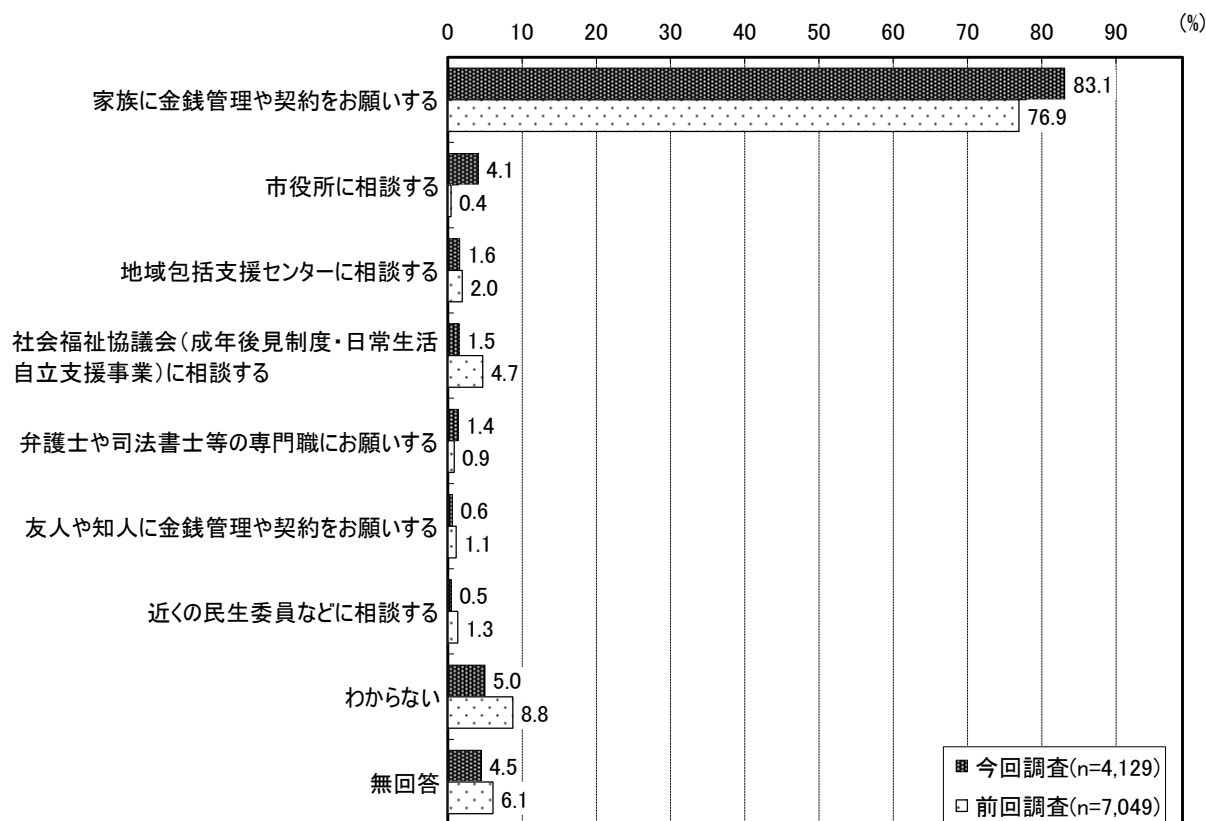
問10-4 ご自身やご家族が認知症になった時に、どのような支援があればよいと思いますか。(3つまで)



○認知症になった時に必要な支援としては、「相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み」が62.8%と最も多く、情報のわかりやすさやアクセスのしやすさが強く求められています。次いで、「早く発見できるように健診などを充実する」が32.8%、「認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービス」が31.0%となっています。

(5) 金銭管理や契約行為ができなくなったときの対応

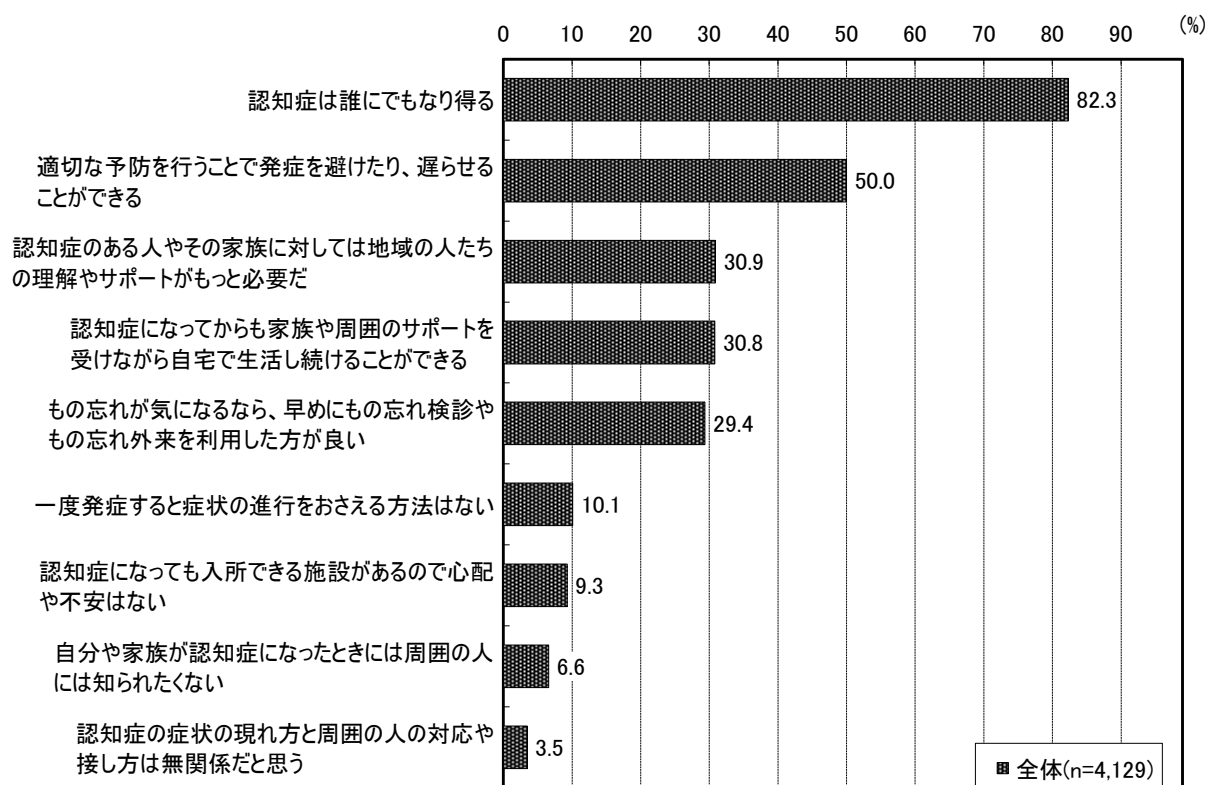
問10-5 もし、あなたが将来、認知症などにより、ご自身のお金の管理や各種契約を行うことができなくなった場合、誰（どこ）に相談や管理等をお願いしたいですか。（1つだけ）



○自分で金銭管理や契約ができなくなった場合の相談先としては、「家族に金銭管理や契約をお願いする」が83.1%と圧倒的に多く、家族への依存が大きいことがわかります。一方で、公的機関や専門職を想定する人は少なく、成年後見制度などの周知が課題となっています。

(6) 認知症に対するイメージ

問10-6 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージにあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

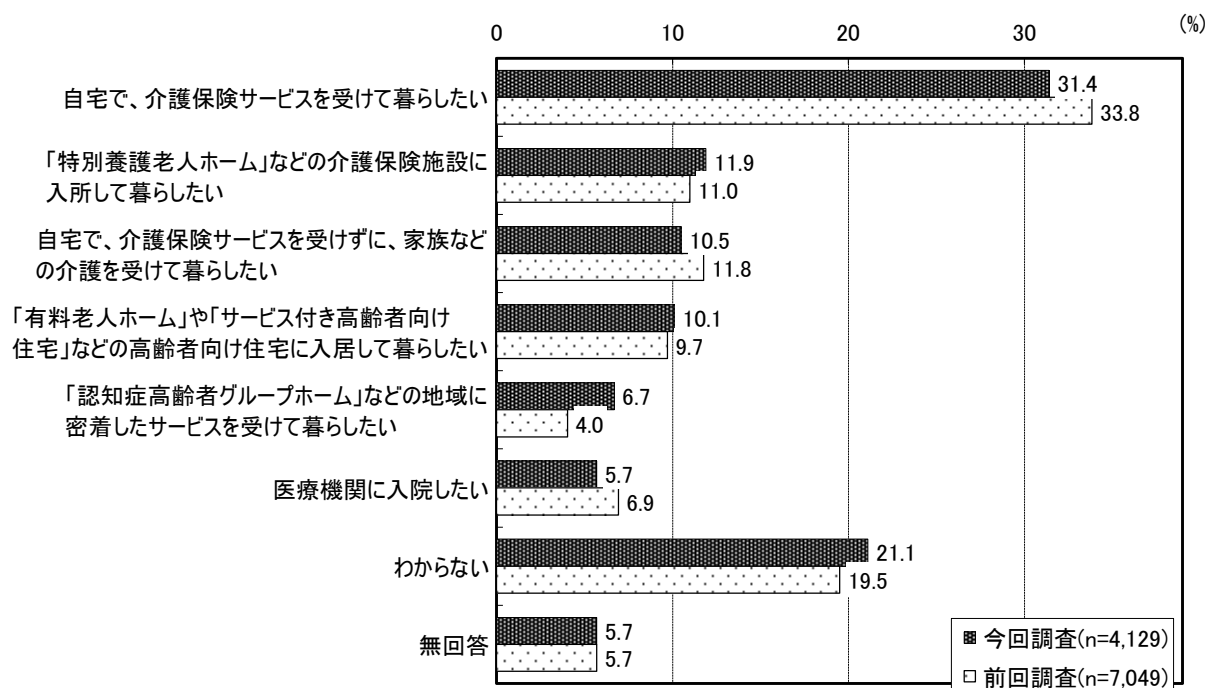


○認知症に対するイメージとしては、「認知症は誰にでもなり得る」が82.3%と最も多く、広く共有されています。また、「適切な予防を行うことで発症を避けたり、遅らせることができる」と考える人も50.0%と多くなっています。一方で、「一度発症すると症状の進行をおさえる方法はない」という回答も10.1%あり、認知症に関する知識及び本人に関する理解を深めるよう努めることが重要です。

問11 在宅生活の継続について

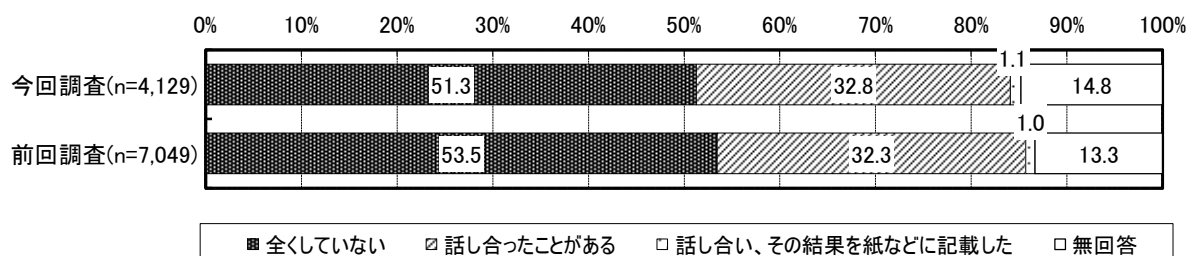
(1) 人生の最期を迎える時の暮らし方

問11-1 あなたは、今後、自分で身の回りのことができなくなった場合や、人生の最期を迎える時にどのような暮らしをおくりたいですか。(1つだけ)



○自分で身の回りのことができなくなった場合や人生の最期を迎える時の暮らし方としては、「自宅で、介護保険サービスを受けて暮らしたい」が31.4%と最も多く、在宅生活継続への希望が強いことがわかります。一方で、「わからない」も21.1%と多く、将来像を具体的に描けていない人も少なくありません。

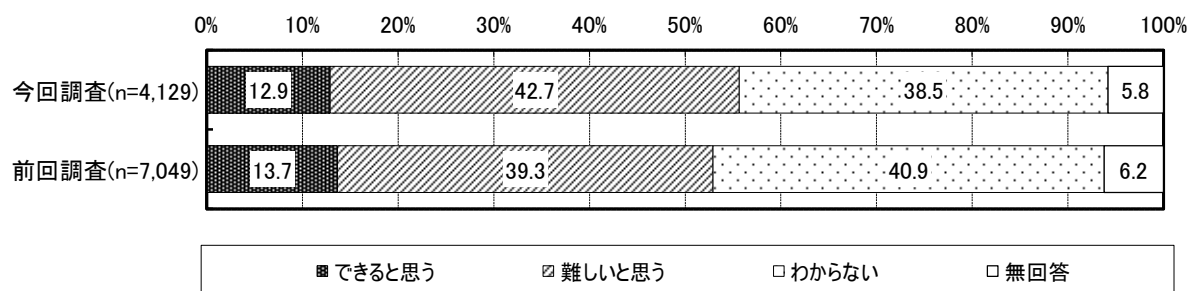
問11-2 問11-1 で回答したこと（人生の最期を迎える時におくりたい暮らし）について誰かと話し合いをしていますか。(1つだけ)



○人生の最期を迎える時の暮らしについては、「全くしていない」が51.3%と過半数を占めており、家族等との話し合いは十分進んでいません。「話し合ったことがある」は32.8%にとどまり、「話し合い、その結果を紙などに記載した」は1.1%となるなど、前回調査の結果と比べてもACP（人生会議）は十分進んでいません。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

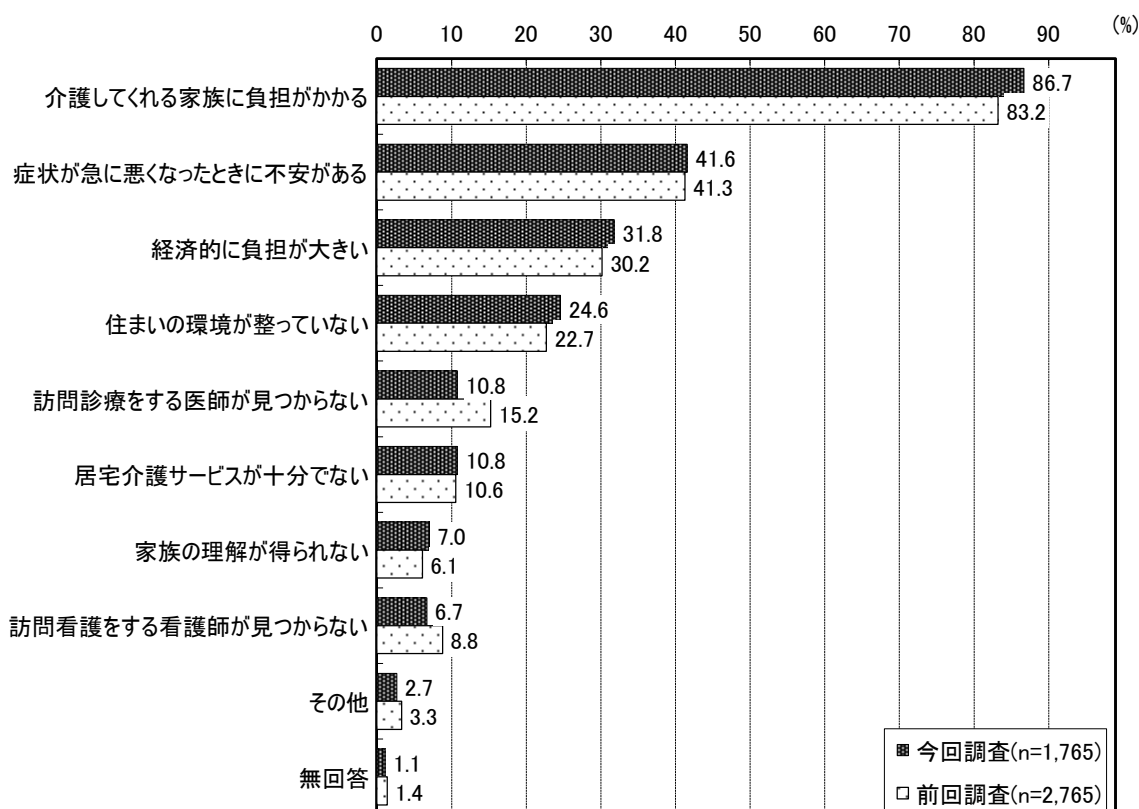
問11-3 あなたは、自宅で療養しながら、最期まで過ごすことができますか。
(1つだけ)



○自宅で療養しながら最期まで過ごせるかについては、「難しいと思う」が42.7%と最も多く、「わからない」も38.5%と多くなっています。「できると思う」は12.9%と少数にとどまっており、在宅看取りへの不安の強さがうかがえます。

問11-3で「2 難しいと思う」と答えた方のみ、お答えください。

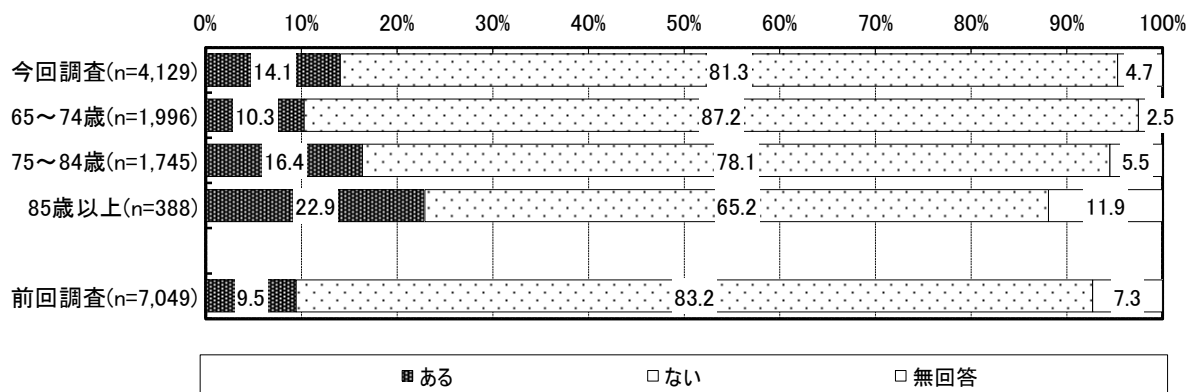
問11-3-1 難しいと思う理由は何ですか。(いくつでも)



○自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由としては、「介護してくれる家族に負担がかかる」が86.7%と突出して多く、在宅生活継続の最大の課題が家族負担にあることが明確となっています。次いで、「症状が急に悪くなったときに不安がある」が41.6%、「経済的に負担が大きい」が31.8%、「住まいの環境が整っていない」が24.6%と、家族負担と急変時に対する不安が最大の障壁となっています。

(2) 退院後に在宅医療・介護が必要となった経験と困ったこと

問11-4 今までに入院されたことがあり、退院後、在宅での医療や介護が必要となったことがありますか。(1つだけ)

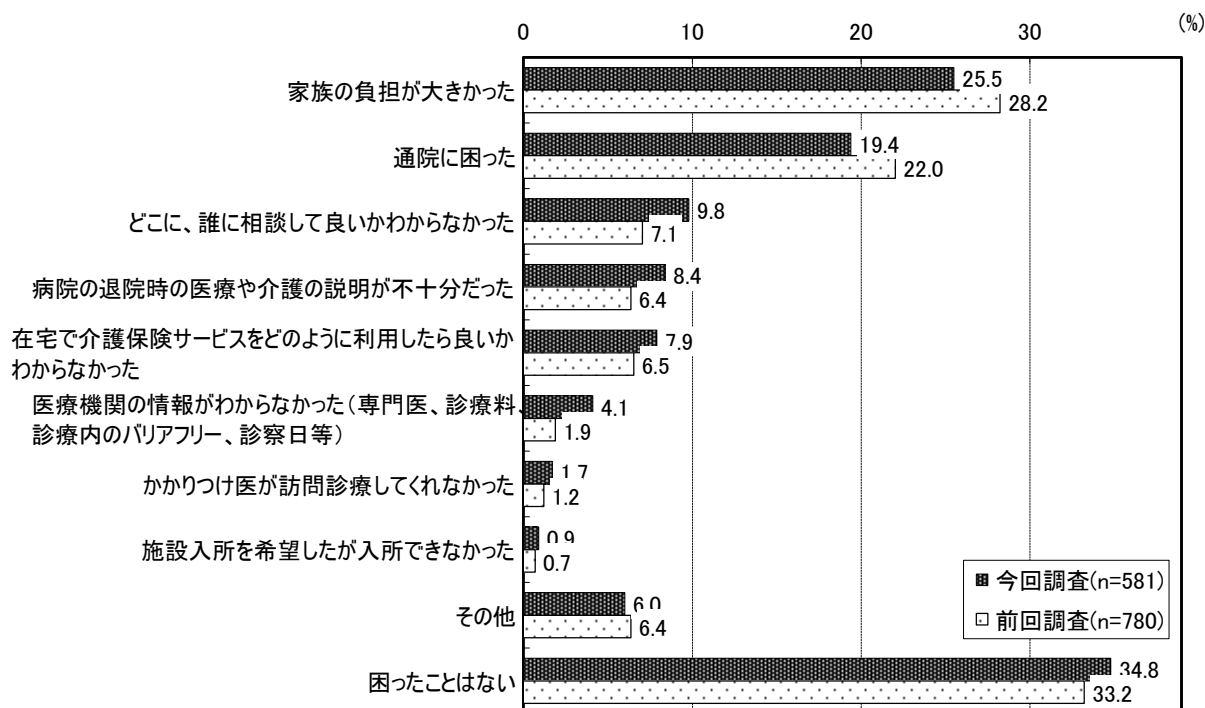


○入院後、退院して在宅で医療や介護が必要となった経験については、「ない」が81.3%と多いものの、「ある」も14.1%見られます。

○年齢別にみると、85歳以上で「ある」が22.9%と多く、入退院を繰り返しながら在宅生活続ける人が増えていることがうかがえます。

問11-4で「1 ある」と答えた方のみ、お答えください。

問11-4-1 退院時や退院後、困ったことはありますか。(いくつでも)

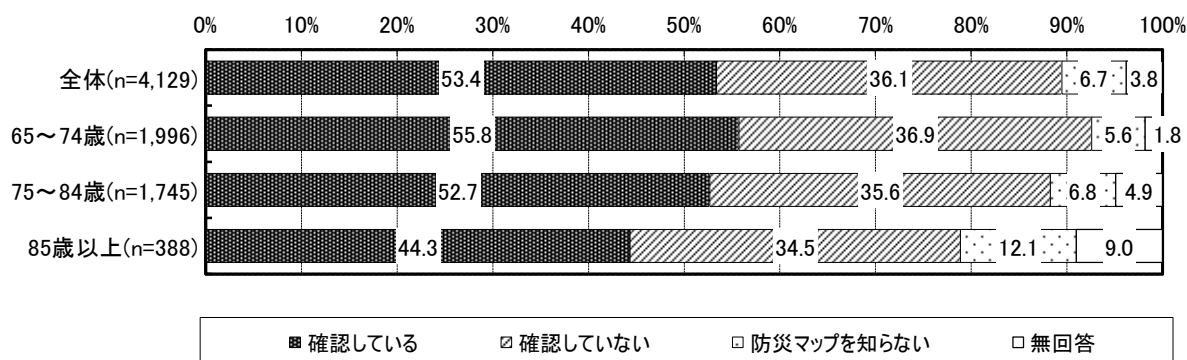


○退院時や退院後に困ったこととしては、「家族の負担が大きかった」が25.5%と最も多く、次いで「通院に困った」が19.4%、「どこに、誰に相談して良いかわからなかった」が9.8%、「病院の退院時の医療や介護の説明が不十分だった」が8.4%となっています。

問12 地域防災について

(1) 総合防災マップ（ハザードマップ）の周知・利用状況

問12-1 あなたは、泉南市の総合防災マップ〈ハザードマップ〉等で、ご自身の自宅がどのような災害の危険性があるか確認していますか。（1つだけ）

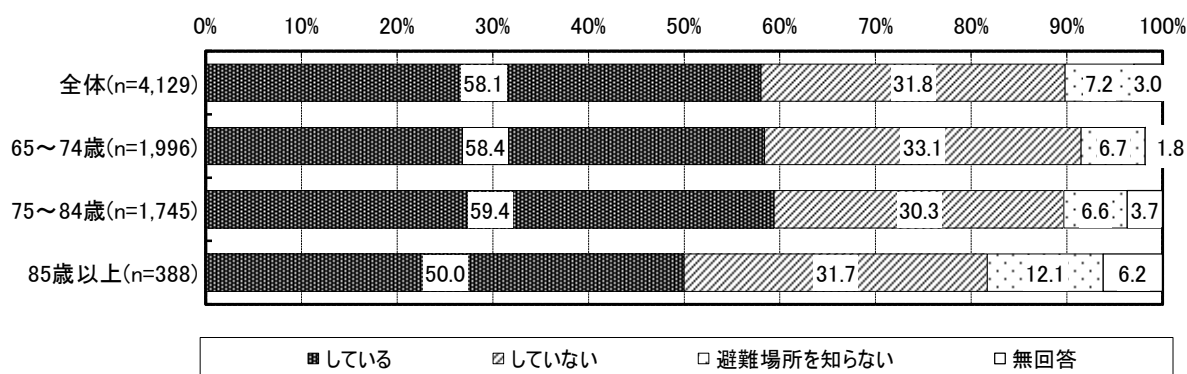


○防災マップ等による自宅周辺の危険性の確認については、「確認している」が53.4%と半数を超えていますが、「確認していない」人も36.1%と少なくありません。また、「防災マップを知らない」人も6.7%と一定程度見られます。

○年齢別にみると、85歳以上で「確認している」が44.3%と少なくなり、「防災マップを知らない」が12.1%と多くなっています。

(2) 災害時の避難や安否確認について

問12-2 地震や台風などの自然災害があったとき、避難場所へどう逃げるか、確認していますか。（1つだけ）

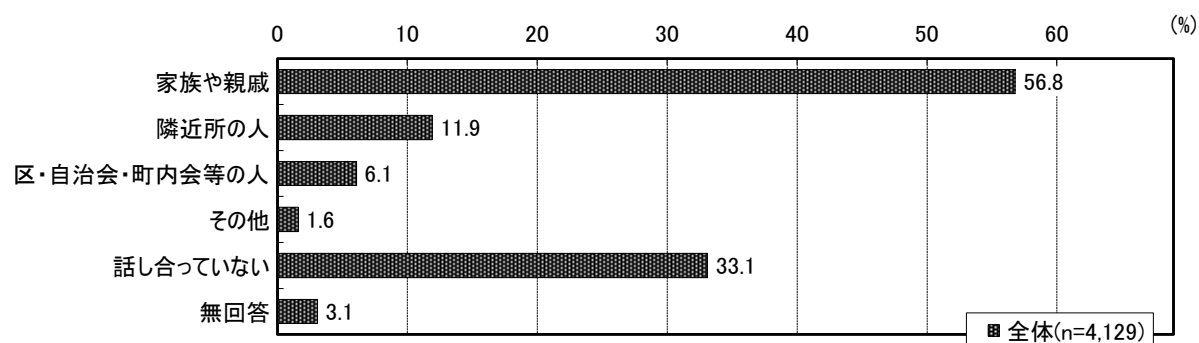


○避難場所への避難方法の確認については、「している」が58.1%と多いものの、「していない」が31.8%、「避難場所を知らない」が7.2%と一定程度見られます。

○年齢別にみると、85歳以上で「している」が50.0%と少なくなり、「避難場所を知らない」が12.1%と多くなっています。

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問12ー3 災害時の安否確認や集合場所について、どのような人と話し合っていますか。
(いくつでも)



○災害時の安否確認や集合場所については、「家族や親戚」と話し合っている人が56.8%と最も多くなっていますが、「話し合っていない」人も33.1%となっています。

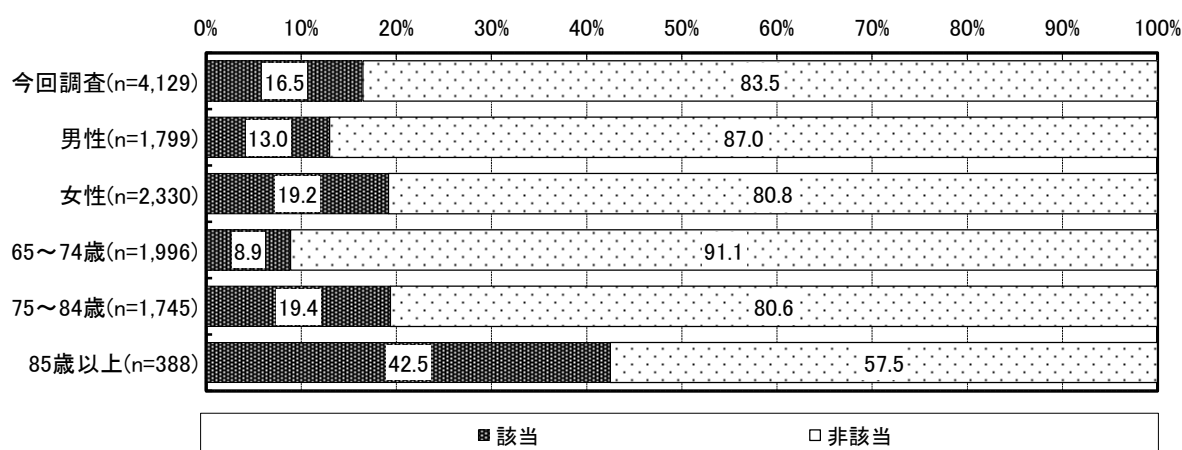
リスク判定

※「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」（令和7年8月 厚生労働省
老健局介護保険計画課、認知症施策・地域介護推進課、老人保健課）による

◆運動器の機能低下リスクの判定

○調査票の運動器機能に関する問2-1～問2-5について、5問中3問に該当した人を、
運動器の機能が低下していると判定しました。

問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	「3 できない」
問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	
問2-3 15分位続けて歩いていますか。	
問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1 何度もある」 「2 1度ある」
問2-5 転倒に対する不安は大きいですか。	「1 とても不安である」 「2 やや不安である」

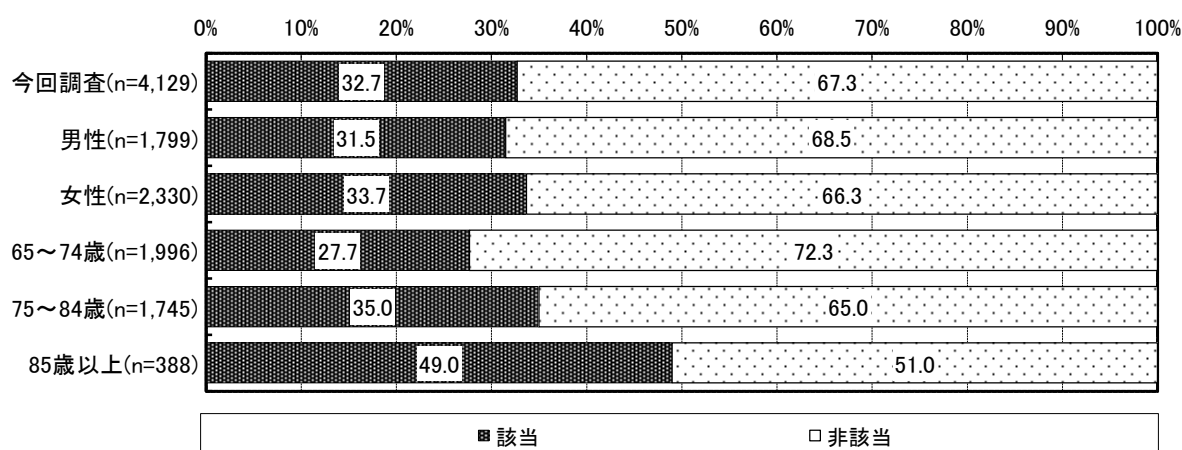


○運動器の機能低下リスクのある人は16.5%で、85歳以上では42.5%と多く見られます。

◆転倒リスクの判定

○調査票の転倒リスクに関する問2-4について、以下に該当した人を、転倒リスクがあると判定しました。

問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1 何度もある」 「2 1度ある」
-------------------------	-----------------------

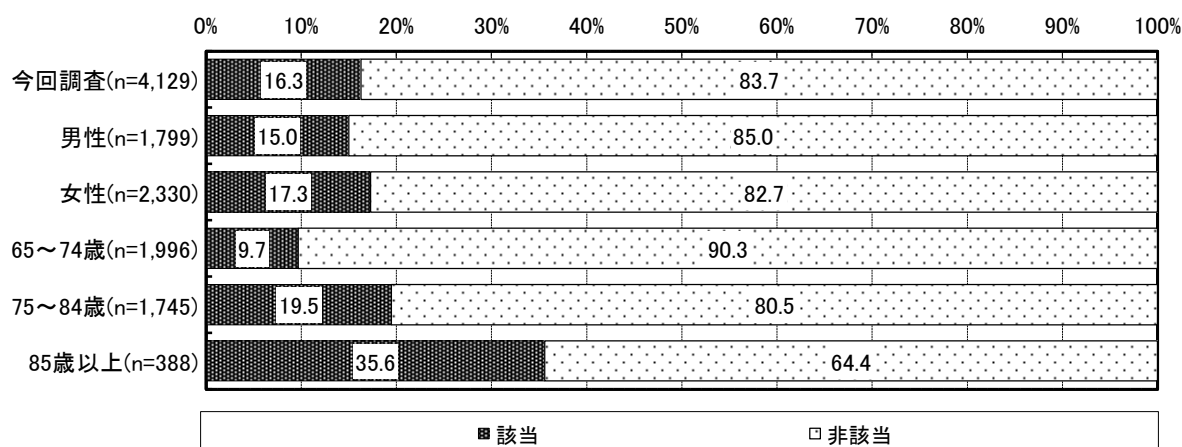


○転倒リスクのある人は32.7%で、85歳以上では49.0%に達しています。

◆閉じこもりのリスクの判定

○調査票の閉じこもりのリスクに関する問2-6について、以下に該当した人を、閉じこもりのリスクがあると判定しました。

問2-6 週に1回以上は外出していますか。	「1 ほとんど外出していない」 「2 週1回」
-----------------------	----------------------------

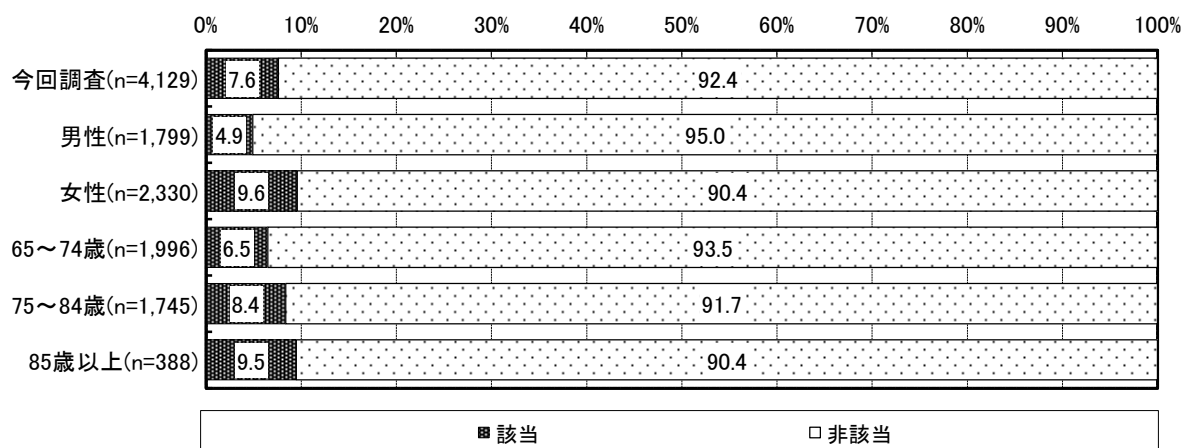


○閉じこもりのリスクのある人は16.3%で、85歳以上では35.6%となっています。

◆栄養改善リスクの判定

○調査票の栄養改善に関する問3-1について、以下に該当した人を、栄養改善のリスクがあると判定しました。

問3-1 BMI：体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}	18.5以下
--------------------------------	--------

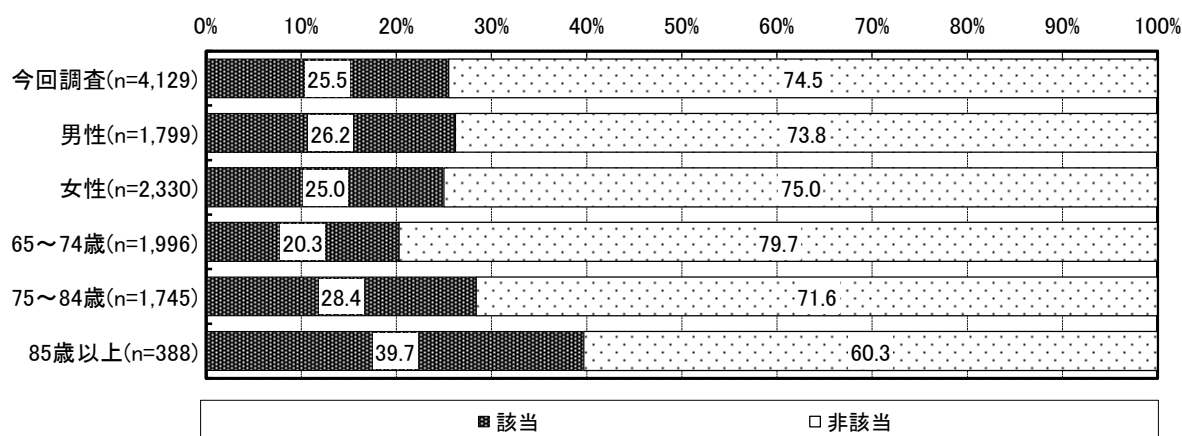


○栄養改善のリスクのある人は7.6%で、女性（9.6%）が男性（4.9%）よりやや多い結果となっています。

◆口腔機能の低下リスクの判定

○調査票の口腔機能に関する問3-2～問3-4について、3問中2問に該当した人を、口腔機能が低下していると判定しました。

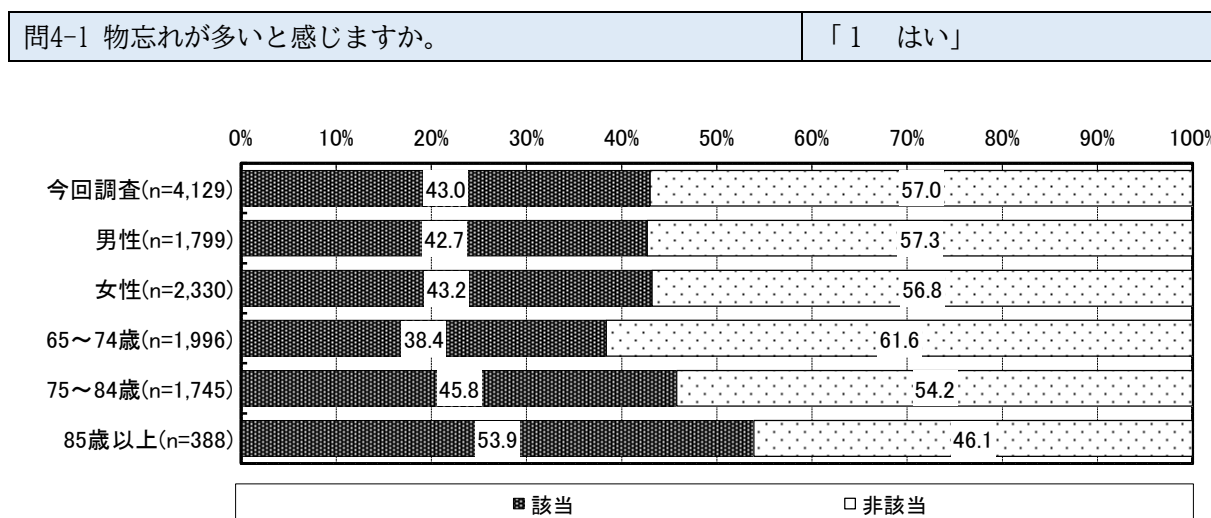
問3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	「1 はい」
問3-3 お茶や汁物等でむせることがありますか。	
問3-4 口の渇きが気になりますか。	



○口腔機能の低下リスクのある人は25.5%で、85歳以上では39.7%となっています。

◆認知機能の低下リスクの判定

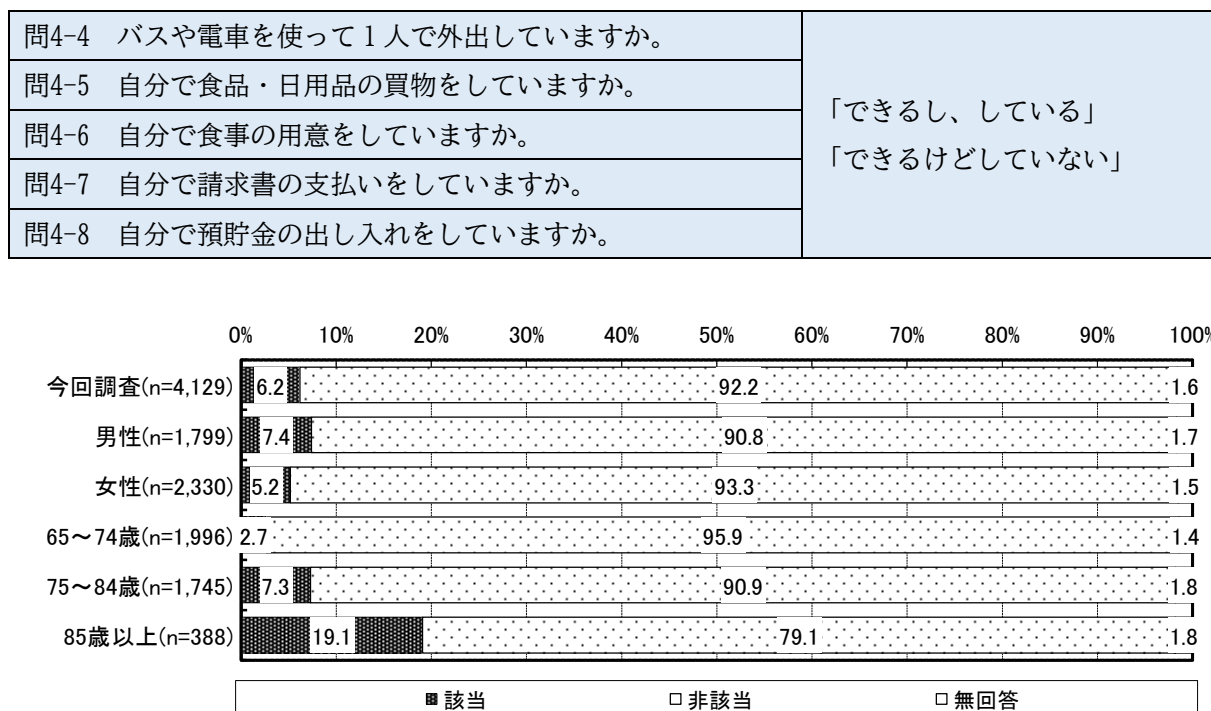
○調査票の認知機能に関する問4-1について、以下に該当した人を、認知機能が低下していると判定しました。



○物忘れが多いと感じるなど、認知機能の低下リスクのある人は43.0%で、85歳以上では53.9%となっています。

◆IADLの低い高齢者の判定

○調査票のIADLに関する問4-4～問4-8について、5問中3問以上該当しなかった人を、IADLの低い高齢者と判定しました。

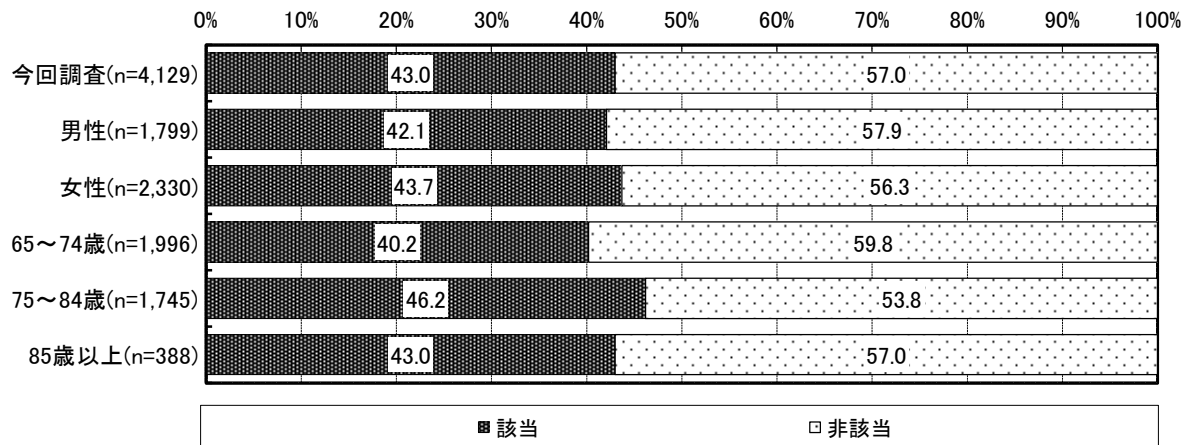


○IADLが低いと思われる人は6.2%となっていますが、85歳以上では19.1%見られます。

◆うつリスクの判定

○調査票のうつに関する問8-3～問8-4について、2問中1問に該当した人をうつリスクがあると判定しました。

問8-3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「1 はい」
問8-4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	



○うつリスクがある人は43.0%となっています。

調査結果の総括

① 家族構成・生活状況

高齢者の世帯構成については、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も多く、高齢夫婦のみの世帯が中心となっています。一方で、「1人暮らし」も約2割を占めており、特に85歳以上では単身世帯の割合が高くなっています。このことから、高齢化の進行に伴い、身近な支援者が少ない状況に置かれる高齢者が増加している実態がうかがえます。

また、普段の生活における介護・介助の必要性については、「必要ない」とする人が大半であるものの、「必要だが受けていない」「現在受けている」を合わせると1割程度おり、自立した生活を送っている層が多い一方で、支援ニーズを抱える層も一定数存在しています。特に85歳以上では支援を必要とする割合が大きく上昇しており、年齢の上昇とともに生活支援の必要性が高まる構造が明確となっています。

介護が必要となった原因としては、心疾患や脳卒中などの疾病に加え、骨折・転倒や高齢による衰弱など、加齢に伴う心身機能の低下が大きく影響していることが確認されます。

また、介護の担い手は配偶者や子どもなど家族が中心となっていますが、介護サービスも大きな役割を担っている現状が確認できました。

暮らし向きについては、「ふつう」と感じる人が最も多いものの、約3割が経済的な苦しさを感じており、高齢期の生活基盤に関わる経済的負担感が見受けられます。

② 身体機能・外出・移動

日常生活動作については、階段昇降や立ち上がり、継続歩行などの基本的な身体機能は全体として維持されている人が多く、自立した生活が保たれている層が多数を占めています。一方で、年齢が上がるにつれて運動機能低下の割合は大きくなり、特に85歳以上ではできないとする人が大幅に増加しています。

転倒については約3割が過去1年間に経験しており、半数以上が転倒への不安を感じているなど、転倒リスクは高齢者の日常生活における大きな課題となっています。

外出頻度は全体として高く、週2回以上外出している人が大半となっていますが、高齢期後半では外出回数の減少や外出控えが顕著となっています。外出を控える理由としては、足腰の痛みなど身体的要因のほか、交通手段の不足や楽しみの減少など心理的・環境的要因も影響していることが確認されます。

移動手段については徒歩や自動車が中心となっています。

③ 食生活・口腔機能

体格指数（BMI）については適正範囲が中心となっています。

また、咀嚼機能の低下やむせ、口の渇きなど口腔機能に関する自覚症状は一定程度見られます。歯磨き習慣は概ね定着していますが、自分の歯の本数や入れ歯の利用状況には個人差が大きく、口腔状態の二極化も見られます。

さらに、食事を共にする機会については日常的に確保されている人が多くみられます。

④ 生活機能・社会参加

電話や買い物、金銭管理などの生活機能は全体として維持されている人が多く、自立した生活能力は比較的高い水準にあります。しかし、年齢が上がるにつれてできないとする人が増加しており、日常生活支援の必要性が段階的に高まる状況が確認されます。

交流や社会参加については、友人宅訪問や相談役を担うなど一定の関わりが見られる一方、地域活動への参加状況は低調となっています。趣味や生きがいは多くの人が持っており、内容は身近で継続しやすい活動が中心となっています。

⑤ 地域活動・支え合い

地域の会やグループ活動への参加状況は全体として低く、参加していない人が多い状況となっています。一方で、条件が整えば参加してもよいと考える人も一定程度存在しており、潜在的な参加意欲は存在しています。

近所の人を支援できる内容としては話し相手やごみ出しなど日常的な支援が中心で、責任への不安や身体的制約などにより支援に消極的な人も少なくありません。地域での支え合いは存在するものの、担い手の負担感や関係性の希薄化が課題として浮かび上がっています。

⑥ 健康状態・不安

主観的健康感是比较的良好であり、幸福感も中位から高位に集中しています。一方で、気分の落ち込みや興味の低下など精神面の不調を感じる人も一定程度存在しています。

慢性疾患では高血圧を中心に複数疾患を抱える状況が見られ、健康や将来の介護に対する不安は多くの人が感じています。聴力低下など感覚機能の変化も進行しており、日常生活への影響が懸念されます。

⑦ 認知症への理解

本人か家族に認知症の症状がある人がいると感じる人が一定程度存在するものの、認知症に関する相談窓口は十分に知られていません。一方で、認知症は誰にでも起こり得るという認識は広く共有されており、正しい知識の普及や早期相談につながる環境づくりの必要性が示唆されます。

また、将来の金銭管理などについては家族への依存が非常に大きく、成年後見制度など制度的支援に対する理解や選択肢の広がり十分とはいえない状況が確認されます。

⑧ 在宅生活継続への意向

将来、身の回りのことができなくなった場合でも在宅で暮らしたいという意向は一定程度見られるものの、具体的な生活像を描けていない人も多くなっています。また、最期まで自宅で過ごすことは難しいと感じている人が多く、その理由として家族負担や急変時の不安が大きく挙げられています。

人生の最終段階の暮らし方について家族と話し合っていない人が過半数を占めており、将来への備えが十分に進んでいない状況もうかがえます。さらに、退院後の在宅生活では家族負担や通院困難などの課題が経験されており、医療と生活の両面での支援ニーズが存在しています。

■調査に用いた調査票

整理番号

泉南市 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【調査ご協力をお願い】

日頃から泉南市の高齢者施策にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本市では、高齢者の生活実態や、自立した生活を送る上での課題、今後の意向等をより的確に把握し、地域の実態に即した施策を推進していくため、65歳以上の市民の方についてアンケート調査を実施します。

本調査は、多くの質問項目を設けていますが、身近な内容で答えやすいものです。お忙しいとは存じますが、趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和7年12月 泉 南 市

【お問い合わせ先】

〒590-0592 泉南市樽井一丁目1番1号
 泉南市 福祉保険部 長寿社会推進課
 電 話 072-483-8254（直通） FAX 072-483-6477

【個人情報の取り扱いについて】

個人情報の保護および活用目的は以下の通りですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送もちまして、下記にご同意いただいたものとさせていただきます。

■個人情報の保護及び活用目的について

- この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、泉南市の地域包括ケア計画策定の目的以外には利用いたしません。また、当該情報については、個人情報保護法に基づき、市で適切に管理いたします。
- ただし、地域包括ケア計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する泉南市以外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。（お名前などの個人情報は出ません。）
- また、この調査の回答内容については上記の目的以外に使用することはありませんが、未回答の方には次年度以降、支援が必要な高齢者の早期把握等を目的とした介護予防態勢調査の対象となる場合があります。

1

問1 あなたの家族や生活状況について

1 家族構成をお教えてください。（1つだけ）
1 1人暮らし 2 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） 3 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 4 息子・娘との2世帯 5 その他
2 あなたは、普段の生活でどんなかの介護・介助が必要ですか。（1つだけ）
1 介護・介助は必要ない ⇒3へ 2 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない ⇒2-1へ 3 現在、何らかの介護を受けている ⇒2-1、2-2へ （介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
2で「2」または「3」と答えた方（介護・介助が必要な方）のみ、お答えください。
2-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）
1 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） 2 心臓病 3 がん（悪性新生物） 4 呼吸器の病気（肺炎、肺がん等） 5 関節の病気（リウマチ等） 6 認知症（アルツハイマー病等） 7 パーキンソン病 8 糖尿病 9 腎臓病（透析） 10 視覚・聴覚障害 11 骨折・転倒 12 骨髄損傷 13 高齢による衰弱 14 その他（ ） 15 不明
2で「3」と答えた方（介護・介助を受けている方）のみ、お答えください。
2-2 “主”に”どんな”の介護・介助を受けていますか。（いくつでも）
1 配偶者（夫・妻） 2 息子 3 娘 4 子の配偶者 5 孫 6 兄弟・姉妹 7 介護サービスのヘルパー 8 その他（ ）
3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（1つだけ）
1 大変苦しい 2 やや苦しい 3 ふつう 4 ややゆとりがある 5 大変ゆとりがある
4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（1つだけ）
1 持家（一戸建て） 2 持家（集合住宅） 3 公営賃貸住宅（市・府営、都市機構、公社など） 4 民間賃貸住宅（一戸建て） 5 民間賃貸住宅（集合住宅） 6 借家 7 その他

3

記入に際してのお願い

1 この調査の対象者は、令和7年9月30日現在、65歳以上の方です。

65歳以上 : 無作為に抽出した5,400人
 ただし、要介護認定を受けている方を除く。

2 何らかの事情でご本人が記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の意思を尊重して代わってご回答くださるようお願いいたします。

3 ご記入後は、無記名のまま、調査票全て（表紙も含む）を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れ、令和7年12月26日（金）までに、切手を貼らずにポストに投函してください。

4 この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。

介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、介護認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態
 介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

記入例	ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲んでください。	① はい 2 いいえ
	数字を記入する欄は右詰めでご記入ください。	6 2 KR

★まず、上記をお読みいただき、以下の①または、②のご記入をお願いします。

① 回答者の記入	記入日 令和 年 月 日
	調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。
	1 あて名のご本人が記入 2 ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄 ） 3 その他（ ）
⇒次ページからご回答をお願いします。	
② 回答者の記入	事情により回答できない場合は、大変お手数ですが下記に理由をお書きいただき、その他は白紙のまま同封の封筒にてご返送ください。
	回答できない理由

2

問2 からだを動かすことについて

1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。（1つだけ）
1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（1つだけ）
1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
3 15分位続けて歩いていますか。（1つだけ）
1 できるし、している 2 できるけどしていない 3 できない
4 過去1年間に転んだ経験がありますか。（1つだけ）
1 何度もある 2 1度ある 3 ない
5 転倒に対する不安は大きいですか。（1つだけ）
1 とても不安である 2 やや不安である 3 あまり不安でない 4 不安でない
6 週に1回以上は外出していますか。（1つだけ）
1 ほとんど外出しない 2 週1回 3 週2～4回 4 週5回以上
7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（1つだけ）
1 とても減っている 2 減っている 3 あまり減っていない 4 減っていない
8 外出を控えていますか。（1つだけ）
1 はい（外出を控えている） ⇒8-1へ 2 いいえ（外出を控えていない） ⇒9へ
8で「1」と答えた方（外出を控えている方）のみ、お答えください。
8-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。（いくつでも）
1 病気 2 障害（脳卒中の後遺症など） 3 足腰などの痛み 4 トイレの心配（失禁など） 5 耳の障害（聞こえの問題など） 6 目の障害 7 外での楽しみがない 8 経済的に出られない 9 交通手段がない 10 その他（ ）
9 外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）
1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 自動車（自分で運転） 5 自動車（人に乗せてもらう） 6 電車 7 路線バス 8 病院や施設のバス 9 車いす 10 電動車いす（カート） 11 歩行者・シルバーカー 12 タクシー 13 その他（ ）

4

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問3 食えることについて

1 身長・体重を教えてください。			
身長		体重	
	百の位 十の位 一の位		百の位 十の位 一の位
	cm		kg
数字をご記入ください (小数点以下は省略)			
2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
3 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
4 口の渇きが気になりますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
5 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
6 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(1つだけ) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)			
1	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	⇒	- へ
2	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	⇒	へ
3	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	⇒	- へ
4	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	⇒	へ
6で「1」または「3」と答えた方(入れ歯を利用している方)のみ、お答えください。			
- 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
7 噛み合わせは良いですか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
8 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
9 どなたかと食事をとにもする機会はありますか。(1つだけ)			
1	毎日ある	2	週に何度かある
3	月に何度かある	4	年に何度かある
5	ほとんどない		

5

問4 毎日の生活について

1 物忘れが多いと感じますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
3 今日が何月何日かわからない時がありますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
4 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(1つだけ)			
1	できるし、している	2	できるけどしていない
3	できない		
5 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つだけ)			
1	できるし、している	2	できるけどしていない
3	できない		
6 自分で食事の用意をしていますか。(1つだけ)			
1	できるし、している	2	できるけどしていない
3	できない		
7 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つだけ)			
1	できるし、している	2	できるけどしていない
3	できない		
8 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つだけ)			
1	できるし、している	2	できるけどしていない
3	できない		
9 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
10 新聞を読んでいますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
11 本や雑誌を読んでいますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
12 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
13 友人の家を訪ねていますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
14 家族や友人の相談にのっていますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
15 病人を見舞うことができますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ

6

16 若い人に自分から話しかけることがありますか。(1つだけ)			
1	はい	2	いいえ
17 趣味はありますか。「1 趣味あり」の方は()内に趣味を記入ください)			
1	趣味あり	⇒	()
2	思いつかない		
18 生きがいがありますか。(1つだけ)			
1	生きがいあり	⇒	- へ
2	思いつかない		
18で「1」と答えた方(生きがいあり)のみ、お答えください。			
- 生きがいを感じるものを教えてください。(いくつでも)			
1	家族や親族との交流	2	友人・仲間との交流
3	趣味	4	勉強・教養の学習
5	賞金を伴う仕事	6	ボランティア活動
7	地域の助け合い活動	8	スポーツ・健康教室への参加
9	老人クラブへの参加	10	旅行・温泉
11	認知症カフェ	12	その他()

問5 地域での活動について

1 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。 (①～⑥それぞれに1つずつ回答してください)			
①ボランティアのグループ	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
②スポーツ関係のグループやクラブ	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
③趣味関係のグループ	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
④学習・教養サークル	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
⑤WAO体操 ^{※1} ・MC I(軽度認知障害)予防教室 ^{※2} など介護予防のための速い場	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
⑥老人クラブ	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない

7

1 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。 (①～⑥それぞれに1つずつ回答してください)			
⑦町内会・自治会	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない
⑧収入のある仕事	1 週4回以上 4 月1～3回	2 週2～3回 5 年に数回	3 週1回 6 参加していない

※1 WAO体操とは、手首や足首に「重り」をつけて行う、住民主体の介護予防体操です。
※2 MC I(軽度認知障害)予防教室とは、地域の集会所などに講師が出席して、運動と認知課題を組み合わせて行う、認知症予防を目的とした介護予防教室です。

2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つだけ)			
1	ぜひ参加したい	2	参加してもよい
3	参加したくない	4	既に参加している
3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つだけ)			
1	ぜひ参加したい	2	参加してもよい
3	参加したくない	4	既に参加している

問6 就労について

1 現在のあなたの就労状態はどれですか(いくつでも)			
1	職に就いたことがない	2	引退した
3	常勤(フルタイム)	4	非常勤(パート・アルバイト等)
5	自営業	6	求職中
7	その他		
1で「2」と答えた方(引退した)のみ、お答えください。			
- あなたはいつ引退しましたか			
〔昭和・平成・令和・西暦〕 年			

8

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問7 たすけあいについて

1 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（いくつでも）					
1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども			
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人			
7 その他（ ）	8 そのような人はいない				
2 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（いくつでも）					
1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども			
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人			
7 その他（ ）	8 そのような人はいない				
3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいますか。（いくつでも）					
1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども			
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人			
7 その他（ ）	8 そのような人はいない				
4 反対に、看病や世話をしてくれる人はいますか。（いくつでも）					
1 配偶者	2 同居の子ども	3 別居の子ども			
4 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5 近隣	6 友人			
7 その他（ ）	8 そのような人はいない				
5 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも）					
1 自治会・町内会・老人クラブ	2 社会福祉協議会・民生委員				
3 ケアマネジャー	4 医師・歯科医師・看護師				
5 地域包括支援センター・役所	6 その他（ ）				
7 そのような人はいない					
6 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つだけ）					
1 毎日ある	2 週に何度ある	3 月に何度ある			
4 年に何度ある	5 ほとんどない				
7 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。（1つだけ）					
1 0人（いない）	2 1～2人	3 3～5人			
4 6～9人	5 10人以上				

9

8 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）	
1 近所・同じ地域の人	2 幼なじみ
3 学生時代の友人	4 仕事での同僚・元同僚
5 趣味や関心が同じ友人	6 ボランティア等の活動での友人
7 その他（ ）	8 いらない

問8 健康や介護予防について

1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1つだけ）												
1 とてもよい	2 まあよい	3 あまりよくない	4 よくない									
2 あなたは、現在の程度幸せですか。（1つだけ） （「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください）												
とても不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	とても幸せ
3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（1つだけ）												
1 はい	2 いいえ											
4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（1つだけ）												
1 はい	2 いいえ											
5 前より耳が遠くなった、聞こえにくくなったと自分で感じたり、人からそうに言われることがありますか。（1つだけ）												
1 よくある	2 たまにある	3 そのようなことはない										
6 耳が聞こえにくくなったと感じた時に、補聴器を使いたいと思いますか。（1つだけ）												
1 すでに補聴器を使っている	2 なるべく早く補聴器を使いたい	3 補聴器はもう少し先でよい	4 補聴器は必要ない									
7 補聴器を持っていますか。持っている場合は、使用頻度はどのくらいですか。（1つだけ）												
1 補聴器を持っていない	2 ほとんど毎日、使用している	3 週3～5日、使用している	4 週1～2日、使用している	5 持っているが、ほとんど使用していない								

10

8 お酒は飲みますか。（1つだけ）	
1 ほぼ毎日飲む	2 時々飲む
3 ほとんど飲まない	4 もともと飲まない
9 タバコは吸っていますか。（1つだけ）	
1 ほぼ毎日吸っている	2 時々吸っている
3 吸っていたがやめた	4 もともと吸っていない
10 現在治療中、または後遺症のある病気がありますか。（いくつでも）	
1 ない	2 高血圧
3 脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	4 心臓病
5 糖尿病	6 高脂血症（脂質異常）
7 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	8 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9 腎臓・前立腺の病気	10 筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
11 外傷（転倒・骨折等）	12 がん（悪性新生物）
13 血液・免疫の病気	14 うつ病
15 認知症（アルツハイマー病等）	16 パーキンソン病
17 目の病気	18 耳の病気
19 その他（ ）	20 特になし
11 あなたは現在、不安に思っていることがありますか。（いくつでも）	
1 自分の健康	2 自分の介護に関すること
3 家族の介護に関すること	4 仕事に関すること
5 人間関係に関すること	6 生きがい・将来のこと
7 住まいに関すること	8 収入や家計に関すること
9 親や子どもに関すること	10 災害に関すること
11 その他（ ）	12 特になし

問9 地域づくりについて

1 泉南市には、地域包括支援センターが国道26号を境に海側と山側に一か所ずつ設置されています。この地域包括支援センターをご存じですか。（1つだけ） （海側：なでしこりんくう、山側：六尾の郷）	
1 どのような活動をしているか知っている	
2 聞いたことはあるが、どのような活動をしているかは知らない	
3 まったく知らない	

11

2 近所の人が困っている時に、あなたご自身が、支援できることはありますか。（いくつでも）	
1 配食（弁当を受け取って届けに行く）	2 ごみ出し
3 買物（同行・代行）	4 外出の手助け（付添・介助・送迎等）
5 家の掃除や洗濯	6 食事の準備・調理・後始末など
7 草取りや植木の手入れ	8 家の中の簡単な修理や電球交換など
9 話し相手	10 健康づくりのための教室などへの参加
11 居場所づくりのためのサロンなど	12 その他（ ）
13 特にできることはない・何もしたくない	⇒[2-1]へ
2で「13」と答えた方（特にできることはない・何もしたくない方）のみ、お答えください。	
[2-1] 特にできることはない・何もしたくない理由は何ですか。（いくつでも）	
1 体の状態などで外出しにくいから	2 時間的に余裕がないから
3 人と交流することが苦手だから	4 他人の自宅に入りにくいから
5 近所づきあいがいいから	6 支援する側にメリットがないから
7 何かあった時に、責任がとれないから	8 その他（ ）
3 今後利用したいサービス（有償）はありますか。（いくつでも）	
1 配食	2 ごみ出し
3 買物（同行・代行）	4 外出の手助け（付添・介助・送迎等）
5 自宅の掃除や洗濯	6 食事の準備・調理・後始末など
7 草取りや植木の手入れ	8 家の中の簡単な修理や電球交換など
9 話し相手	10 健康づくりのための教室などへの参加
11 居場所づくりのためのサロンなど	12 その他（ ）
4 身近な場所に地域住民などが集まる交流の場（サロンなど）があれば、どのような活動を行いたいと思いますか。（いくつでも）	
1 みんなで行う簡単な体操	2 世代間交流（子どもなどの交流）
3 いろいろな相談	4 茶話会
5 食事会	6 趣味の活動
7 学習会、勉強会	8 映画鑑賞
9 その他（ ）	10 特に行いたいものはない

12

*** I 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ***

問10 認知症について

1 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つだけ)	
1 はい	2 いいえ
2 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)	
1 はい ⇒[2-1]へ	2 いいえ
2で「1」と答えた方(はい)のみ、お答えください。	
[2-1] どの相談窓口を知っていますか。(いくつでも)	
1 地域包括支援センター	2 認知症初期集中支援チーム
3 認知症カフェ	4 ケアマネジャー
5 民生委員	6 市役所
7 社会福祉協議会	8 かかりつけの病院や診療所等の医療機関※
9 認知症専門医療機関	10 その他 ()
※かかりつけの病院や診療所等の医療機関とは、健康について診察や相談をする医療機関のことで、診療科(専門)は問いません。	
3 あなたはこれまでに認知症サポーター養成講座※を受講したことがありますか。(1つだけ)	
1 受講したことがある	2 受講したことはない
※認知症サポーター養成講座とは、泉南市やボランティアが主催となり、認知症についての正しい理解を字べる講座です。	
4 ご自身やご家族が認知症になった時に、どのような支援があればよいと思いますか。(3つまで)	
1 相談窓口や病院、介護サービスなどの情報が簡単に収集できる仕組み	
2 早く発見できるように検診などを充実する	
3 専門医・専門医療機関を増やす	
4 認知症の人が活躍できる場、社会参加できる機会	
5 認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービス	
6 地域住民による日常的な見守り活動を充実する	
7 家族交流など介護する家族の精神的負担を軽減できる場	
8 認知症の人が行方不明になった場合に対応できるネットワークをつくる	
9 その他 ()	
10 特になし	

13

5 もし、あなたが将来、認知症などにより、ご自身のお金の管理や各種契約を行うことができなくなった場合、誰(どこ)に相談や管理等をお願いしたいですか。(1つだけ)
1 家族に金銭管理や契約をお願いする
2 友人や知人に金銭管理や契約をお願いする
3 弁護士や司法書士等の専門職をお願いする
4 市役所に相談する
5 近くの民生委員などに相談する
6 地域包括支援センターに相談する
7 社会福祉協議会(成年後見制度※・日常生活自立支援事業)に相談する
8 わからない

※認知症、知的障害、精神障害などの精神上の障害によって判断能力が低下した方について、家庭裁判所によって選ばれた成年後見人等が、本人に代わって権利や財産を守り、意思決定を支援する制度です。

6 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージに当てはまるものをお答えください。(いくつでも)
1 認知症は誰にでもなり得る
2 適切な予防を行うことで発症を避けたり、遅らせることができる
3 一度発症すると症状の進行をおさえる方法はない
4 認知症のある人やその家族に対しては地域の人たちの理解やサポートがもっと必要だ
5 自分や家族が認知症になったときには周囲の人には知られたくない
6 認知症の症状の現れ方と周囲の人の対応や接し方は無関係だと思う
7 もの忘れが気になるなら、早めにもの忘れ検診やもの忘れ外来を利用した方がよい
8 認知症になってからも家族や周囲のサポートを受けながら自宅で生活し続けることができる
9 認知症になっても入所できる施設があるので心配や不安はない
10 私が住んでいる地域は認知症のある人にとっても、住みやすい地域だと思う

14

問11 在宅生活の継続について

1 あなたは、今後、自分で身の回りのことができなくなった場合や、人生の最期を迎える時にどのような暮らしをおくりたいですか。(1つだけ)		
1 自宅で、介護保険サービスを受けずに、家族などの介護を受けて暮らしたい		
2 自宅で、介護保険サービスを受けて暮らしたい		
3 「認知症高齢者グループホーム」※1などの地域に密着したサービスを受けて暮らしたい		
4 「有料老人ホーム」※2や「サービス付き高齢者向け住宅」※3などの高齢者向け住宅に入居して暮らしたい		
5 「特別養護老人ホーム」※4などの介護保険施設に入所して暮らしたい		
6 医療機関に入院したい		
7 わからない		
※1 認知症高齢者グループホームとは、認知症のために介護が必要とする方が、介護や機能訓練を受けながら、少人数で共同生活をするところです。		
※2 有料老人ホームとは、利用権や賃貸などの形態で入居し、施設が提供する介護や、介護保険の訪問介護などを利用しながら当該施設の居室で生活をするところです。		
※3 サービス付き高齢者向け住宅とは、居室の広さやバリアフリー等が一定の条件を満たし、安否確認、生活相談などのサービス提供が義務付けられている登録住宅です。		
※4 特別養護老人ホームとは、寝たきりや認知症などにより、常に介護が必要で自宅での介護が困難となった方(要介護3以上)のための施設です。		
2 1で回答したこと(人生の最期を迎える時にやりたい暮らし)について誰かと話し合いをしていますか。(1つだけ)		
1 全くしていない		
2 話し合ったことがある		
3 話し合い、その結果を紙などに記載した		
3 あなたは、自宅で療養しながら、最期まで過ごすことができると思いますか。(1つだけ)		
1 できると思う	2 難しいと思う ⇒[3-1]へ	3 わからない
3で「2」と答えた方(自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う方)のみ、お答えください。		
[3-1] 難しいと思う理由は何ですか。(いくつでも)		
1 介護してくれる家族に負担がかかる	2 家族の理解が得られない	
3 住まいの環境が整っていない	4 症状が急に悪くなったときに不安がある	
5 経済的に負担が大きい	6 訪問診療をする医師が見つからない	
7 訪問看護をする看護師が見つからない	8 居宅介護サービスが十分でない	
9 その他 ()		

15

4 今までに入院されたことがあり、退院後、在宅での医療や介護が必要となったことがありますか。(1つだけ)	
1 ある ⇒[4-1]へ	2 ない
4で「1」と答えた方(退院後、在宅での医療や介護が必要になったことがある方)のみ、お答えください。	
[4-1] 退院時や退院後、困ったことはありますか。(いくつでも)	
1 病院の退院時の医療や介護の説明が不十分だった	
2 どこに、誰に相談して良いかわからなかった	
3 退院に困った	
4 かかりつけ医※が訪問診療してくれなかった	
5 医療機関の情報がわからなかった(専門医、診療科、診療内のバリアフリー、診療日等)	
6 施設入所を希望したが入所できなかった	
7 在宅で介護保険サービスをどのように利用したら良いかわからなかった	
8 家族の負担が大きかった	
9 その他 ()	
10 困ったことはない	

※かかりつけ医とは、健康について診察や相談をする医師のことで、医師の診療科(専門)は問いません。

問12 地域防災について

1 あなたは、泉南市の総合防災マップ(ハザードマップ)等で、ご自身の自宅がどのような災害の危険性があるか確認していますか。(1つだけ)		
1 確認している	2 確認していない	3 防災マップを知らない
2 地震や台風などの自然災害があったとき、避難場所へどう逃げたか、確認していますか。(1つだけ)		
1 している	2 していない	3 避難場所を知らない
3 災害時の安否確認や集合場所について、どのような人と話し合っていますか。(いくつでも)		
1 家族や親戚	2 隣近所の人	3 区・自治会・町内会等の人
4 その他 ()		5 話し合っていない

ご協力ありがとうございました。
記入もれがないか、今一度お確かめください。
記入した調査票は全て(表紙も含みます)を3つ折りにして、同封している返信用封筒に入れ、**令和7年12月26日(金)まで**に、切手を貼らずに投函してください。

16

II 在宅介護実態調査

調査の概要

(1) 調査目的

「在宅介護実態調査」は、介護保険事業計画の策定において、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向け、介護サービスの利用の実態を把握し、今後の介護サービスのあり方を検討することを目的として、主に在宅で要支援・要介護認定を受けている方を対象として調査を実施しました。

(2) 調査の対象と実施方法

調査対象	在宅で生活をしている要介護・要支援認定を受けている人のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた人
調査方法	認定調査員による聞き取り
調査期間	令和7(2025)年11月10日から令和8(2026)年2月6日
回収状況	有効回答数：312件

※各設問の母数n(Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ及び集計表内の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

(3) 回答者（調査対象者）の属性

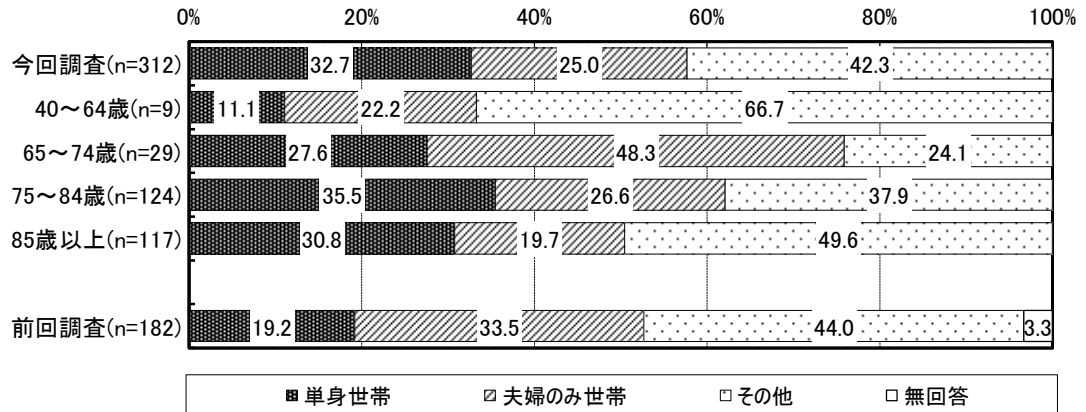
性別	男性 31.1%、女性 58.3%、不明 10.6%
年齢	40～64歳 2.9%、65～74歳 9.3%、75～84歳 39.7%、85歳以上 37.5% 不明 10.6%
要介護度	要支援1・2 24.4%、要介護1・2 42.3%、要介護3～5 22.1% 不明 11.2%

※各属性の不明は、調査票に記載された被保険者番号と認定データが紐づけできなかったもの

集計結果

(1) 世帯類型

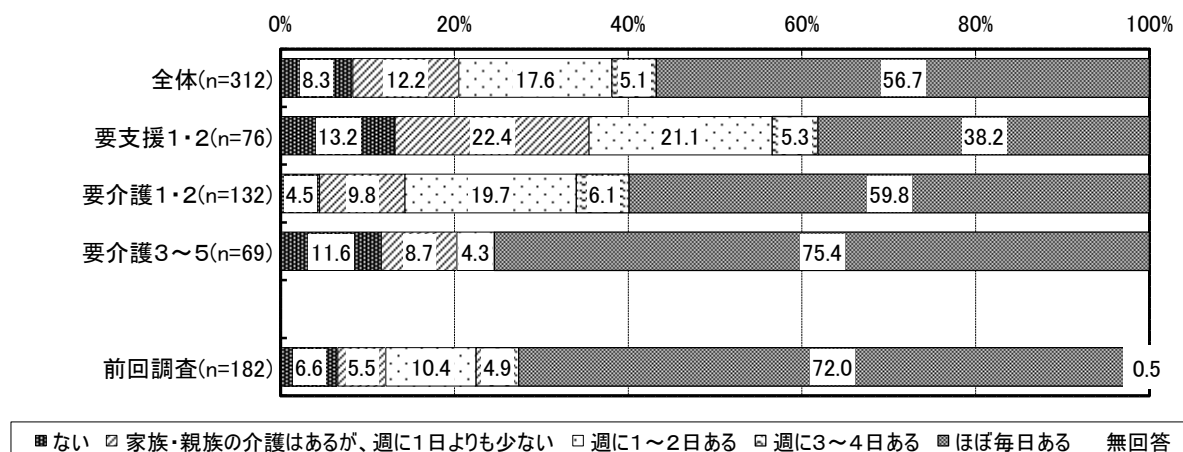
A票問1 世帯類型について、ご回答ください。(1つを選択)



- 「その他」の世帯（同居世帯）が42.3%と最も多く、次いで「単身世帯」が32.7%、「夫婦のみ世帯」が25.0%となっています。単身や夫婦のみ世帯が合わせて約6割を占めており、在宅介護を支える世帯基盤の脆弱さがうかがえます。
- 年齢別にみると、年齢が高くなるほど「夫婦のみ世帯」が減少し、「その他」の世帯が増える傾向にあります。
- 前回調査の結果と比べると、「単身世帯」が大きく増加しています。

(2) 家族等による介護の頻度

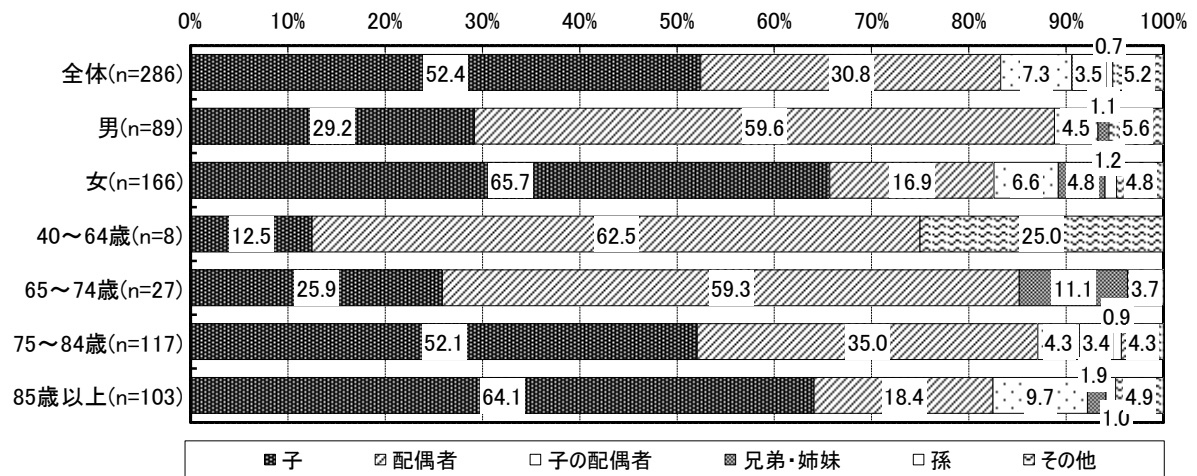
A票問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(1つを選択)



- 「ほぼ毎日ある」が56.7%を占め、家族・親族による介護が日常的に行われている状況が明らかです。これに対し、「ない」は8.3%にとどまっています。
- 要介護度別にみると、要支援1・2で「ほぼ毎日ある」が38.2%であるのに対し、要介護3～5では75.4%に達しています。要介護度が多くなるほど家族介護の頻度が大きく上昇しています。

(3) 主な介護者の本人との関係

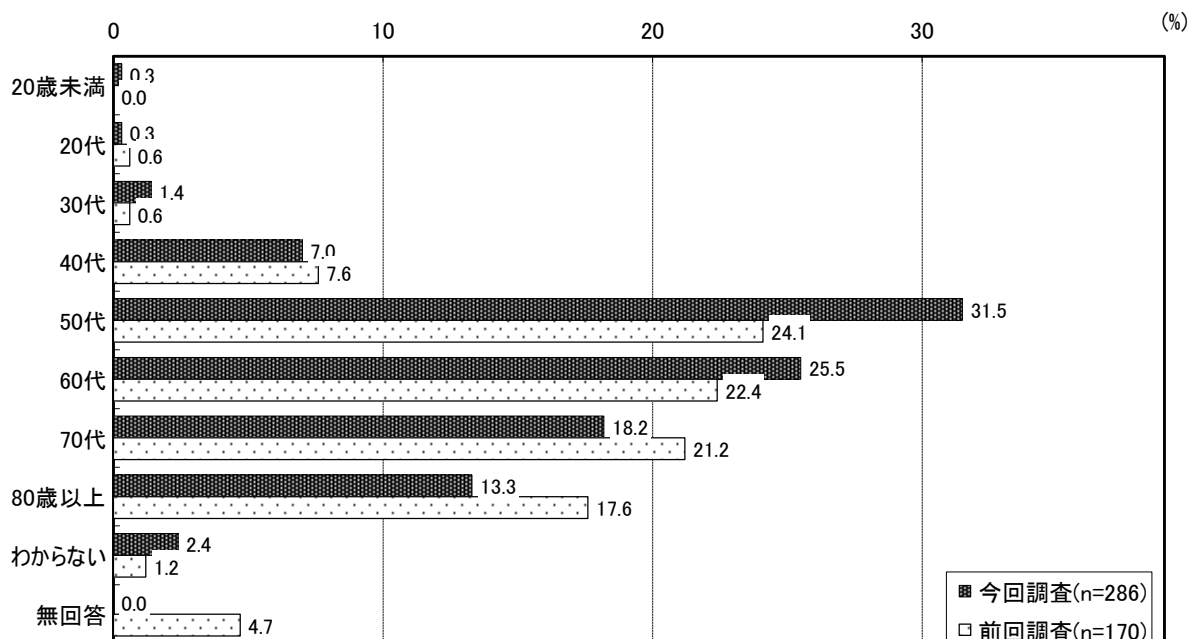
A票問3 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択)



- 「子」が52.4%と最も多く、次いで「配偶者」が30.8%、「子の配偶者」が7.3%となっています。主な介護の担い手は子世代が中心となっています。
- 性別にみると、男性で「配偶者」が59.6%と多い一方、女性では「子」が65.7%と多くなっています。男性は妻から介護を受け、女性は子から介護を受ける構図が鮮明です。
- 年齢別にみると、「配偶者」は40～64歳で62.5%、65～74歳で59.3%と多い一方、「子」は85歳以上で64.1%、75～84歳で52.1%と、年齢が上がるほど、配偶者による介護から子による介護へ移行する傾向が見られます。

(4) 主な介護者の年齢

A票問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

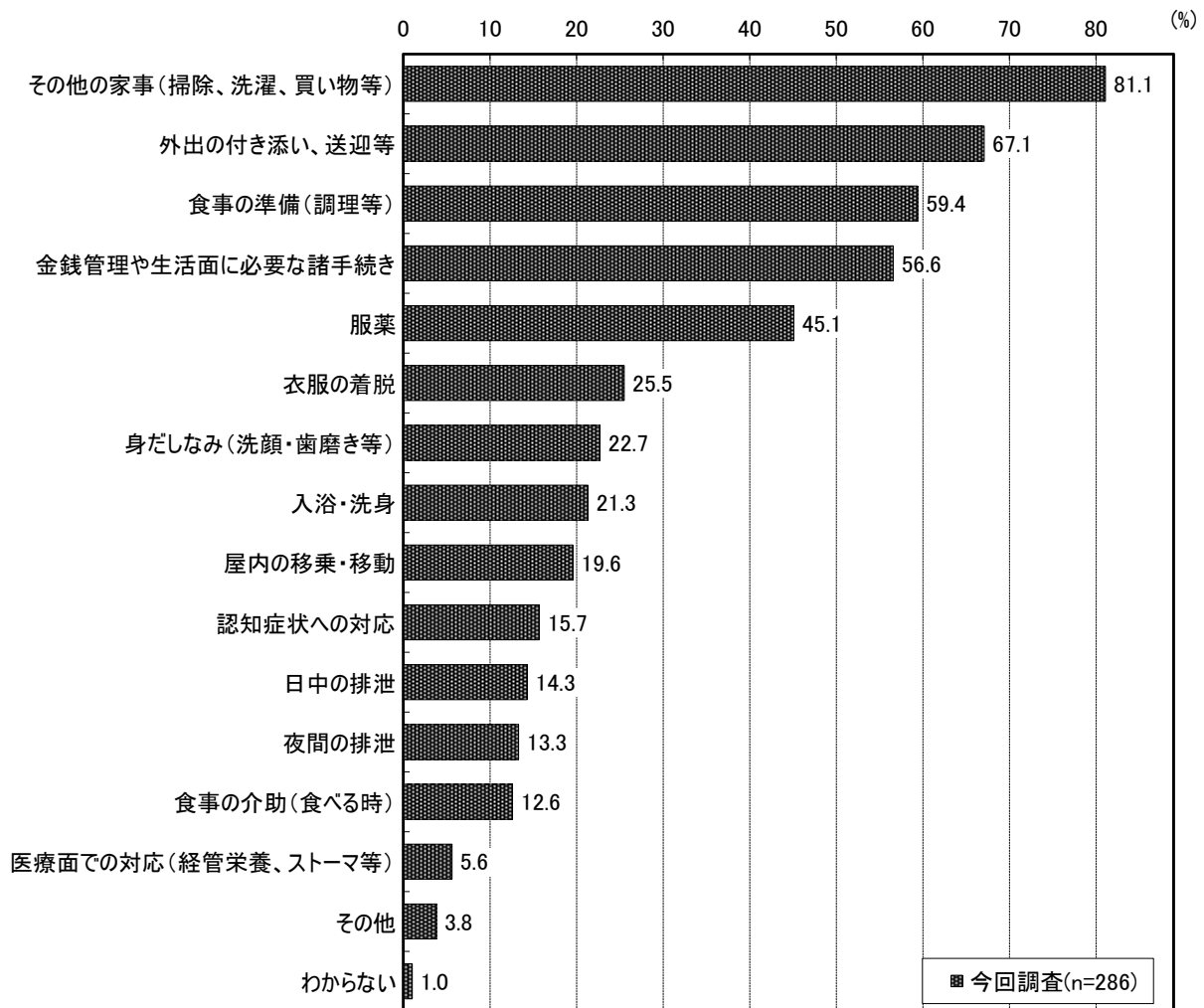


*** II 在宅介護実態調査 ***

- 「50代」が31.5%と最も多く、次いで「60代」が25.5%、「70代」が18.2%、「80歳以上」が13.3%となっています。主な介護者は50～60歳代が中心ですが、高齢介護者も少なくありません。
- 前回調査の結果と比べると、「50代」「60代」が増え、「70代」「80歳以上」が減るなど、主な介護者の年齢は低い傾向にあります。

(5) 主な介護者が行っている介護

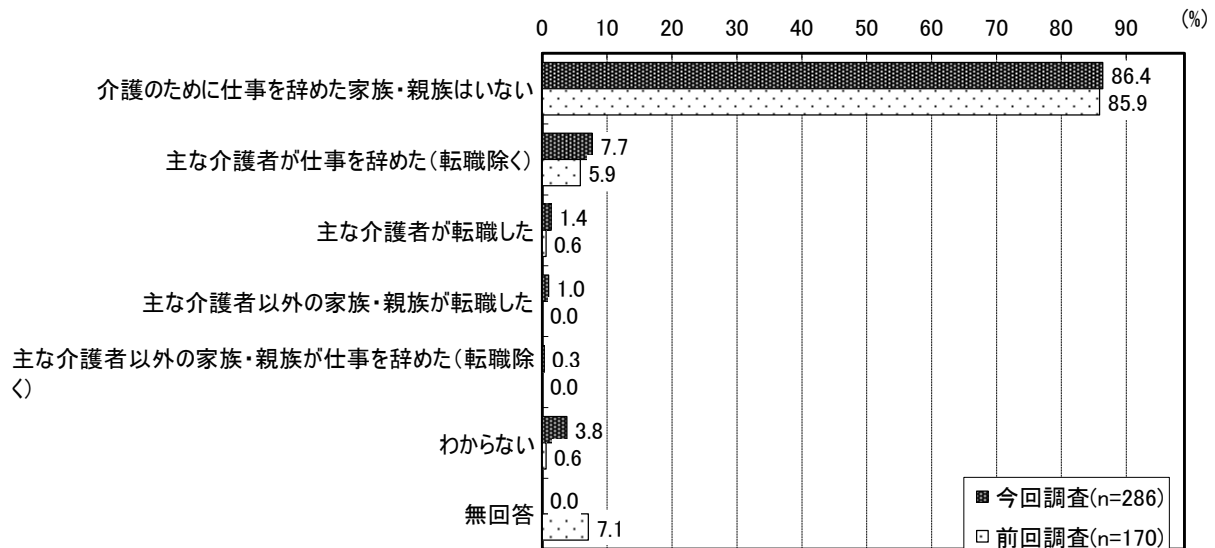
A票問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)



- 「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.1%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が67.1%、「食事の準備（調理等）」が59.4%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が56.6%、「服薬」が45.1%となっています。身体介護よりも生活支援的な介護が広く担われています。

(6) 介護のための離職の有無

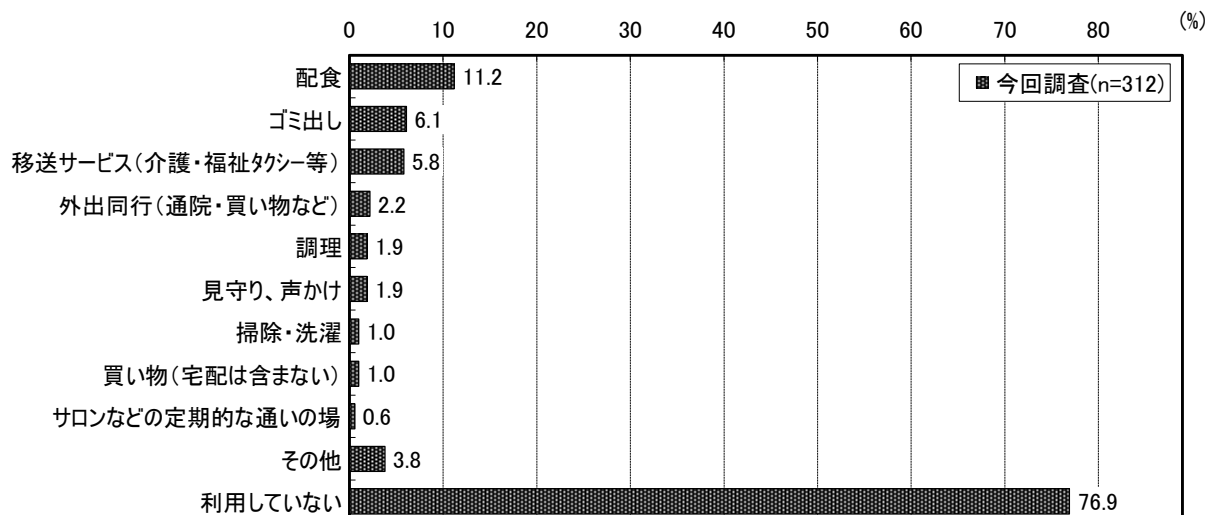
A票問7 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(複数選択可)



○「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が86.4%で大半を占めていますが、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」も7.7%と、一定数の離職が生じています。

(7) 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

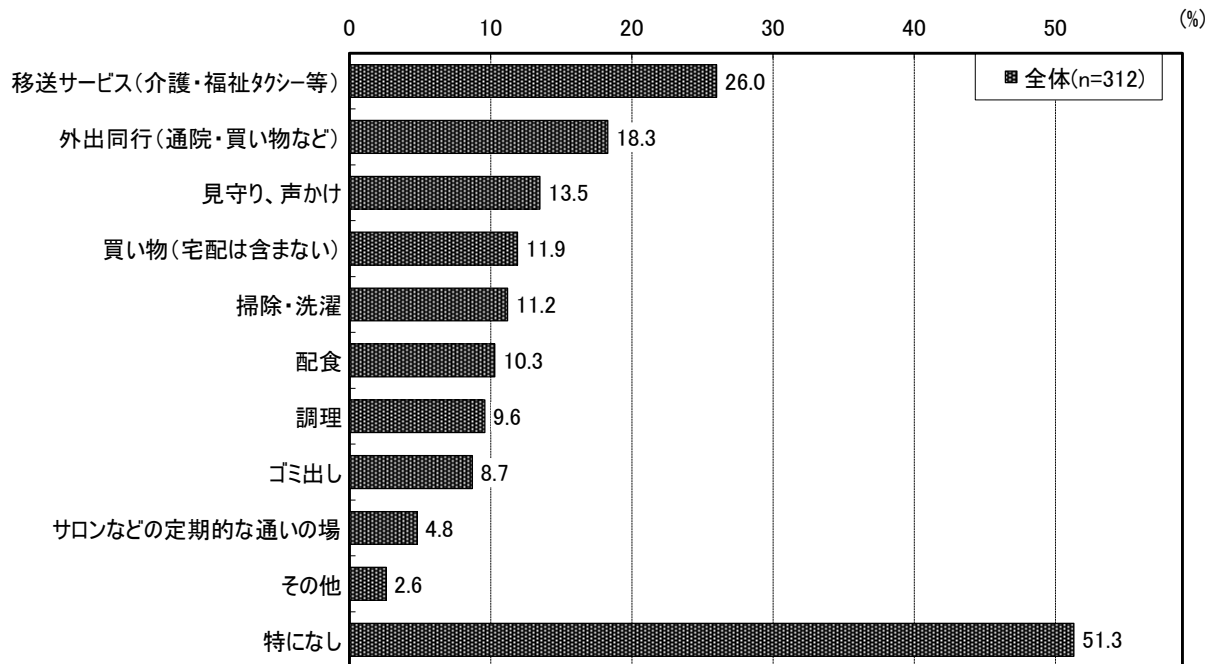
A票問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(複数選択可)



○「利用していない」が76.9%と最も多く、介護保険外サービスの利用は限定的です。利用している支援・サービスでは、「配食」が11.2%、「ゴミ出し」が6.1%、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が5.8%と比較的多くなっています。

(8) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

A票問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、ご回答ください。
（複数選択可）



- 「特になし」が51.3%と最も多いものの、必要とされる支援としては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.0%、「外出同行（通院・買い物など）」が18.3%、「見守り、声かけ」が13.5%、「買い物（宅配は含まない）」が11.9%、「掃除・洗濯」が11.2%、「配食」が10.3%となっています。移動支援に関するニーズが最も多いことが特徴です。
- 年齢別にみると、65～74歳で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が41.4%、「外出同行（通院・買い物など）」が31.0%と特に多く、前期高齢者で外出・通院支援への需要が強いことがわかります。
- 要介護度別にみると、要支援1・2で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が36.8%、要介護1・2では「外出同行（通院・買い物など）」が25.8%と移動の確保が在宅継続の鍵となっています。
- 利用しているサービス別にみると、訪問系サービスの利用者では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.1%、「調理」が15.6%と、在宅生活の継続に向けて多様な生活支援ニーズを抱えていることがうかがえます。

*** II 在宅介護実態調査 ***

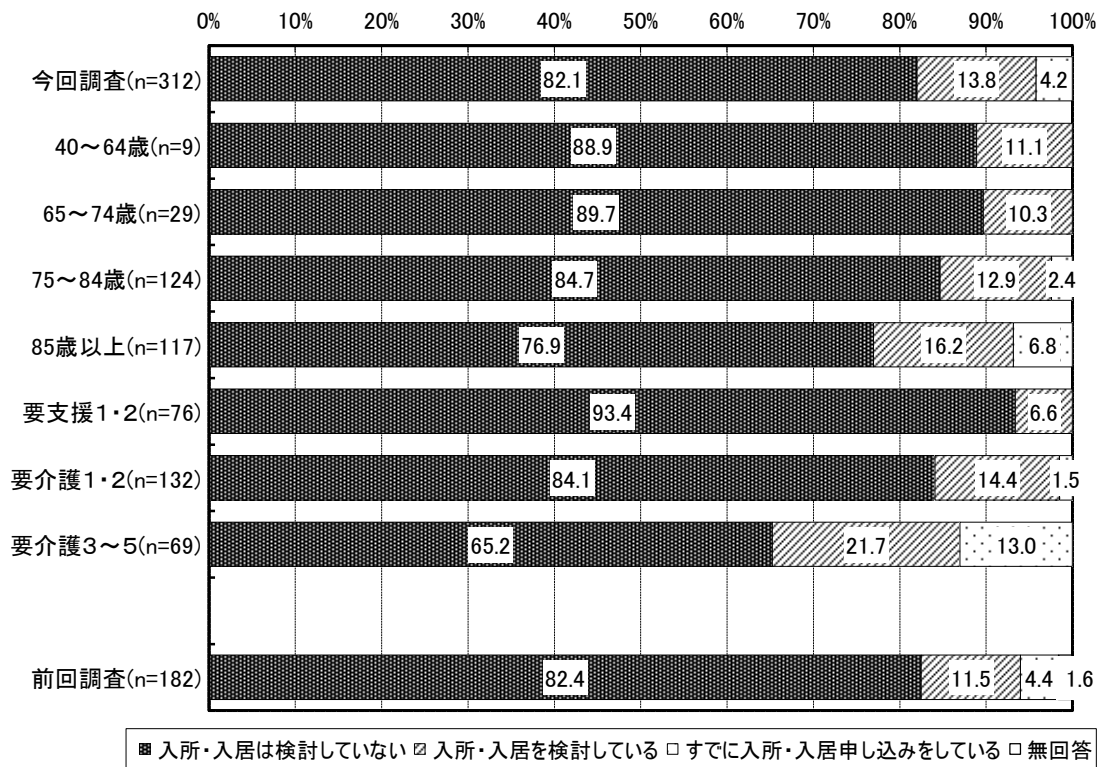
	全体 (n=312)	男 (n=97)	女 (n=182)	40～64歳 (n=9)	65～74歳 (n=29)	75～84歳 (n=124)	85歳以上 (n=117)
移送サービス	26.0	25.8	28.0	0.0	41.4	31.5	21.4
外出同行（通院・買い物など）	18.3	19.6	18.1	0.0	31.0	20.2	15.4
見守り、声かけ	13.5	18.6	12.6	0.0	17.2	12.9	17.1
買い物（宅配は含まない）	11.9	16.5	9.9	0.0	24.1	11.3	11.1
掃除・洗濯	11.2	12.4	10.4	0.0	17.2	11.3	10.3
配食	10.3	6.2	13.7	11.1	10.3	8.9	13.7
調理	9.6	10.3	10.4	0.0	13.8	11.3	9.4
ゴミ出し	8.7	7.2	9.9	0.0	17.2	9.7	6.8
サロンなどの定期的な通いの場	4.8	3.1	4.9	0.0	0.0	4.8	5.1
その他	2.6	4.1	2.2	0.0	0.0	4.0	2.6
特になし	51.3	49.5	49.5	88.9	48.3	46.8	49.6

	要支援 1・2 (n=76)	要介護 1・2 (n=132)	要介護 3～5 (n=69)	訪問系 サービス (n=135)	通所系 サービス (n=143)	短期入所 ・その他 (n=19)	福祉用具 住宅改修 (n=174)
移送サービス	36.8	27.3	17.4	31.1	24.5	15.8	28.7
外出同行（通院・買い物など）	10.5	25.8	14.5	21.5	17.5	10.5	19.0
見守り、声かけ	7.9	17.4	17.4	17.0	13.3	15.8	12.1
買い物（宅配は含まない）	13.2	11.4	13.0	16.3	11.2	10.5	12.6
掃除・洗濯	10.5	12.1	10.1	13.3	8.4	10.5	9.8
配食	5.3	12.9	13.0	13.3	14.0	5.3	12.6
調理	6.6	12.9	10.1	15.6	11.2	10.5	10.9
ゴミ出し	7.9	9.8	8.7	15.6	9.1	0.0	9.2
サロンなどの定期的な通いの場	5.3	3.0	4.3	3.7	4.2	5.3	4.0
その他	0.0	2.3	7.2	4.4	0.7	0.0	2.9
特になし	50.0	46.2	55.1	44.4	55.2	57.9	46.6

※濃い網かけに白字は全体構成比より10ポイント高いもの、薄い網かけは5ポイント高いもの

(9) 施設等検討の状況

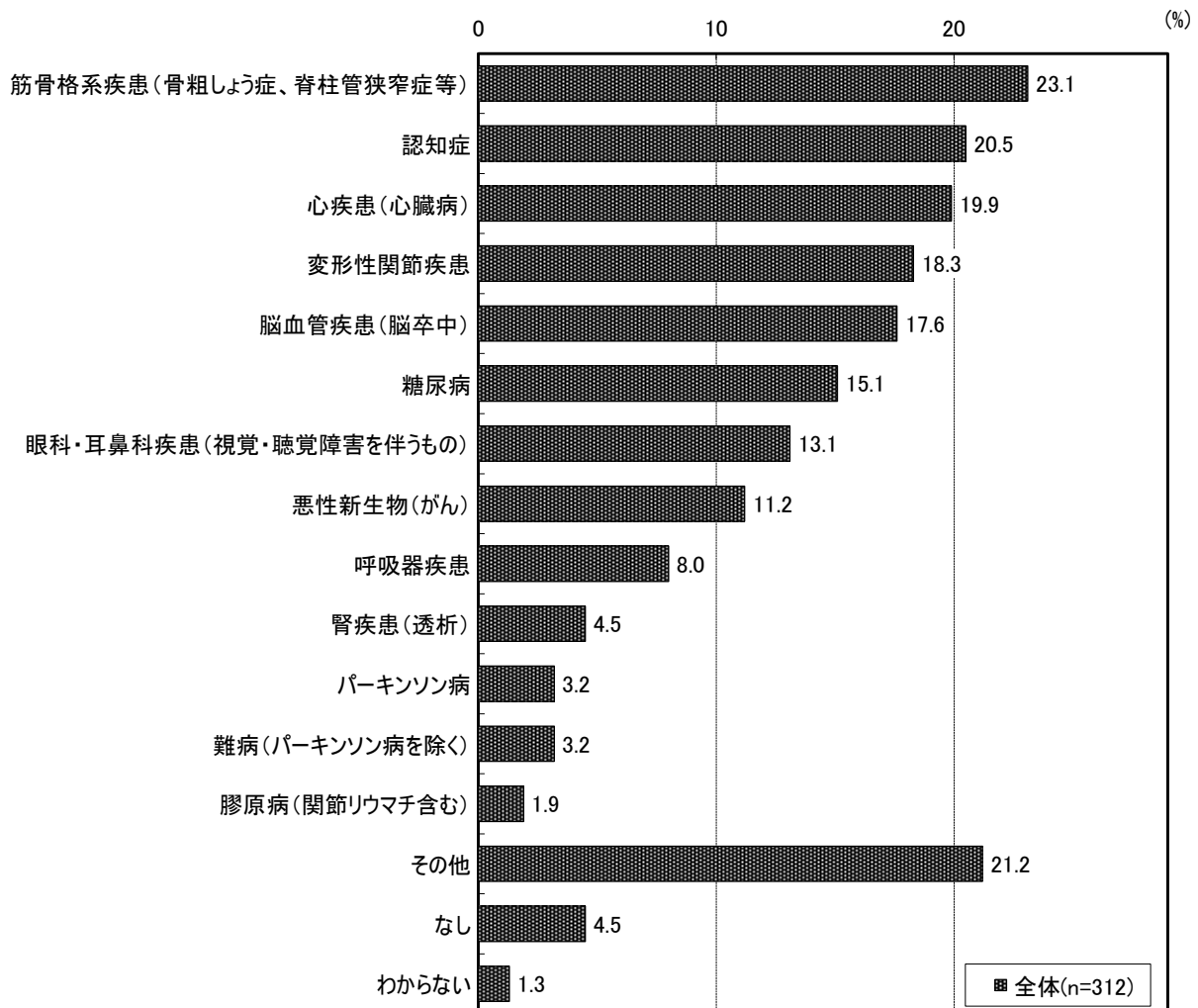
A票問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つを選択)



- 「入所・入居は検討していない」が82.1%と大半を占めており、現時点では在宅生活継続の意向が強いことがわかります。一方で、「入所・入居を検討している」は13.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は4.2%と、合わせて約2割が施設入所を視野に入れています。
- 年齢別にみると、85歳以上で「入所・入居を検討している」が16.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が6.8%と、年齢上昇に伴って入所準備が進んでいる状況が見られます。
- 要介護度別にみると、要介護3～5では「入所・入居は検討していない」が65.2%まで少なくなり、「入所・入居を検討している」が21.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が13.0%となるなど、重度化に伴って施設志向が高まっていることが明確です。

(10) 現在抱えている傷病の状況

A票問11 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(複数選択可)



○「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が23.1%、「認知症」が20.5%、「心疾患（心臓病）」が19.9%、「変形性関節疾患」が18.3%、「脳血管疾患（脳卒中）」が17.6%の順となっています。

○性別にみると、男性で「脳血管疾患（脳卒中）」が24.7%、「悪性新生物（がん）」が17.5%と多く、女性は「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が28.0%、「認知症」が25.3%と多くなっています。男女で傷病構造の違いが見られます。

○年齢別にみると、85歳以上で「認知症」が30.8%と多く、年齢上昇に伴う認知症の増加が明瞭です。

○要介護度別にみると、要介護3～5で「認知症」が36.2%、「脳血管疾患（脳卒中）」が29.0%と多く、重度者では認知症や脳血管疾患の影響が大きいことがわかります。

○利用しているサービス別にみると、短期入所・その他の利用者で「脳血管疾患（脳卒中）」「認知症」がそれぞれ52.6%と多く、重い疾病や認知機能低下を背景に短期入所等を利用している実態がうかがえます。

*** II 在宅介護実態調査 ***

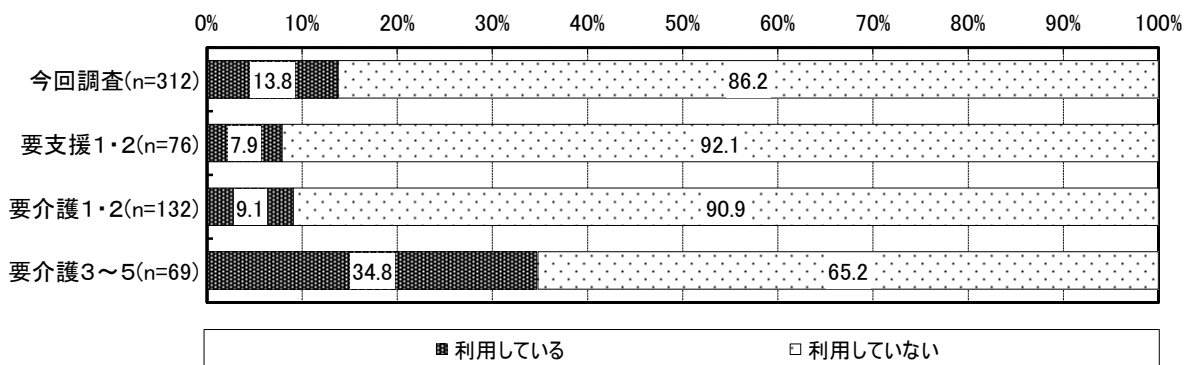
	全体 (n=312)	男 (n=97)	女 (n=182)	40～64歳 (n=9)	65～74歳 (n=29)	75～84歳 (n=124)	85歳以上 (n=117)
筋骨格系疾患	23.1	12.4	28.0	0.0	13.8	29.0	19.7
認知症	20.5	13.4	25.3	0.0	10.3	16.1	30.8
心疾患（心臓病）	19.9	20.6	21.4	11.1	13.8	18.5	26.5
変形性関節疾患	18.3	12.4	19.2	0.0	6.9	20.2	17.1
脳血管疾患（脳卒中）	17.6	24.7	12.6	44.4	24.1	10.5	19.7
糖尿病	15.1	13.4	14.3	11.1	31.0	11.3	12.8
眼科・耳鼻科疾患	13.1	13.4	14.3	22.2	6.9	14.5	14.5
悪性新生物（がん）	11.2	17.5	7.7	22.2	20.7	8.1	11.1
呼吸器疾患	8.0	9.3	8.8	22.2	10.3	9.7	6.8
腎疾患（透析）	4.5	5.2	4.9	0.0	10.3	4.8	4.3
パーキンソン病	3.2	5.2	2.2	0.0	6.9	4.8	0.9
難病（パーキンソン病を除く）	3.2	7.2	1.6	11.1	3.4	3.2	3.4
膠原病（関節リウマチ含む）	1.9	2.1	2.2	0.0	3.4	0.8	3.4
その他	21.2	23.7	22.0	22.2	31.0	24.2	18.8
なし	4.5	4.1	4.4	0.0	3.4	5.6	3.4
わからない	1.3	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.7

	要支援 1・2 (n=76)	要介護 1・2 (n=132)	要介護 3～5 (n=69)	訪問系 サービス (n=135)	通所系 サービス (n=143)	短期入所 ・その他 (n=19)	福祉用具 住宅改修 (n=174)
筋骨格系疾患	26.3	27.3	10.1	24.4	24.5	21.1	23.6
認知症	3.9	23.5	36.2	17.0	27.3	52.6	17.2
心疾患（心臓病）	27.6	20.5	15.9	22.2	16.8	21.1	20.1
変形性関節疾患	18.4	20.5	8.7	15.6	21.0	21.1	18.4
脳血管疾患（脳卒中）	7.9	15.2	29.0	17.0	21.0	52.6	20.1
糖尿病	18.4	11.4	14.5	13.3	14.7	10.5	14.4
眼科・耳鼻科疾患	17.1	12.9	13.0	14.8	14.0	10.5	16.1
悪性新生物（がん）	10.5	9.1	14.5	12.6	9.1	15.8	10.9
呼吸器疾患	6.6	10.6	8.7	12.6	9.8	0.0	9.8
腎疾患（透析）	5.3	3.0	8.7	8.1	4.9	0.0	6.9
パーキンソン病	2.6	3.8	2.9	1.5	2.1	0.0	2.9
難病（パーキンソン病を除く）	2.6	3.0	5.8	3.0	4.9	5.3	5.7
膠原病（関節リウマチ含む）	0.0	2.3	4.3	4.4	2.1	0.0	3.4
その他	26.3	20.5	21.7	28.1	14.7	5.3	21.8
なし	7.9	3.0	2.9	3.0	3.5	0.0	4.6
わからない	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6

※濃い網かけに白字は全体構成比より10ポイント高いもの、薄い網かけは5ポイント高いもの

(11) 訪問診療の利用状況

A票問12 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つを選択)

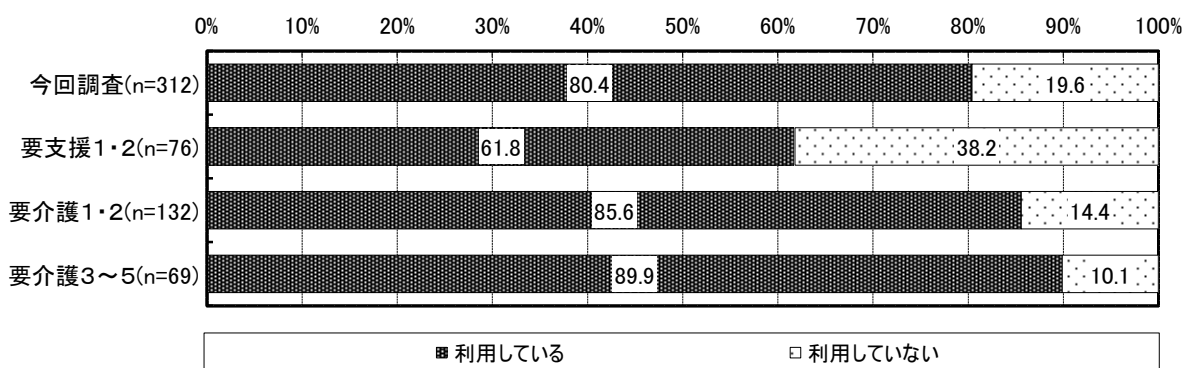


○「利用している」が13.8%、「利用していない」が86.2%となっており、訪問診療の利用は限定的です。

○要介護度別にみると、要介護3～5で「利用している」が34.8%と、要支援1・2の7.9%、要介護1・2の9.1%を大きく上回っています。重度者で在宅医療ニーズが多いことが明確です。

(12) 介護保険サービスの利用状況

A票問13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか。(1つを選択)

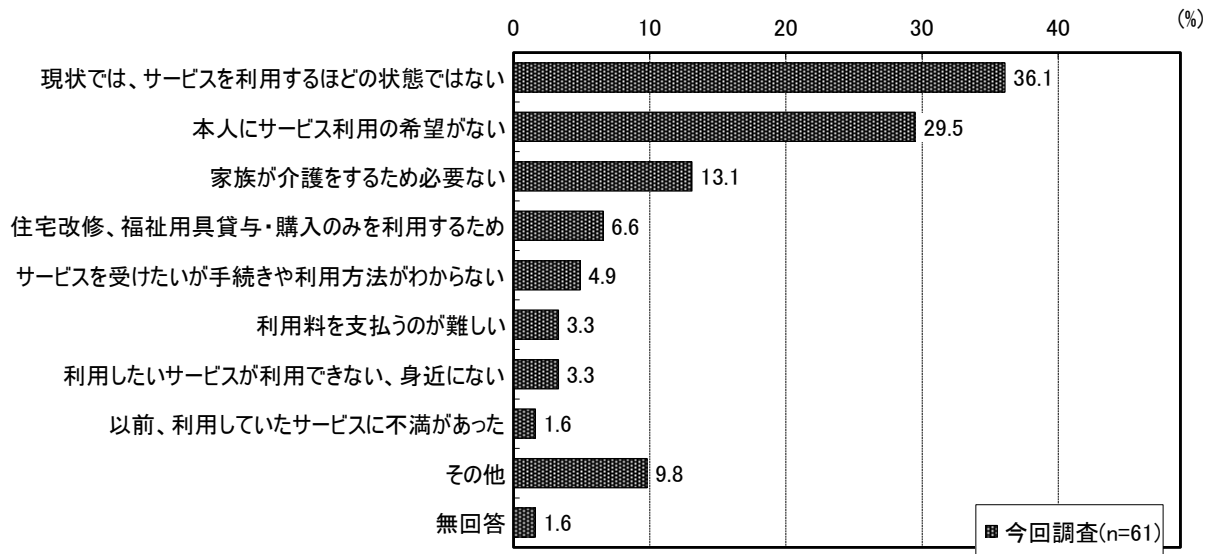


○「利用している」が80.4%、「利用していない」が19.6%となっており、多くの人が何らかの介護保険サービスを利用しています。

○要介護度別にみると、要支援1・2で「利用している」が61.8%にとどまるのに対し、要介護1・2では85.6%、要介護3～5では89.9%となっており、要介護度が多いほど利用率が高くなっています。

*** II 在宅介護実態調査 ***

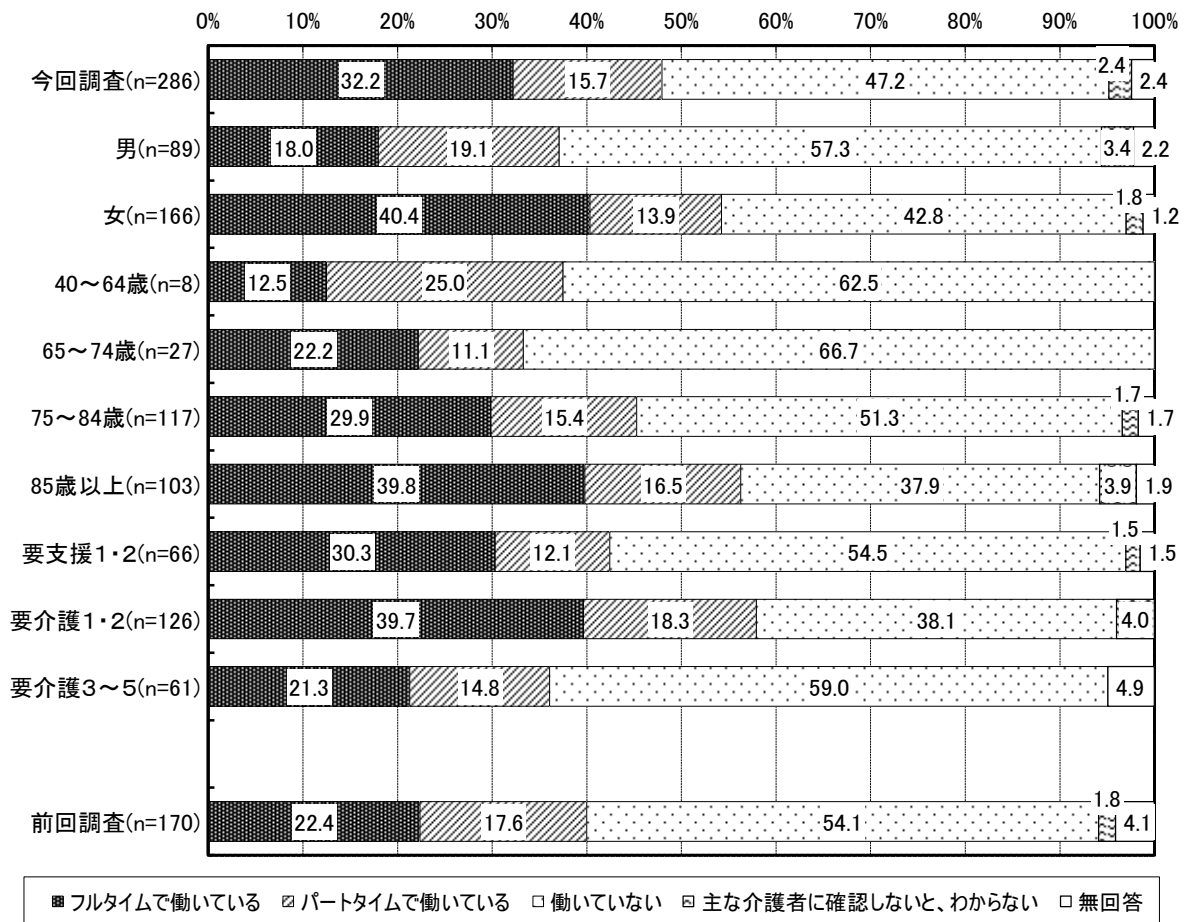
A票問14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)



○「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が36.1%と最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が29.5%、「家族が介護をするため必要ない」が13.1%となっており、未利用の主因は状態の軽さや本人意向、家族対応にあることがうかがえます。

(13) 主な介護者の勤務形態

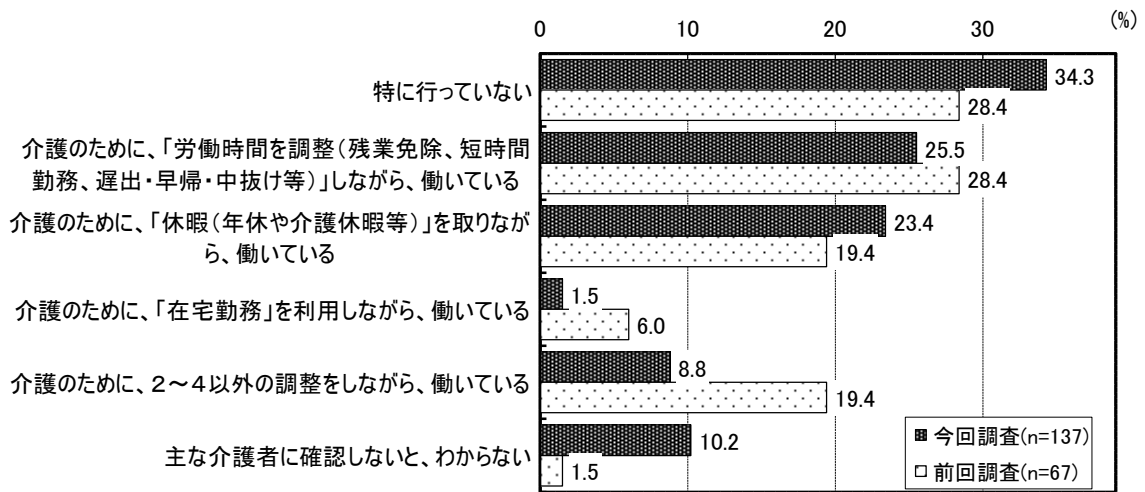
B票問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)



- 「働いていない」が47.2%と最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が32.2%、「パートタイムで働いている」が15.7%となっています。介護者の約半数は就業していませんが、就業しながら介護を担っている人も少なくありません。
- 性別にみると、女性を介護している人で「フルタイムで働いている」が40.4%と多く、男性を介護している人ででは「働いていない」が57.3%と多くなっています。
- 年齢別にみると、85歳以上の対象者の介護者で「フルタイムで働いている」が39.8%と多く、就労中の子世代等が介護を担っている状況が想定されます。
- 要介護度別にみると、要介護1・2では「フルタイムで働いている」が39.7%と多い一方、要介護3～5では「働いていない」が59.0%と多く、介護負担の重さが就業継続に影響していると考えられます。

(14) 主な介護者の働き方の調整状況

B票問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をして
いますか。(複数選択可)

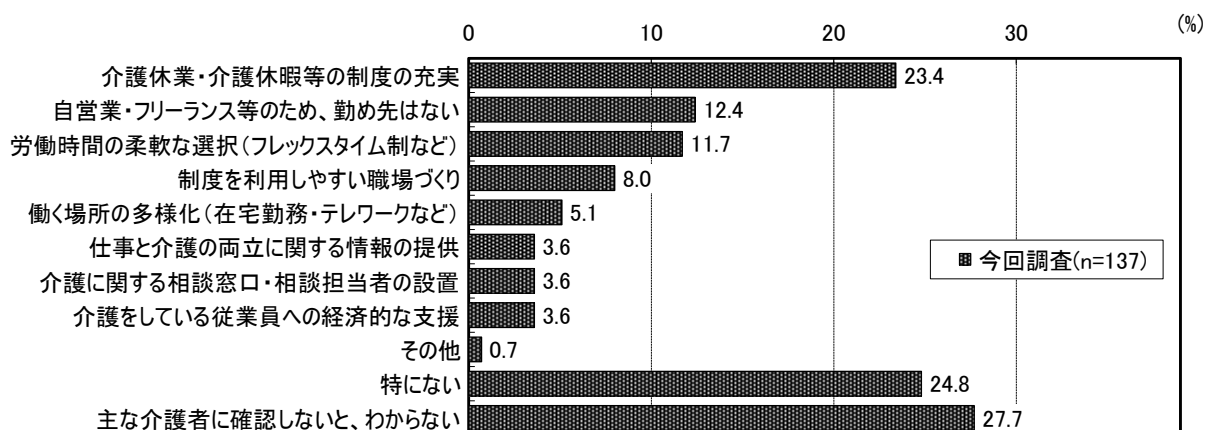


○「特に行っていない」が34.3%で最も多いものの、「介護のために、『労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)』しながら、働いている」が25.5%、「介護のために、『休暇(年休や介護休暇等)』を取りながら、働いている」が23.4%となっており、多くの介護者が何らかの調整を行っています。

○前回調査の結果と比べると、「特に行っていない」という人が増加しています。

(15) 就労の継続に向けて効果的と考えられる勤め先からの支援

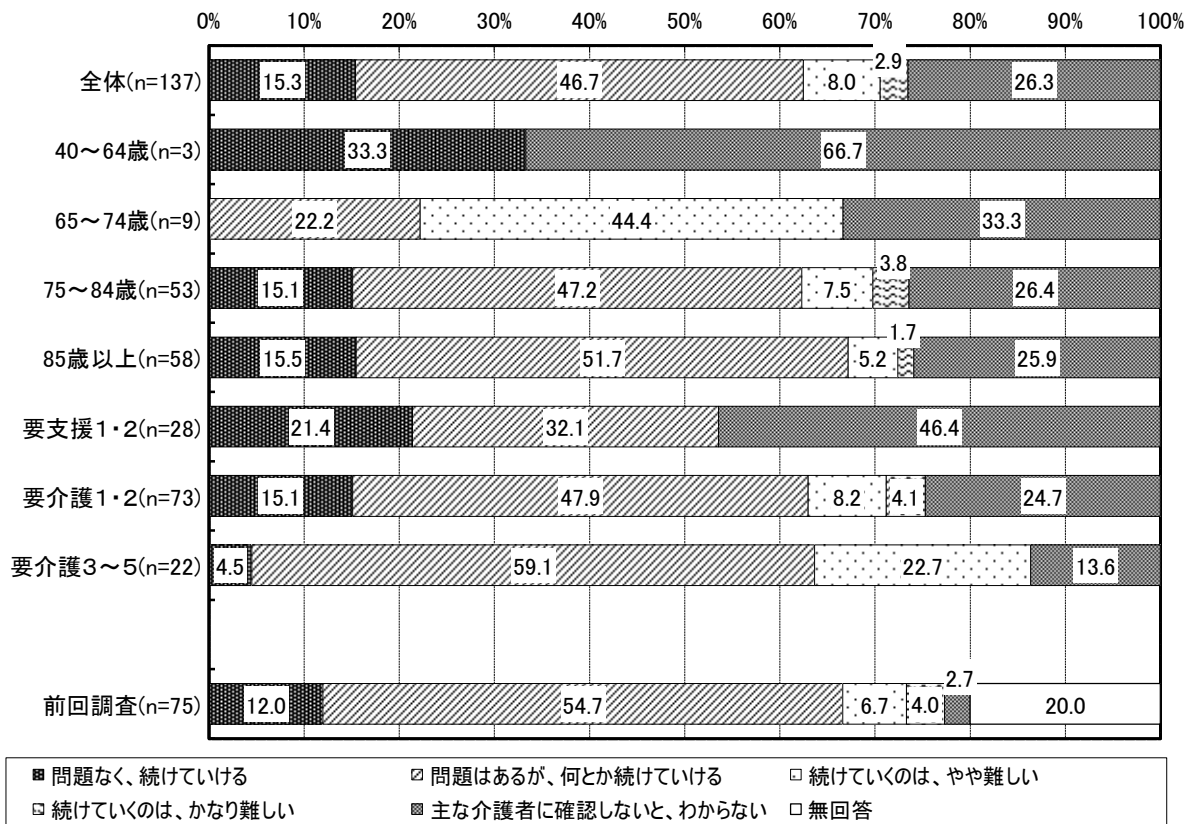
B票問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)



○「主な介護者に確認しないと、わからない」が27.7%、「特にない」が24.8%と多いものの、具体的な支援としては「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が23.4%、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が11.7%などとなっています。

(16) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

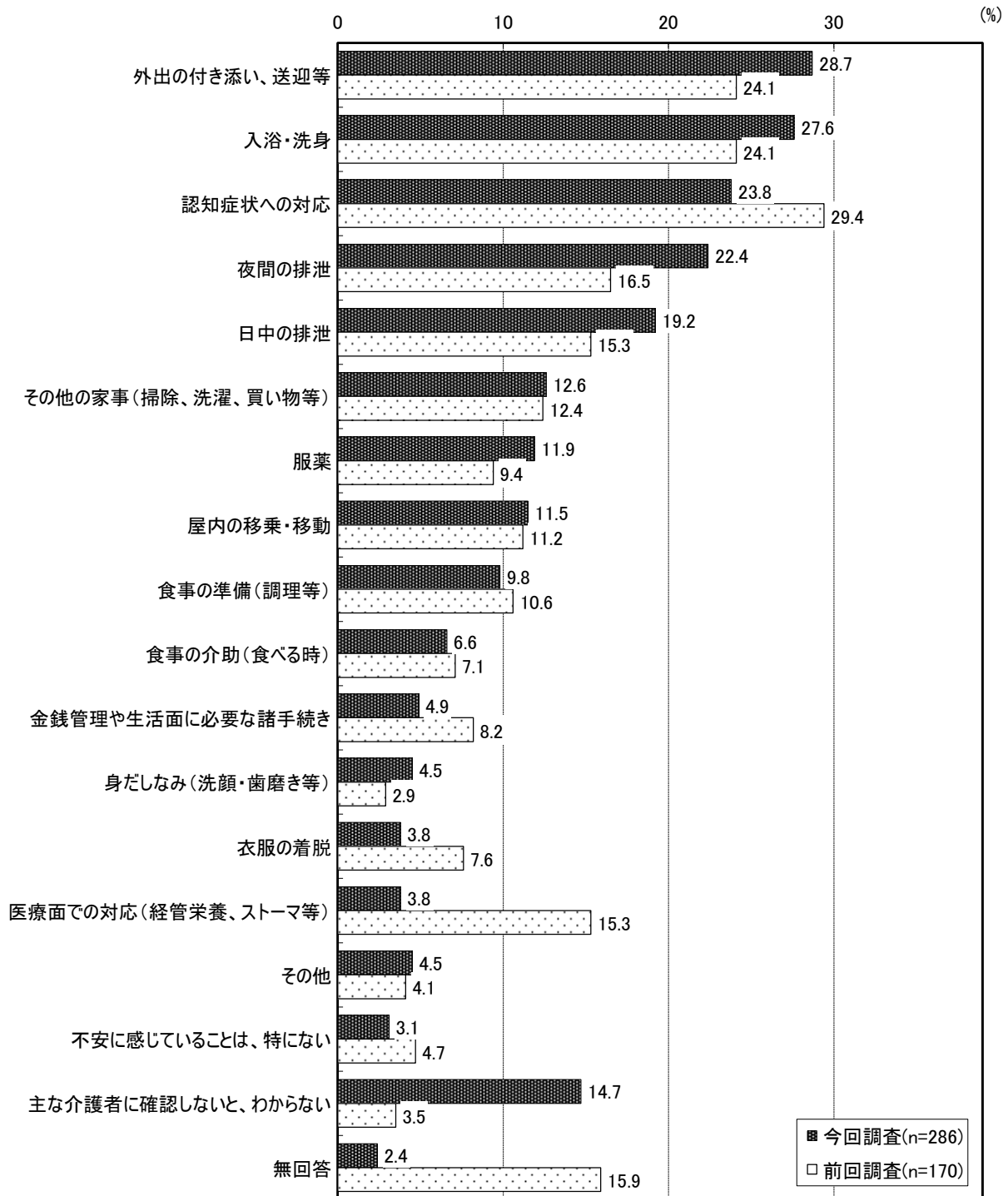
B票問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)



- 「問題はあるが、何とか続けていける」が46.7%と最も多く、「問題なく、続けていける」15.3%を大きく上回っています。就労継続に一定の不安や負担を抱えながら介護を続けている介護者が多いことがわかります。また、「続けていくのは、やや難しい」が8.0%、「続けていくのは、かなり難しい」が2.9%と就労継続が困難な層も一定程度存在します。
- 年齢別にみると、65～74歳の人を介護している人で「続けていくのは、やや難しい」が44.4%と多く、この層で特に両立困難感が強く表れています。
- 要介護度別にみると、要介護3～5で「問題はあるが、何とか続けていける」が59.1%と多く、「続けていくのは、やや難しい」も22.7%となっています。重度者介護では働きながらの継続が厳しさを増していることが明確です。

*** II 在宅介護実態調査 ***

B票問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）



○「外出の付き添い、送迎等」が28.7%、「入浴・洗身」が27.6%、「認知症状への対応」が23.8%、「夜間の排泄」が22.4%、「日中の排泄」が19.2%と上位となっています。日常生活支援と身体介護、認知症対応への不安が大きいです。

○前回調査の結果と比べると、「認知症状への対応」や「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」が減少しています。

*** II 在宅介護実態調査 ***

○年齢別にみると、85歳以上では「認知症状への対応」が30.1%、「日中の排泄」が25.2%と比較的多く、超高齢層の在宅生活継続には認知症対応と排泄介助支援が重要であることがわかります。

	全体 (n=286)	男 (n=89)	女 (n=166)	40～64歳 (n=8)	65～74歳 (n=27)	75～84歳 (n=117)	85歳以上 (n=103)
外出の付き添い、送迎等	28.7	27.0	30.1	12.5	29.6	31.6	27.2
入浴・洗身	27.6	32.6	23.5	12.5	33.3	25.6	27.2
認知症状への対応	23.8	13.5	27.7	0.0	7.4	21.4	30.1
夜間の排泄	22.4	27.0	19.9	50.0	11.1	19.7	26.2
日中の排泄	19.2	21.3	17.5	37.5	14.8	12.8	25.2
その他の家事	12.6	7.9	15.1	0.0	11.1	12.8	13.6
服薬	11.9	10.1	13.9	12.5	3.7	13.7	13.6
屋内の移乗・移動	11.5	10.1	12.7	0.0	11.1	14.5	9.7
食事の準備（調理等）	9.8	9.0	10.8	0.0	11.1	7.7	13.6
食事の介助（食べる時）	6.6	7.9	6.6	25.0	0.0	6.0	8.7
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	4.9	2.2	7.2	0.0	3.7	5.1	6.8
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	4.5	7.9	2.4	0.0	3.7	3.4	5.8
衣服の着脱	3.8	5.6	3.6	0.0	3.7	5.1	3.9
医療面での対応	3.8	4.5	3.6	0.0	7.4	3.4	3.9
その他	4.5	7.9	3.0	25.0	3.7	1.7	6.8
不安に感じていることは、特にない	3.1	5.6	1.8	0.0	22.2	1.7	0.0
主な介護者に確認しないと、わからない	14.7	10.1	17.5	12.5	14.8	16.2	13.6
無回答	2.4	4.5	0.6	0.0	3.7	1.7	1.9

※濃い網かけに白字は全体構成比より10ポイント高いもの、薄い網かけは5ポイント高いもの

*** II 在宅介護実態調査 ***

○要介護度別にみると、要介護３～５で「日中の排泄」「夜間の排泄」がそれぞれ36.1%、「認知症状への対応」が32.8%と多く、重度介護に伴う身体介護・認知症対応への不安が顕著です。また、要支援１・２では「外出の付き添い、送迎等」が34.8%と多く、軽度者では移動支援への不安が中心となっています。

○利用しているサービス別にみると、短期入所・その他の利用者では「夜間の排泄」が60.0%、「認知症状への対応」が53.3%と極めて多く、短期入所等の利用背景に家族介護の強い不安があることが読み取れます。

	要支援 １・２ (n=66)	要介護 １・２ (n=126)	要介護 ３～５ (n=61)	訪問系 サービス (n=119)	通所系 サービス (n=136)	短期入所 ・その他 (n=15)	福祉用具 住宅改修 (n=160)
外出の付き添い、送迎等	34.8	30.2	19.7	29.4	25.0	6.7	30.0
入浴・洗身	13.6	33.3	26.2	30.3	25.0	6.7	26.9
認知症状への対応	4.5	27.8	32.8	20.2	27.9	53.3	20.6
夜間の排泄	12.1	21.4	36.1	17.6	28.7	60.0	24.4
日中の排泄	4.5	18.3	36.1	21.8	21.3	26.7	18.1
その他の家事	13.6	12.7	9.8	14.3	12.5	0.0	11.3
服薬	9.1	19.0	1.6	15.1	10.3	6.7	12.5
屋内の移乗・移動	13.6	14.3	4.9	7.6	14.7	20.0	13.8
食事の準備（調理等）	6.1	14.3	4.9	10.9	11.8	6.7	8.8
食事の介助（食べる時）	1.5	7.1	13.1	9.2	8.1	13.3	9.4
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	3.0	6.3	6.6	5.9	4.4	6.7	3.8
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	1.5	6.3	3.3	2.5	5.1	20.0	5.0
衣服の着脱	4.5	4.0	4.9	3.4	5.1	6.7	4.4
医療面での対応	4.5	1.6	8.2	3.4	3.7	13.3	3.8
その他	7.6	4.0	3.3	3.4	5.1	6.7	5.0
不安に感じていることは、特になし	7.6	0.0	4.9	4.2	2.9	0.0	3.1
主な介護者に確認しないと、わからない	25.8	14.3	4.9	14.3	11.8	6.7	13.8
無回答	0.0	0.0	8.2	4.2	0.7	0.0	2.5

※濃い網かけに白字は全体構成比より10ポイント高いもの、薄い網かけは5ポイント高いもの

調査結果の総括

① 在宅介護を支える体制の状況

調査結果から、泉南市における在宅介護は、本人のみならず家族や専門職など複数の主体の関与のもとで支えられている実態が明らかになりました。特に要介護度が高くなるにつれて家族や支援関係者の関与割合が高まり、重度化に伴い本人のみで生活実態や意向を把握することが難しくなる状況が見られます。

また、世帯構成をみると、単身世帯及び夫婦のみ世帯が多く、在宅介護を支える世帯基盤が必ずしも十分とはいえない状況が確認されることから、一人暮らし高齢者等への生活支援や見守りの必要性が高まっていることが課題として整理できます。

② 家族介護の実態と負担

家族介護については、「ほぼ毎日介護がある」が過半数を占めており、在宅介護は依然として家族の支えに大きく依存していることがうかがえます。主な介護者は子世代が中心となっていますが、高齢の配偶者による介護も一定程度みられ、介護者自身の高齢化や健康不安といった課題も想定されます。

また、要介護度が高くなるにつれて排泄介助や移乗・移動、服薬管理など身体介護の割合が増加しており、介護負担が時間的な面だけでなく内容面でも重くなっている状況が確認されます。家族が担う役割は生活支援から身体介護まで幅広く、介護負担の複合化が課題として浮かび上がっています。

③ 就労と介護の両立

介護を理由とした離職は多くはないものの、働きながら介護を担う人は一定程度存在しており、労働時間の調整や休暇取得などを行いながら介護を継続している実態がみられます。今後の就労継続については不安を感じている介護者も少なくなく、介護の長期化や重度化に伴う負担の蓄積が、就労との両立を難しくする要因となる可能性があります。

④ サービス利用と生活支援ニーズ

介護保険サービスは多くの人が利用しており、在宅生活を支える基盤となっています。一方で、介護保険外の生活支援サービスの利用は限定的となっており、制度の枠外にある支援の活用が十分に広がっていない状況がみられます。

しかし、移送サービスや外出同行、見守り、配食など日常生活の維持に関わる支援へのニーズは一定程度存在しており、こうした生活支援の不足が在宅生活の継続に影響を及ぼす可能性が示唆されます。

⑤ 在宅生活継続意向と施設志向

施設入所については在宅生活を継続したいという意向が基本的に強いものの、要介護度が高くなるにつれて入所を検討する割合が増加しており、在宅生活の継続に対する不安や限界が現実的な課題として表れています。

また、短期入所などの利用状況からは、在宅生活を支える中間的な支援としての役割とともに、将来的な施設入所を見据えた利用の側面も考えられます。

⑥ 傷病構造と介護ニーズの特徴

傷病の状況では、筋骨格系疾患や認知症、脳血管疾患などが多く、身体機能の低下と認知機能の低下の双方が在宅介護の背景となっています。特に年齢の高い人では認知症の割合が高く、介護負担の増大や在宅生活継続の難しさにつながる要因として整理できます。

■調査に用いた調査票

在宅介護実態調査 調査票	
被保険者番号()	
【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】(複数選択可)	
1. 調査対象者本人	2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族	4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他	
A票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目	
問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)	
1. 単身世帯	2. 夫婦のみ世帯
3. その他	
問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいあります(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)	
1. ない	問8(裏面)へ 問3～問13へ
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない	
3. 週に1～2日ある	
4. 週に3～4日ある	
5. ほぼ毎日ある	
★ 問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)	
1. 配偶者	2. 子
4. 孫	3. 子の配偶者
	5. 兄弟・姉妹
	6. その他
★ 問4 ()	
問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)	
1. 20歳未満	2. 20代
4. 40代	5. 50代
7. 70代	3. 30代
	6. 60代
	8. 80歳以上
	9. わからない

★ 問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の歩行 | 2. 夜間の歩行 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・着替え等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 歯磨 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 洗濯等での対応(超音波洗、スチーム等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|---------|-----------|
| 15. その他 | 16. わからない |
|---------|-----------|

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうか、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く) | 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く) |
| 3. 主な介護者が転職した | 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族がいない | 6. わからない |

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

★ 問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|-------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 利用していない | |

※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

★ 問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11. 特になし | |

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスと別に含みます。

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居を検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※ 「施設等」とは、特別養老ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム

*** II 在宅介護実態調査 ***

等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

★ 問 11 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中) | 2. 心疾患(心臓病) |
| 3. 慢性腎臓病(がん) | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患(透析) | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、骨格異常疾患等) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む) | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 精神病(パーキンソン病を除く) | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの) | 14. その他 |
| 15. なし | 16. わからない |

★ 問 12 ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか(1つを選択)

1. 利用している 2. 利用していない

※訪問医科診療や在宅療養管理指導等は含みません。

★ 問 13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)

1. 利用している 2. 利用していない

● 問 13 で「2.」を回答した場合は、問 14 も調査してください。

★ 問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない | 2. 本人にサービス利用の希望がない |
| 3. 家族が介護をするため必要ない | 4. 以前、利用していたサービスに不満があった |
| 5. 利用料を支払うのが難しい | 6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない |
| 7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため | |
| 8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない | 9. その他 |

● 問2で「2.」「5.」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方にB票へのご回答・ご記入をお願いしてください。

● 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

B票 主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. フルタイムで働いている | 問2～問5へ |
| 2. パートタイムで働いている | |
| 3. 働いていない | 問5(裏面)へ |
| 4. 主な介護者に雇われないと、わからない | |

※「パートタイム」とは、「1 週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

- 特に何もない
- 介護のために、「労働時間(就業免除、短時間勤務、遅出・早退・中抜け等)」しながら、働いている
- 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取っている、働いている
- 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
- 主な介護者に雇われないと、わからない

★ 問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない | 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 |
| 3. 制度を利用しやすい職場づくり | 4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など) |
| 5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど) | 6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供 |
| 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 | 8. 介護をしている従業員への経済的な支援 |
| 9. その他 | 10. 特にない |
| 11. 主な介護者に雇われないと、わからない | |

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けてい

3

4

そうですか(1つを選択)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 問題なく、続けていく | 2. 問題はあるが、何とか続けていく |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に雇われないと、わからない | |

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

【身体介護】

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べるとき) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 衣だしなみ(衣服・着替え等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移動・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 悪寒面での対応(感冒薬、スプレー等) | |

【生活援助】

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な手続き | |

【その他】

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に雇われないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

5

令和7年度 泉南市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
在宅介護実態調査 調査結果報告書

発行：泉南市 福祉保険部 長寿社会推進課
〒590-0592 泉南市樽井一丁目1番1号
電話：072-483-8254
発行年月 令和8(2026)年3月